取扱説明書

コンパクトコンポーネントMDシステム

型名 NX-DV5-S

- 「ルート・フォー」とは…
  [Route 4]：4つの音のルートでリアルなサラウンド効果を発揮する。
  [Root 4]：√4＝2 つまり2chのステレオ音源をルーツにした高音質。
  という2つの意味を込めたビクターの新音場技術の名称です。

MDLP

お買いあげいただき、ありがとうございます。

⚠ご使用の前に

この**「取扱説明書」**をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に4～7ページの「安全上のご注意」は必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

省エネ設計

省エネ回路により本体部は、
電源待機時　消費電力 0.8 W

LVT1308-001B

目　次

はじめに

準備

基本操作

ラジオを聞く

ディスクの再生

サラウンドの設定と調節

MDを聞く

他の機器の音声を聞く　ページ

録音する　ページ

MDを編集する　ページ

タイマーを使う　ページ

知っておいてほしいこと　ページ

はじめに

商標と著作権

安全上のご注意 —はじめにお読みください—

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。
絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告

この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示しています。

⚠ 注意

この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「傷害を負ったり物的損害が想定される」内容を示しています。

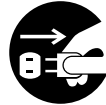
• 絵表示の説明

注意をうながす記号

一般的注意　感電

行為を禁止する記号

禁止　分解禁止　水ぬれ禁止

行為を指示する記号

一般的指示　電源プラグを抜く

⚠ 警告

万一、次のような異常が発生したときはすぐ使用をやめる。

- 煙が出ていたり、へんなにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ってしまったとき
- 落としたり、破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

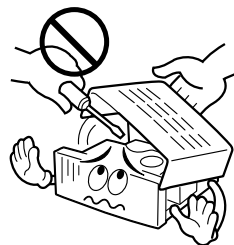
電源プラグを抜く

すぐに電源を「切」にし、電源プラグをコンセントから抜く。

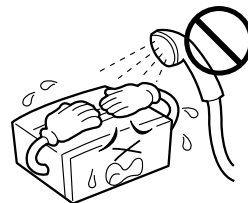
異常が発生したまま使用していると、火災や感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

分解や改造をしない。カバーを外さない。

火災や感電の原因となります。内部の点検や修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

分解禁止

風呂場やシャワー室では使用しない。

本機の中に水が入ると、火災や感電の原因となります。

水場での使用禁止

⚠ 警告

本機の中に物を入れない。

通風孔やディスク挿入口などから、金属物や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。特に小さいお子様のいるご家庭では注意してください。

電源コードを傷つけない。

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。特に、次のことに注意してください。

- 電源コードを加工しない
- 電源コードを無理に曲げない
- 電源コードをねじらない
- 電源コードを引っ張らない
- 電源コードを熱器具に近づけない
- 電源コードの上に家具などの重い物をのせない

電源プラグは、根元まで確実に差し込む。

差し込みが不完全ですと、発熱したりほこりが付着して火災や感電の原因となります。

また、たこ足配線も、コードが熱を持ち危険ですのでしないでください。

電源プラグは定期的に清掃する。

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを乾いた布で取ってください。

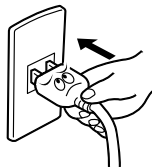
本機の上に水の入った容器を置かない。

花びん、化粧品、薬品など水の入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に水が入った場合は、火災や感電の原因となります。

水ぬれ禁止

雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグに触れない。

感電の原因となります。

接触禁止

表示された電源電圧（交流 100 ボルト）で使用する。

表示された電源電圧以外では、火災・感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。

This set is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

本機の包装に使用しているポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かない。

頭からかぶると窒息の原因となります。

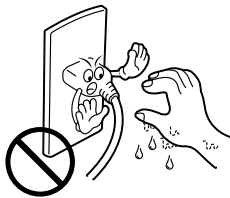
⚠ 注意

電源プラグは、コードの部分を持って抜かない。

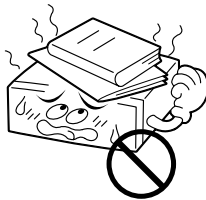
電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。電源プラグを持って抜いてください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

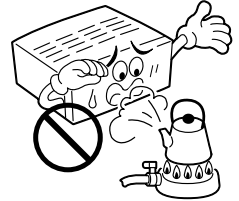
感電の原因となることがあります。

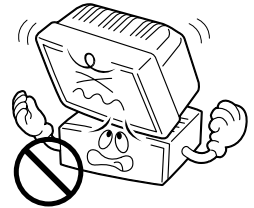
濡れ手禁止

通風孔をふさいだり、風通しの悪い場所で使用しない。

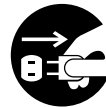
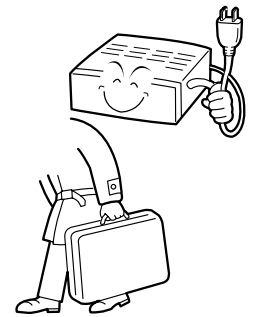
本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。特に次のことに注意してください。

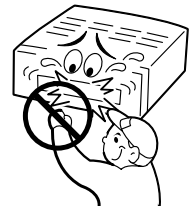
- あお向けや横倒し、逆さまにしない
- 本箱、押し入れなど風通しの悪い狭い所に押し込まない
- テーブルクロスを掛けない
- 本や雑誌などをのせない
- じゅうたんや布団の上に置かない
- 設置するときは、壁などから10 cm以上離す

置き場所に注意する。

次のような所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たる所
- 湿気やほこりの多い所
- 熱器具の近くなど高温になる所
- 窓ぎわなど水滴の発生しやすい所

本機の上に重い物を置かない。

テレビなどの重い物や本機からはみ出るような大きな物を置くと、バランスがくずれて倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。安全および節電のため、電源プラグを抜いてください。

電源プラグを抜く

可動部の作動中には無理な操作を加えない。

一つの動作が終了してから、次の操作に移ってください。誤動作や故障の原因となることがあります。

⚠ 注意

お手入れをするときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。電源プラグがコンセントに接続されていると、感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜く

移動するときは、接続コード類や電源プラグを抜く。

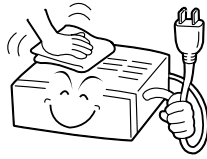
接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

はじめから音量を上げすぎない。

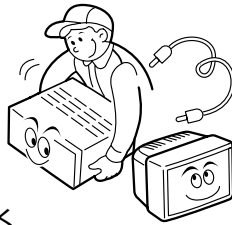
突然大きな音が出て、スピーカーを破損したり、聴力障害の原因となることがあります。

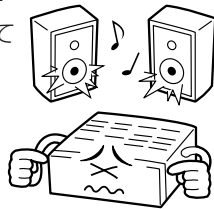
電源を切る前に音量（ボリューム）を下げておき、電源が入ってから徐々に上げてください。

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないようにする。

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響をおよぼすことがあります。

ディスク挿入口に、手を入れない。

けがの原因になることがあります。特に小さなお子様のいるご家庭では注意してください。

手を挟まれないよう注意

3年に一度は内部の清掃を販売店に依頼する。

内部にほこりがたまったまま使用すると、火災の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。

電池の取り扱いに注意する。

電池の取り扱いを誤ると、電池が破裂したり、液もれして、火災・けがや周囲を汚す原因となることがあります。次のことに注意してください。

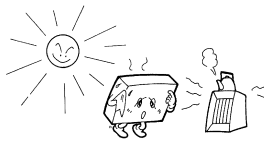
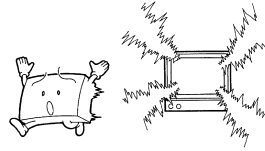
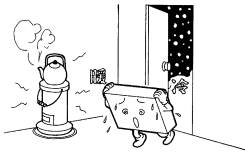
- 指定以外の電池を使用しない
- 電池のプラス⊕とマイナス⊖を間違えない
- 電池のプラス⊕とマイナス⊖をショートさせない
- 電池を加熱しない
- 分解しない
- 火や水の中に入れない
- 新しい電池と一度使用した電池を混ぜて使用しない
- 種類の違う電池と混ぜて使用しない
- 乾電池は充電しない
- 長期間使わないときは、電池を取り出しておく

もし、電池が液もれをしてしまったときは、電池ケースについた液をよく拭きとってください。万一、もれた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

使用上のご注意　ーはじめにお読みくださいー

本機やディスク、MDの置き場所について

故障などを防止するために、次のような場所には置かないでください。

- 湿気やほこりの多い所
- 風通しの悪い狭い場所
- 直射日光の当たる所
- 熱器具の近く
- テレビや他のアンプ、チューナーなどのすぐそば
- バランスの悪い不安定な所
- 極端に寒い所

- 寒い所から急に暖かい部屋へ移動した後しばらくの間
- 磁気を発生する所
- OA機器やけい光灯のすぐそば
- 振動の激しい所

- 本機の使用環境温度は、3℃～ 35℃です。この範囲外の温度で使用すると、正しく動作しなかったり故障の原因となることがあります。

ステレオを聞くときのエチケット

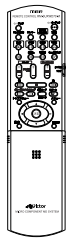
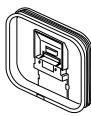
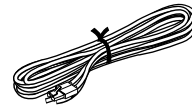
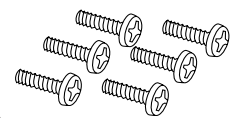
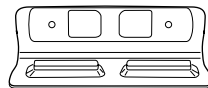
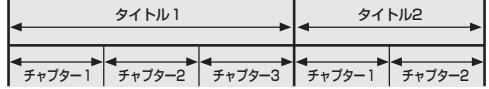
ヘッドホンをご使用になるときには、耳を刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

■ ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。
特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓を閉めたりヘッドホンをご使用になるなどお互いに気を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

露がついたら

次のようなとき、本機のレンズに露（水滴）が付いて正しく演奏できない場合があります。

- 暖房を始めた直後
- 湯気や湿気の多いところに置いてあるとき
- 冷えた所から急に暖かい部屋に移動したとき
このようなときは、電源を「入」にしたまま約1～2時間待ってから、ご使用ください。

付属品の確認　お使いになる前にお確かめください。

本機で再生できるディスクについて

再生できるディスクの種類

ディスクの種類とマーク	ディスクの構成	備　考
DVDビデオ (DVD VIDEO)	タイトル1（チャプター1、チャプター2、チャプター3）／タイトル2（チャプター1、チャプター2）	DVDビデオフォーマットで記録され、**ファイナライズ処理された**DVD-R/RWディスクを含む
DVDオーディオ (DVD AUDIO)	グループ1（トラック1、トラック2、トラック3）／グループ2（トラック1、トラック2）	DVDオーディオにはボーナスグループが収録されているものがあります。ボーナスグループの再生について詳しくは **35** ページをご覧ください。
スーパービデオ CD/ビデオCD (Video CD / COMPACT disc DIGITAL VIDEO / COMPACT disc SUPER VIDEO)	トラック1、トラック2、トラック3、トラック4、トラック5	ビデオCDフォーマット、スーパービデオCDフォーマットで記録され、**ファイナライズ処理された**CD-R/RWディスクを含む
オーディオCD (COMPACT disc DIGITAL AUDIO)	＊ディスクによっては「インデックス」と呼ばれる頭出しマークがトラックに記録されているものもありますが、本機は、「インデックス」による頭出し機能には対応していません。	オーディオCDフォーマットで記録され、**ファイナライズ処理された**CD-R/RWディスクを含む

次のディスクも再生できます。

- ISO9660フォーマット(MP3/WMAファイルなど音楽･映像ファイルを再生するとき)で記録されたCD-R/RWディスク
- 次のディスクは音声のみ再生できます。
  CD-G(グラフィック)、CD-EXTRA(エクストラ)、CD TEXT(テキスト)、およびMIX-MODE CD

DVDビデオのリージョン番号＊(ローカル番号)について

本機が再生できるのは、リージョン番号表示に「ALL」または「2」が含まれているディスクです。

再生が可能なリージョン番号表示の例

ディスクのジャケットもご参照ください。

＊ リージョン番号は、国や地域ごとに割り当てられた番号です。

テレビ方式について

本機はNTSCに適合しています。
NTSC以外のテレビ方式(PALなど)のディスクは、NTSC方式に変換して再生します。
ただし、ディスクによっては映像がコマ送りになったり、画面のアスペクト比(縦横比)が変わるなど正しく再生されないことがあります。

音声記録方式

本機で再生できるディスクに記録されているデジタル音声には、次の5種類があります。

- ドルビーデジタル(Dolby Digital)
- DTS (Digital Theater System)
- リニアPCM
- MPEG(Moving Picture Expert Group)オーディオ
- MLP(Meridian Lossless Packing)

各フォーマットについては、用語集(➡**85**ページ)をご覧ください。

再生できないディスク

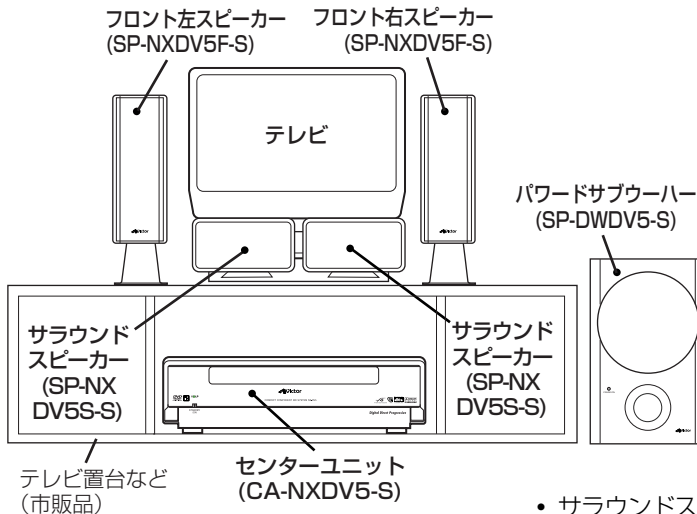
- DVD-ROM
- DVD-RAM
- VRフォーマットで記録したDVD-R/RW
- CD-ROM　• SACD　• フォトCD

上記のディスクは再生できません。
誤って再生すると、ノイズが発生することがあります。また、発生したノイズによってスピーカーを破損することがあります。

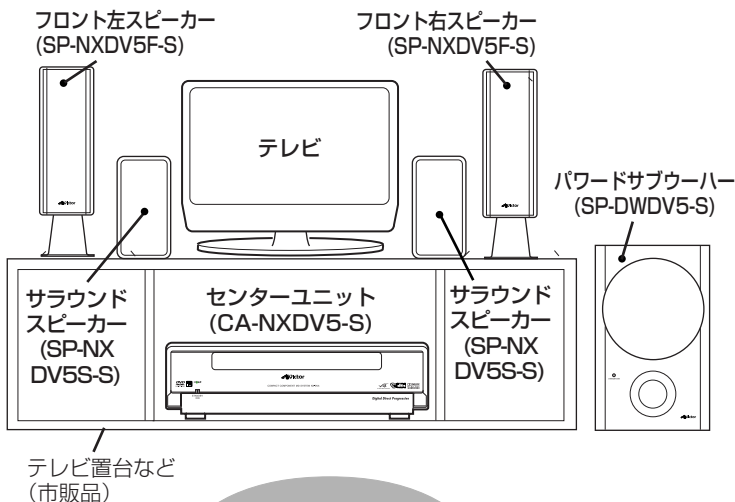
本機の置きかた

本機は、4チャンネル新音場フロントサラウンド機能〔√4(ルート・フォー)〕の搭載で、フロント4本のスピーカーだけで臨場感あるバーチャルサラウンドがお楽しみいただけます(下図のパターン1)。
√4(ルート・フォー)以外にパターン2とパターン3の置きかたが選べます。

パターン 1

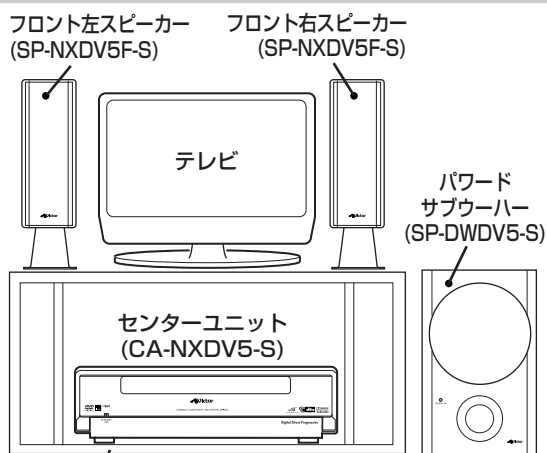
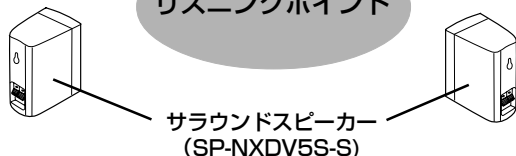
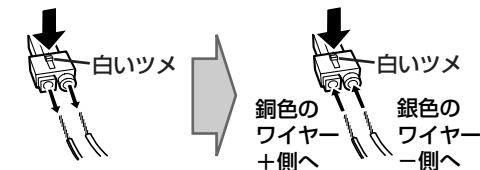
この置きかたにしたときは、「スピーカーポジションを設定する」(➡**20**ページ)で「**F1**」を選びます。

- サラウンドスピーカーを付属のスタンドに取り付けてから、中央に設置します。
  取り付けかたは、「サラウンドスピーカーをスタンドに取り付ける」(➡**12** ページ)をご覧ください。

パターン 2

この置きかたにしたときは、「スピーカーポジションを設定する」(➡**20**ページ)で「**F2**」を選びます。

- フロントスピーカーの近くにサラウンドスピーカーを設置します。

フロントスピーカーのスタンドの取り付けは、**12**ページ「フロントスピーカーをスタンドに取り付ける」をご覧になり、正しく取り付けてください。

パターン３

この置きかたにしたときは、「スピーカーポジションを設定する」(➡**20**ページ)で「**R**」を選びます。

- リスニングポイントのやや後ろにサラウンドスピーカーを設置します。
  この場合、サラウンドスピーカーのコードを長さ10mのもの(付属品)と付け換えます。

プラグの白いツメを押しながら、ワイヤーを抜く

プラグの白いツメを押しながら、10mのコードを接続する

- サラウンドスピーカーを置台などに置いて設置するときは、置きかたに合わせてすべり止めのフットを張ってください(➡**12**ページ「サラウンドスピーカーにすべり止めのフットを張る」を参照)。
- サラウンドスピーカーを壁に掛けて設置するときは、左上の「サラウンドスピーカーを壁に掛けて設置する場合のご注意」をご覧ください。

フロントスピーカーとサラウンドスピーカーを壁に掛けて設置する場合のご注意

フロントスピーカーとサラウンドスピーカー背面のフックを使って、壁や柱などに掛けて設置することもできますが、次のことにご注意ください。

- 取り付け用のネジ(木ネジなど)は、十分に強度の得られるネジをお客様でご用意ください。
- 強度や取り付けが不十分な場合、落下により被害を及ぼしたり、使用している機器などを損傷する恐れがあります。壁の強度など、お客様で判断できないときは、必ず専門の業者にご相談ください。
- 取り付け位置に十分考慮してください。日常生活で邪魔になる位置、体や頭がぶつかりやすい位置などに取り付けると、ケガや器物の破損をまねく恐れがあります。

表示窓のスピーカー表示について

スピーカー表示には、入力信号と使用中のスピーカーが表示されます。

- SW：サブウーハー
  ヘッドホン使用時以外は常に点灯
- L：左フロントスピーカー信号入力時に点灯
- C：センタースピーカー信号入力時に点灯
- R：右フロントスピーカー信号入力時に点灯
- LFE：LFE信号入力時に点灯
- LS：左サラウンドスピーカー信号入力時に点灯
- S：モノラルサラウンド信号入力時に点灯
- RS：右サラウンドスピーカー信号入力時に点灯

L、C、R、LS、LRの下にある線が点灯しているときは、そのスピーカーから音声が出ています。

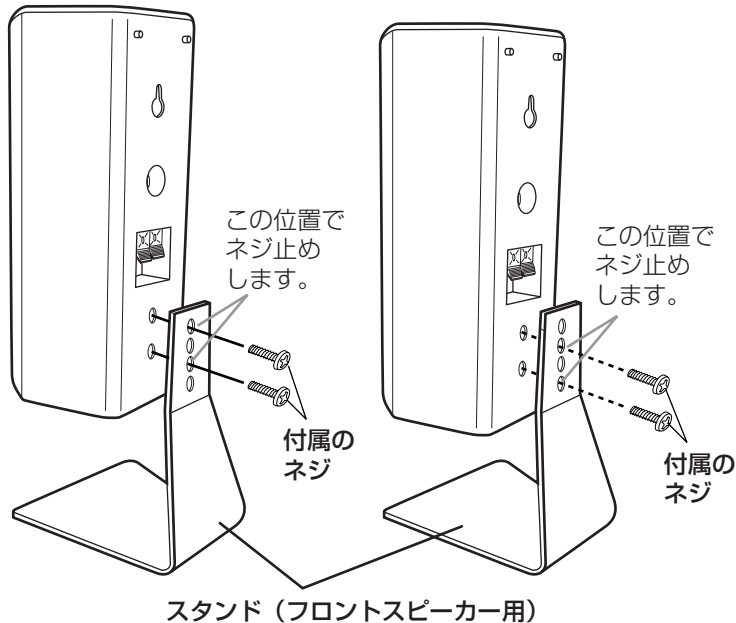
- **本機のスピーカーは、防磁設計(JEITA仕様)になっておりますが設置方法によっては、テレビに色ムラを生ずることがあります。次の点にご注意ください。**
  1. **必ずテレビの主電源スイッチを「切」にしてから設置する。**
  2. **テレビの種類によって万一、色ムラが生じたときはテレビとスピーカーを10cm以上離す。そのあと、テレビの主電源スイッチをいったん切ってから、30分程度待って「入」にする。**

スタンドなどの取り付け

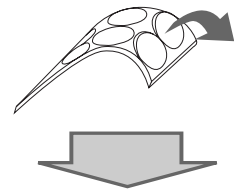
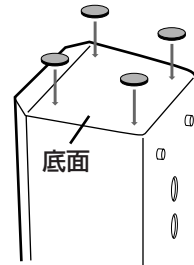
フロントスピーカーをスタンドに取り付ける

Ⓐまたは Ⓑのいずれかの位置でフロントスピーカーにスタンドを取り付けます。
Ⓐよりも Ⓑの方がスピーカーの高さが低くなります。
1本のスピーカーに付属のネジ2本で、しっかりと止めます。

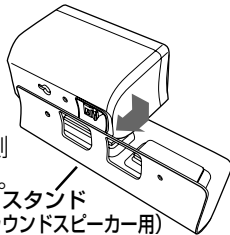
Ⓐ 高さが282mm になります。

Ⓑ 高さが272mm になります。

• フロントスピーカーの上に重い物を乗せないでください。

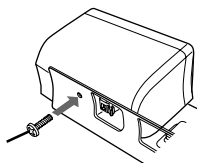
スタンドを取り付けないでフロントスピーカーを使用するときは、底面に４個張ります。

図のようにフットシール（付属品）をはがす

フロントスピーカーの底面に4個ずつフットを張る

サラウンドスピーカーをスタンドに取り付ける（スピーカーポジションがF1のとき）

1 **図のようにサラウンドスピーカーをスタンド（付属品）に置く**

スピーカー端子が内側になるように置きます。

2 **付属のネジで、スタンド背面からスピーカーを固定する**

＋ドライバーを使います。

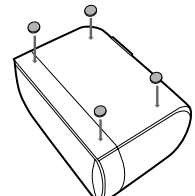
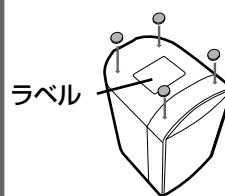
付属のネジ

同様に2本目のサラウンドスピーカーもスタンドに固定します。

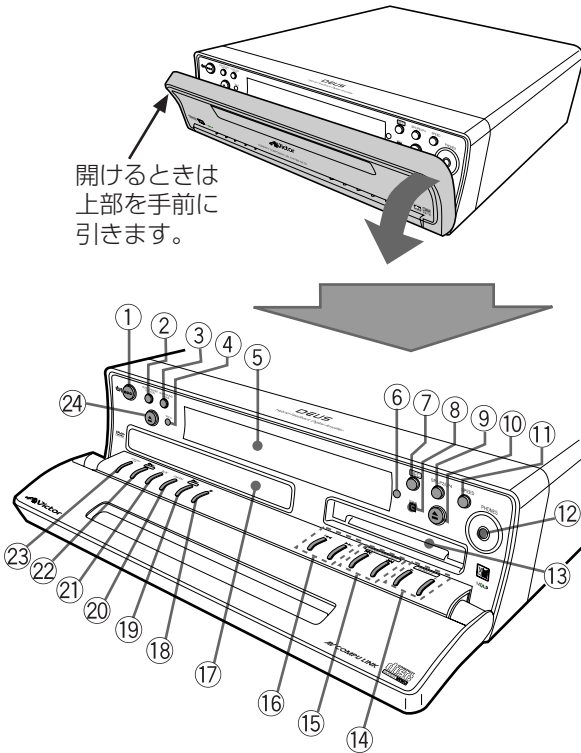
サラウンドスピーカーにすべり止めのフットを張る（スピーカーポジションがF2またはRのとき）

1 **図のようにフットシール（付属品）をはがす**

2 **サラウンドスピーカーの底面に4個ずつフットを張る（縦置きまたは横置きを選ぶ）**

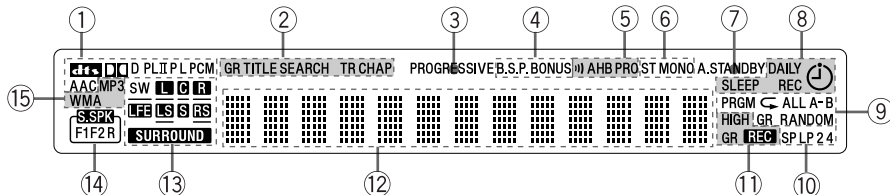
• 縦に置くとき

• 横に置くとき

各部の名前 ー(　)内の数字のページに説明がありますー

本　体

① ⏻/I (電源) (20, 24)
② SURR SPEAKER POSITION (20)
③ SURROUND MODE (42)
④ DISC IN ランプ（ディスク）（28）
⑤ 表示窓
⑥ リモコン受光部(19)
⑦ REC (52～55)
⑧ DISC IN ランプ（MD）（44）
⑨ SP/LP2/LP4 (51)
⑩ ⏏（MD取り出し）（24, 45）
⑪ SPEED(53)
⑫ PHONES（ヘッドホン）端子
ミニプラグ付ヘッドホン（別売り）をつなぎます。プラグを接続すると、「HEADPHONE」が数秒間表示されスピーカーから音は出なくなります。
⑬ MD挿入口 (44)
⑭ VOLUME+、− (24)
⑮ GROUP/TITLE SKIP I<<、>>I (31, 41, 47)
⑯ I◀◀、▶▶I
- ラジオ (26, 55)
- ディスク (31, 41)
- MD (45)

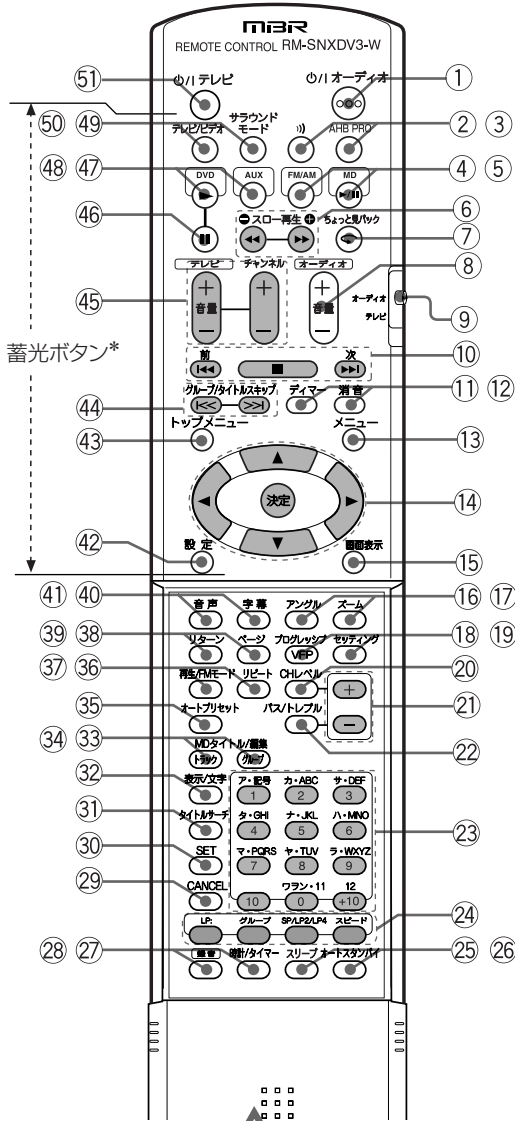
⑰ ディスクトレイ (28)
⑱ ■（停止）
- ディスク (30)
- MD (45)

⑲ ▷/II MD (44)
⑳ FM/AM (26, 27)
㉑ AUX (49)
㉒ ▷/II DVD/CD (28)
㉓ STANDBY/ONランプ (18, 24)
㉔ ⏏（ディスク取り出し）（24, 28）

表示窓

① デジタル音声フォーマット表示 (42)
② ディスク再生表示
③ PROGRESSIVE表示 (23)
④ B.S.P.表示 (34)/BONUS表示 (35)
⑤ 音質効果表示 (25)
⑥ ST/MONO表示 (27)
⑦ A. STANDBY表示 (70)
⑧ タイマー表示 (68, 69)
⑨ 再生モード表示 (36, 37, 46, 47)
⑩ MDの再生/録音モード表示 (44, 50, 51)
⑪ 録音表示 (52)
⑫ 情報表示部
⑬ スピーカー表示(11)/SURROUND表示(42)
⑭ スピーカーポジション表示 (20)
⑮ 音楽ファイル表示 (41)

各部の名前 (つづき)ー(　)の数字のページに説明がありますー

リモコン(RM-SNXDV3-W)

* **蓄光ボタン**
範囲内の白いボタンは、昼間の光や蛍光灯の光などを蓄え、暗闇でも薄く発光する蓄光ボタンになっています。

① **⏻/I オーディオ (電源) (24)**
本機の電源の「入⟷切」に使います。
② **🔊 (クッキリボイス) (25)**
③ **AHB PRO (25)**
④ **FM/AM(26, 27, 54)**
⑤ **MD ►/II (44〜47,55)**
⑥ **◄◄ (⊖)、►► (⊕) (31, 32, 45)**
⑦ **ちょっと見バック (32)**
⑧ **オーディオ音量 +、− (24)**
本機の音量を調節するとき使います。
⑨ **オーディオ/テレビ切換スイッチ (15, 75)**
本機を操作するときは、必ず「**オーディオ**」側に戻しておきます。
⑩ **I◄◄ (前)、►►I (次)**
- **ラジオ (26, 27)**
- **ディスク (31, 37, 41)**
- **MD (45〜48, 57, 60〜64)**
- **時計合わせ/タイマー (22/68, 69)**

■ (停止)
- **ディスク (30)**
- **MD (45)**

⑪ **ディマー (25)**
⑫ **消音 (25)**
⑬ **メニュー (28)**
⑭ **カーソル (▲/▼/◄/►)、決定 (26, 28, 38)**
⑮ **画面表示 (38)**
⑯ **アングル (33)**
⑰ **ズーム (34, 41)**
⑱ **プログレッシブ/VFP (23, 35)**
⑲ **セッティング (43)**
⑳ **CH (チャンネル) レベル (43)**
㉑ **+、− (25, 43)**
㉒ **バス/トレブル (25)**
㉓ **数字ボタン (22, 26, 27, 31, 45, 58)**
㉔ **MD録音設定ボタン**
- **LP: (51)**
- **グループ (51)**
- **SP/LP2/LP4 (51)**
- **スピード (53)**

㉕ **スリープ (67)**
㉖ **オートスタンバイ (70)**
㉗ **時計/タイマー (22, 68, 69)**
㉘ **録音 (52〜55)**
㉙ **CANCEL (キャンセル) (22, 37, 46, 48, 57)**
㉚ **SET (セット) (22, 27, 48, 57, 60〜66, 68, 69)**
㉛ **タイトルサーチ (48)**

パワードサブウーハー(SP-DWDV5-S)

㉜ **表示/文字 (25, 45, 48, 53, 58)**
㉝ **MDタイトル/編集グループ（56, 57, 62〜66）**
㉞ **MDタイトル/編集トラック（56, 57, 60〜63）**
㉟ **オートプリセット (27)**
㊱ **リピート (36, 41, 45)**
㊲ **再生/FMモード (27, 37, 46, 47)**
㊳ **ページ (34)**
㊴ **リターン (28)**
㊵ **字幕 (33)**
㊶ **音声 (33)**
㊷ **設定 (23, 71)**
㊸ **トップメニュー (28)**
㊹ **グループ/タイトルスキップ I<<、>>I (31, 35, 41, 47, 57, 64〜66)**
㊺ **テレビ操作ボタン**
- **音量 +、− (75)**
- **チャンネル +、− (75)**

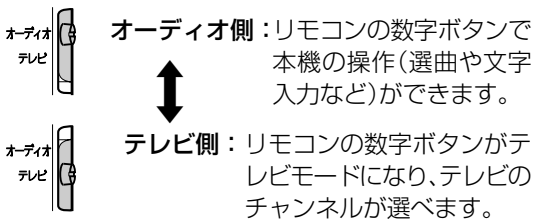
㊻ **II (ディスクの一時停止）(32)**
㊼ **AUX(49)**
㊽ **DVD ► (23, 28, 30, 32, 36, 37, 41)**
㊾ **サラウンドモード (42)**
㊿ **テレビ/ビデオ (75)**
(51) **⏻/I テレビ (電源) (75)**

リモコンについて

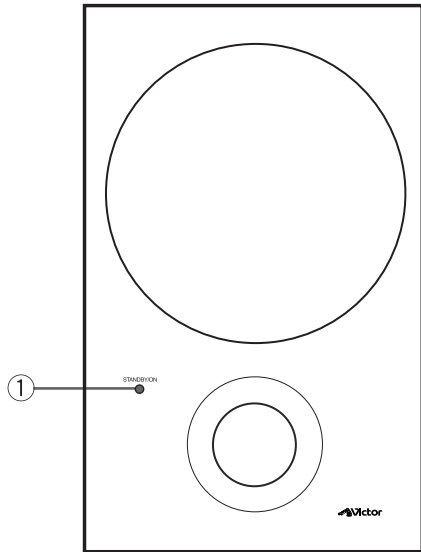
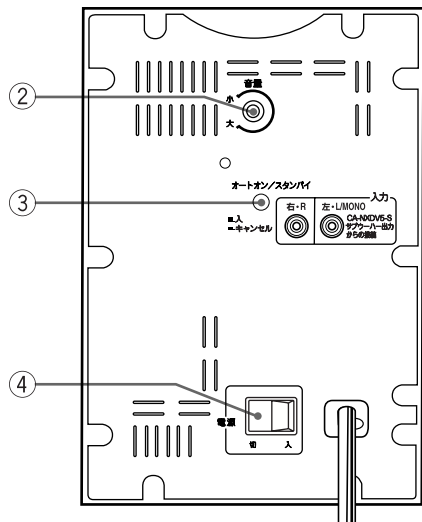
本機のリモコンを使ってテレビの操作ができます。詳しくは、**75**ページ「リモコンでテレビを操作する」をご覧ください。ビクター製以外のテレビをお使いのときは、「テレビのメーカーコードの設定」が必要です。

オーディオ/テレビ切換スイッチについて

オーディオ側：リモコンの数字ボタンで本機の操作(選曲や文字入力など)ができます。

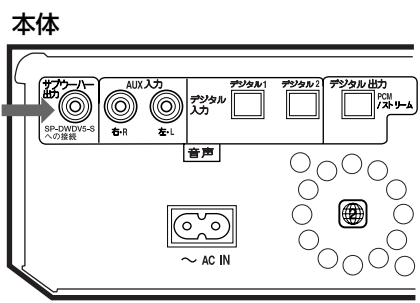
テレビ側：リモコンの数字ボタンがテレビモードになり、テレビのチャンネルが選べます。

ご注意

- オーディオ/テレビ切換スイッチを「テレビ」側にしてテレビの操作をした後は、必ずオーディオ/テレビ切換スイッチを「オーディオ」側に戻してください。戻さないと、数字ボタンで本機の操作ができません。

前面

背面

① **STANDBY/ONランプ (21)**
サブウーハーの電源がオンのときは緑色に点灯し、スタンバイ状態のときは赤色に点灯します。
② **音量つまみ (21)**
③ **オートオン／スタンバイスイッチ (21)**
④ **電源スイッチ (21)**

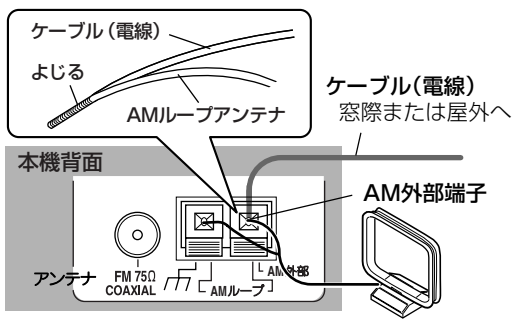
接　続　ー接続が終わるまで電源は入れないでください。ー

パワードサブウーハー(SP-DWDV5-S)の接続

付属のオーディオコードを使って、パワードサブウーハー(SP-DWDV5-S)を接続します。

付属のアンテナだけでうまく受信できないとき

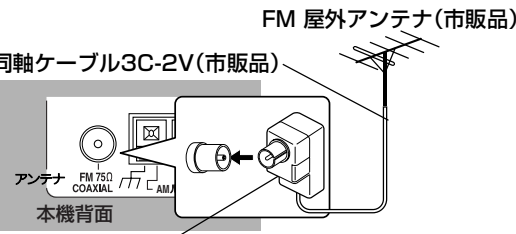
■ AM放送

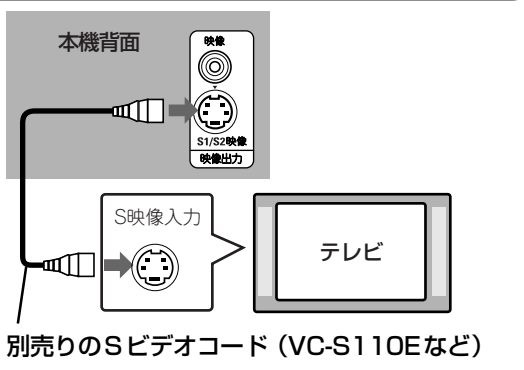
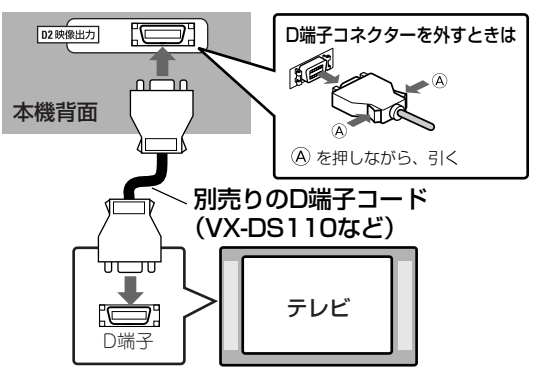
AM 外部端子に3m〜5mのケーブル(電線:市販品)を接続し、窓際や屋外になるべく高く水平に張ります。

AMループアンテナも一緒に接続しておきます。

■ FM放送

マンションなどの壁の共聴アンテナ端子を使います。

FM簡易型アンテナは外します。

市販の同軸ケーブルとアンテナコネクター(別売り)を用意してください。

電波状態によっては、FMフィーダーアンテナ:CN-511A(別売り)がアンテナコネクターと一緒にご利用になれます。

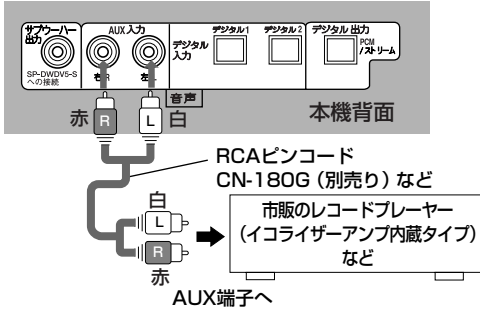
S映像入力端子付きテレビと接続する

D端子付きテレビと接続する

テレビがプログレッシブ対応のとき、「スキャンモードの切換」で「プログレッシブ」に設定する (➡23ページ)

- プログレッシブスキャン方式をお楽しみいただくためには、テレビのD端子がD2信号に対応している必要があります。
  詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

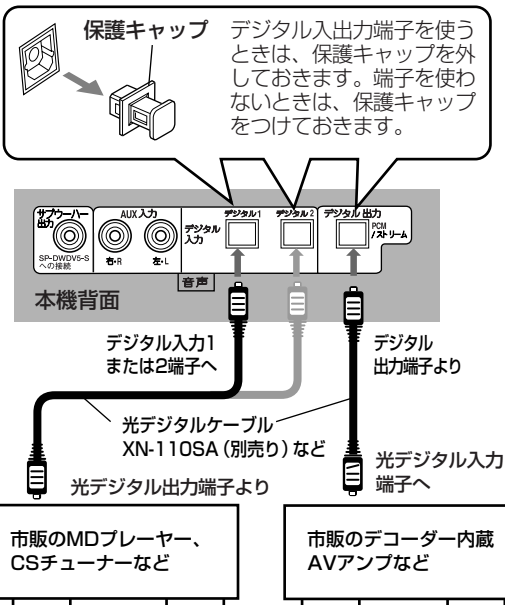
他の機器の接続　・ご使用になる機器の取扱説明書をよくお読みになり、正しく接続してください。

アナログ機器の接続

市販のイコライザー内蔵タイプのレコードプレーヤーなど、アナログ機器をAUX端子に接続します。

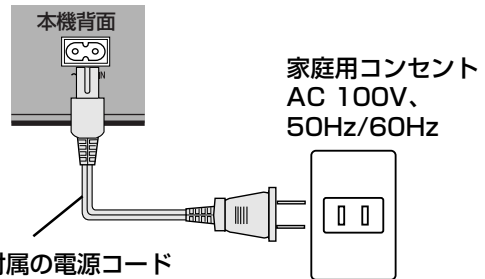
サブウーハー出力
AUX入力
デジタル入力
デジタル1
デジタル2
デジタル出力
PCM/ストリーム
SP-DWDV5-Sへの接続
音声
本機背面
赤 R
L 白
RCAピンコード
CN-180G（別売り）など
白
赤
市販のレコードプレーヤー（イコライザーアンプ内蔵タイプ）など
AUX端子へ

デジタル機器の接続

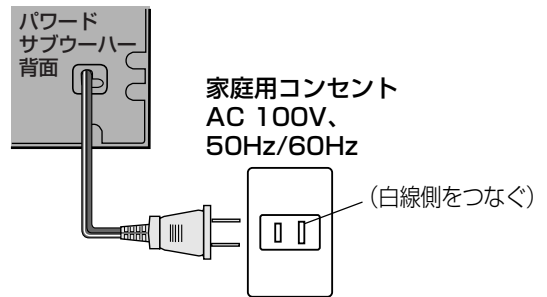
別売りのMDプレーヤーやCSチューナーなどのデジタル再生機器はデジタル入力端子に接続します。別売りのデコーダー内蔵AVアンプなどは、デジタル出力端子に接続します。ドルビーデジタルデコーダーまたはDTSデコーダー、デコーダー内蔵AVアンプと接続すると、高音質のサラウンド再生ができます。

- デジタル出力端子に接続した機器に応じて、出力するデジタル音声の種類を設定してください。（➡**72**ページ参照）

AVコンピュリンク端子について

接続するテレビまたは機器がビクター製で、AVコンピュリンクIIまたはIII 端子があるときは、「AVコンピュリンクの活用」（➡**76**ページ）をご覧ください。

電源の接続　すべての接続が終了してから

本体の電源コードの接続

電源コードをコンセントに差し込むと本体のSTANDBY/ONランプが赤く点灯します。

パワードサブウーハーの電源コードの接続

お知らせ

- パワードサブウーハーの電源コードには、白いマーキングが片側に入っています。これは、電源コードの極性を合わせることによって、より良い音質をえるためのものです。コンセントの差し込み口の長い方（アース側）にマーキングがくるように接続します。
- 形状の違いによる故障や事故を防止するため、指定以外の電源コードは絶対に使用しないでください。
- 付属の電源コードは、本機以外の機器には使用しないでください。
- 本体の電源コードを紛失したり断線したときは、お買い上げの販売店で別売りの電源コード：CN-325Aをお買い求めください。
- 長期間使用しないときは、コンセントから電源コードを抜いておいて安全および節電に心がけてください（本体の場合、電源が切れていても、電源コードが接続されていると約0.8Wの電力が消費されます）。

映像端子について

S映像端子について

- S映像は、映像を輝度信号（Y）と色信号（C）に分けた映像信号です。映像入力端子に接続した場合（黄色のプラグ）より、色のにじみの少ない鮮明な映像がお楽しみいただけます。
- 本機のS映像出力端子は、S1およびS2映像信号に対応しています。S映像信号にフルモード（縦長の映像）を自動判別するための識別信号を合わせた信号です。接続したテレビがS1またはS2映像信号対応機種のとき、この信号を検知すると自動的に画面サイズを変更します。

D端子について

- D端子は、コンポーネント映像信号と同じ信号（映像を色信号2系統と輝度信号1系統に分けた信号）を扱いますが、コード1本で接続でき、送られる映像の信号フォーマットや縦横比（アスペクト比）の検出信号をもっているのが特長です。色の発色がよく、S映像よりも高い映像品位をお楽しみいただけます。
- 本機のD端子は、D2信号まで対応しています。

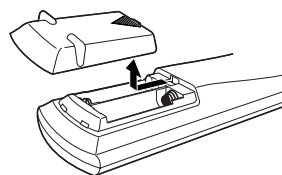
ご注意

- **スピーカーの極性（＋と－）を逆に接続すると、ステレオ感や音質がそこなわれますのでご注意ください。**
- **スピーカーコードの＋と－をショートさせないでください。故障の原因となります。**

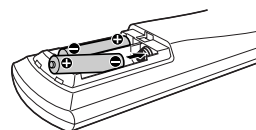
リモコンの準備

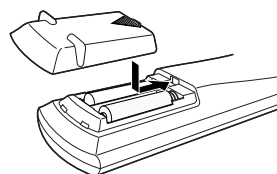
リモコンに乾電池を入れる

単３形の乾電池２本をリモコンに入れます。

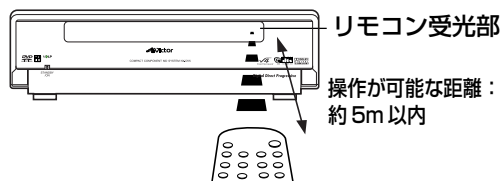
1 裏ぶたをあける

2 乾電池を入れる

単3形乾電池を2本入れます。

リモコン内部の表示に極性を合わせ、⊕/⊖を正しく入れてください。

3 裏ぶたをしめる

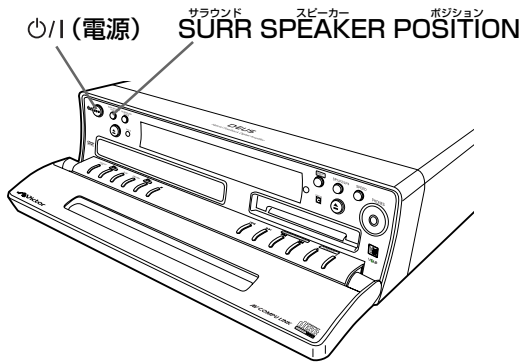
「カチッ」と音がしてしまります。

- 付属の電池は動作確認用です。早めに新しい電池と交換してください。
- 一度使用した電池と新しい電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の違う電池（アルカリとマンガン）と混ぜて使用しないでください。
- 長期間使用しないときは、電池を取り出しておいてください。液漏れなどの原因となります。

リモコンの操作

リモコンを使うときは、本体正面に向けて正しく操作してください。極端に斜めの方向から操作したり手前に障害物があると、信号が届かなくなります。

- 操作範囲が狭くなったり、本体に近づけないと操作できなくなったときは、新しい乾電池と交換してください。
  交換するときは、2本とも同じ種類の新しい単3形乾電池と交換してください。
- リモコンを落としたり、強い衝撃をあたえないでください。

スピーカーポジションを設定する

サラウンドスピーカーの置きかた(➡**10** ～**11**ページ「本機の置きかた」参照)に合わせてスピーカーポジションの設定をします。

- **電源「切」のとき、本体を使って設定します。**
- DISPLAY OFF(➡**25**ページ参照)になっているときは、DISPLAY ONに設定してから行います。

準備

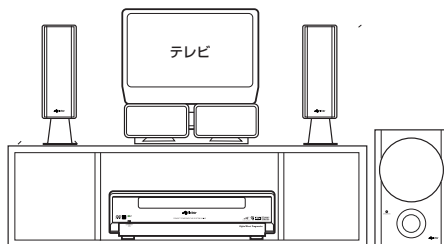
本機の電源が「入」のときは、
本体の ⏻ を押して電源を「切」にします。

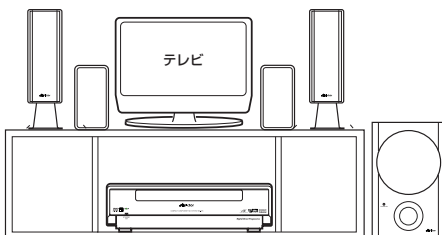
1 SURR SPEAKER POSITION **をくり返し押して、スピーカーポジションを選ぶ**

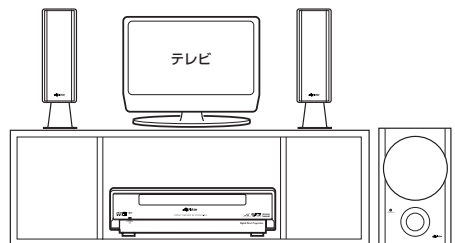
表示窓にスピーカーポジションが次のように表示されます。

S.SPK POS. F1：下のパターン1の置きかたのとき選びます。
↓
S.SPK POS. F2：下のパターン2の置きかたのとき選びます。
↓
S.SPK POS. R ：下のパターン3の置きかたのとき選びます。

- 表示窓の表示は、数秒後に消えます。

パターン１ スピーカーポジション➡「F1」

- **サラウンドスピーカーをセンターに置いて使用するとき**
（マルチチャンネルのセンター用の音声は、センターのサラウンドスピーカーに振り分けて鳴ります）

パターン２ スピーカーポジション➡「F2」

- **サラウンドスピーカーをフロントスピーカーの近くに設置するとき**
（マルチチャンネルのセンター用の音声は、左右のサラウンドスピーカーに振り分けて鳴ります）

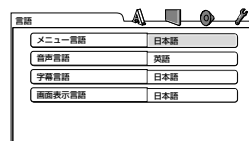
パターン３ スピーカーポジション➡「R」

リスニングポイント

- **サラウンドスピーカーをリアに置いて使うとき**
（マルチチャンネルのセンター用の音声は、フロントスピーカーから鳴ります）

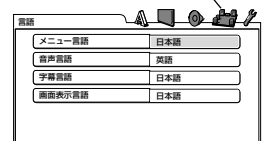
スピーカーポジションを「R」にすると、初期設定画面(➡**71**ページ参照)にスピーカー設定が追加されます。

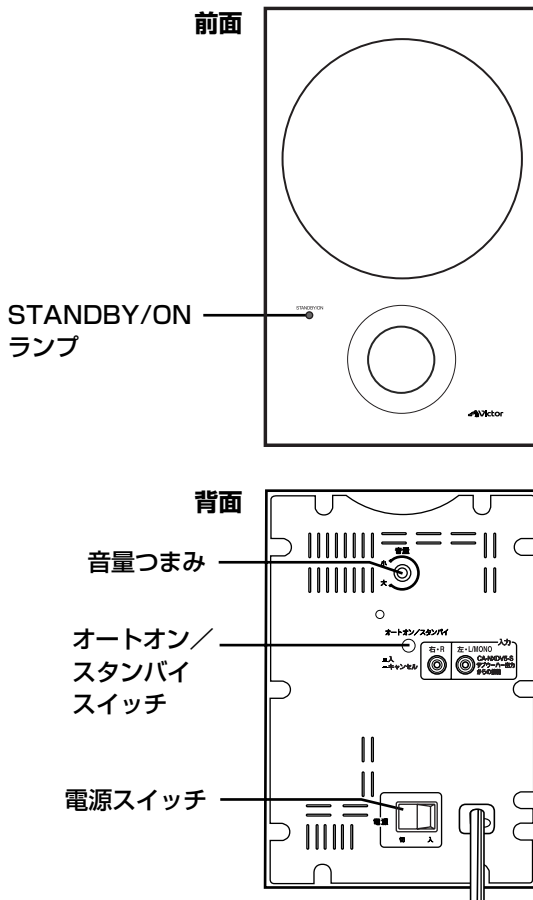
スピーカー設定のアイコン

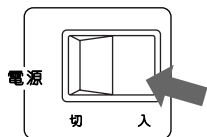
言語

メニュー言語	日本語
音声言語	英語
字幕言語	日本語
画面表示言語	日本語

スピーカーポジションが「R」以外の初期設定画面

言語

メニュー言語	日本語
音声言語	英語
字幕言語	日本語
画面表示言語	日本語

スピーカーポジションが「R」の初期設定画面

パワードサブウーハーの設定をする

パワードサブウーハーの電源を入れる

1 **電源スイッチの「入」側を押して、電源を入れる**

- 前面のON/STANDBYアンプが緑色に点灯します。
  ON/STANDBYランプについては、右の説明をご覧ください。

サブウーハーの電源を完全に切るときは、電源スイッチを押して電源を「切」にするか、電源コードをコンセントから抜いてください。

パワードサブウーハーの音量を調節する

解説 フロントスピーカーとのバランスをとるために音量を調節します。

1 **サブウーハーの音量つまみを「小」の位置にする**

2 **本機でディスクを再生し、通常聞く程度の音量にする**

- 「基本操作」(➡**24**ページ参照)をご覧ください。

3 **サブウーハーの音量つまみを回して、フロントスピーカーの音量とバランスの取れる位置に合わせる**

- サブウーハーとフロントスピーカーのバランスをとったあとは、本体の音量調節でサブウーハーの音量も調節されます。

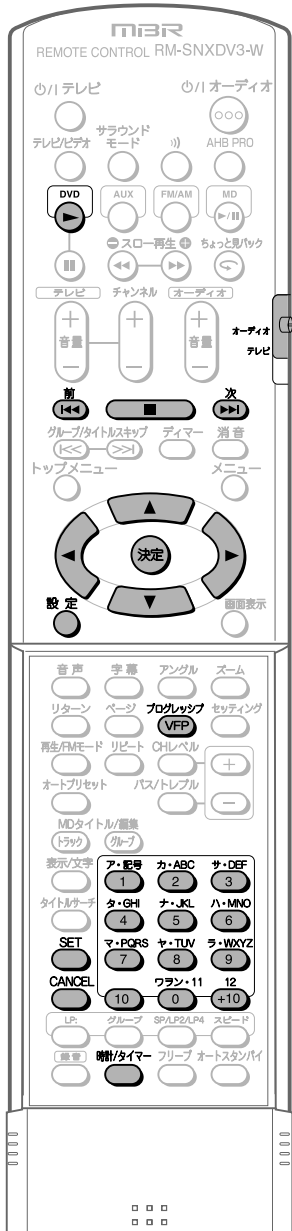
オートオン／スタンバイ機能

通常は、オートオン／スタンバイ機能は「■ 入」の状態（お買い上げ時の状態）で使います。
オートオン／スタンバイ機能が「■ 入」のときは、サブウーハーへの無音信号状態が約10分続くと、スタンバイ状態になり、ON/STANDBYランプが赤色になります。
サブウーハーに音声信号が入力されると、自動的に電源がオンになりON/STANDBYランプが緑色になります。

- 小音量での再生や信号レベルが低いソフトのときなど、再生中にスタンバイ状態になることがあります。このようなときは、サブウーハー背面の**オートオン／スタンバイスイッチ**を押し込み「▬ **キャンセル**」にしてください。

ご注意

- **オートオン／スタンバイ機能が「■ 入」のときでも、本体の音量が「0」または音声信号が極端に小さいときは、自動的にサブウーハーの電源がオンに切り換わりません。**

準備

「オーディオ」側にしておきます。

時計を合わせる

解説

24時間表示の時計を合わせます。

- **電源が「入/切」どちらの状態でも設定できます。**

例:午前10時10分に合わせるとき

1 時計/タイマー **を押す**

「時」表示が点滅

2分以内に

2 次 ▶▶I **(または** 前 I◀◀ **)で「時」を合わせてから** SET **を押す**

次 ▶▶I **(または** 前 I◀◀ **)で「分」を合わせてから** SET **を押す**

- ▶▶I (またはI◀◀)を押したままにすると、連続して変わります。
- ▶▶I (またはI◀◀) の操作はカーソル ▶ (または◀)でもできます。
- 電源「入」のときは、約2秒でソース(音源)の表示に戻ります。
- 「分」のSETを押す前に、CANCELを押すと「時」の設定に戻ります。

時刻を数字ボタンで合わせる

手順2のとき数字ボタンを使って「時」と「分」を合わせることもできます(リモコンのオーディオ/テレビ切換スイッチは「オーディオ」側)。

午前12時にする　: 12 (+10) ➡ カ・ABC (2)

午後8時にする (20：00)　: 12 (+10) ➡ (10)

(または 12 (+10) を2回押したあと ワラン・11 (0) を押す)

SET **を押したあと**

25分にする　: 12 (+10) ➡ 12 (+10) ➡ ナ・JKL (5)

30分にする　: 12 (+10) ➡ 12 (+10) ➡ (10)

SET **を押す**

時刻を合わせ直す

時刻を合わせ直すときは、**時計/タイマー**を5回押して、時計を表示させてから、**手順2**の操作をします。

現在時刻は、テレビ放送の時刻表示や電話の時報案内などを利用してください。

ご注意

- 本機の時計は、月に1分程度のズレを生じます。タイマー操作をするときは、事前に時刻を設定し直してください。
- 電源コードを外したり停電などで電源が切れたときは、「0:00」表示に戻ります。もう一度正しい時刻に合わせてください。

テレビのタイプを設定する

準備

テレビの電源を入れ、本機からの映像が映るようにする

本機と接続したテレビの入力切換を、その端子名(**ビデオ1**など)に切換えます。

1 DVD ▶ **を押してから** ■ **を押す**

ソース(音源)をDVDにします。

2 設定 **を押す**

初期設定画面がテレビ画面に表示されます。

言語	
メニュー言語	日本語
音声言語	英語
字幕言語	日本語
画面表示言語	日本語

3 ▶ **(または** ◀ **)を押して「映像」を選び、**

決定 を押す

4 ▼ **(または** ▲ **)を押してTVタイプを選び、** 決定 **を押す**

- **従来のテレビ(4:3)と接続しているとき**
  「**レターボックス**」または「**パンスキャン**」を選びます。
- **ワイドテレビと接続しているとき**
  「**16:9**」を選びます。

詳しくは、「映像設定画面」の「TVタイプ」(➡**72**ページ)をご覧ください。

5 設定 **を押す**

初期設定画面が消えます。

スキャンモードの切換え

解説

プログレッシブスキャン対応テレビと本機をD映像端子で接続したときは、スキャンモードをプログレッシブ方式に切換えます。お買い上げ時は、インターレース方式に設定されています。

- **リモコンで操作します。**

1 DVD ▶ **を押す**

ソース(音源)をDVDにします。
ディスクが入っていたときは、■(停止)を押します。
ディスクが入っていないときは、表示窓に「NO DISC」と表示されます。

2 プログレッシブ VFP **を2秒以上長押しする**

表示窓に現在のスキャンモードが表示されます。

3 ▶ **(または** ◀ **)を押して「PROGRESSIVE(プログレッシブ)」または「INTERLACE(インターレース)」を選び、** 決定 **を押す**

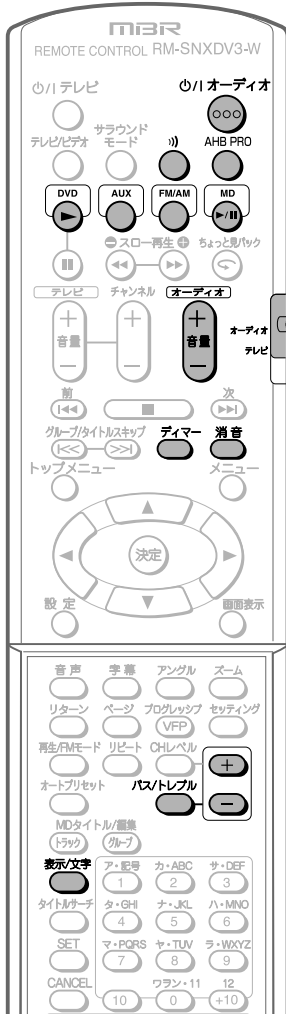
ソース(音源)表示に戻ります。
プログレッシブ方式を選ぶと、表示窓に「**PROGRESSIVE**」が表示されます。

お知らせ

- テレビの映像が不自然に映るときは、スキャンモードを「インターレース」にしてください。

デジタルダイレクトプログレッシブ方式について

これまでのプログレッシブスキャン対応DVDプレーヤーでは、プログレッシブスキャンで収録されたDVDビデオの映像信号を、インターレーススキャンに変換してから再度プログレッシブスキャンに戻すという処理を行っていたため、映像がブレたり不自然に写ることがありました。

ビクターの**デジタルダイレクトプログレッシブ方式**は、DVDビデオのプログレッシブスキャン映像をそのまま出力するので、プログレッシブスキャンが持つ本来の自然で美しい映像の再生を実現しています。

・本機を操作するときは、必ず「**オーディオ**」側で操作してください。

＊ 以後、本書では、主にリモコンを使った操作を説明します。本体のボタンで、リモコンのボタンと同じ名前や似た記号のボタンは、同じ働きをします。また、本体だけのボタンで操作するときは、本体で説明します。

1 ⏻/I オーディオ を押す(本体は ⏻/I を押す)

- 電源が入り、「Hello」が表示されたあと、現在のソース(音源)名が表示されます。
- STANDBY/ONランプが黄緑に点灯します。

イチ押しプレイ:

- DVD ►、MD ►/II、FM/AM、AUXのいずれかを押したときも電源が入り、ソース(音源)も変わります(ディスク、MDが入っているときは、再生が始まります)。

2   のいずれかを押して再生するソース(音源)を選ぶ

	操　作	参照ページ
ディスクを見る/聞く	本体の⏏(ディスク取り出し)を押し、ディスクトレイにディスクを入れ、DVD ►(▷/II DVD/CD)を押す。	28
MDを聞く	MD挿入口にMDを入れ、MD ►/II(▷/II MD)を押す。	44
ラジオを聞く	FM/AMを押してFMまたはAMを選び、聞きたい放送局を選局する。	26
他の機器の音声を聞く	他の機器をつなぎ、AUXを押してAUX、AUX-DIGITAL1またはAUX-DIGITAL2を選ぶ。	49

3 を押して音量を調節する

- VOLUME 0〜40の範囲で調節できます。

4 使い終わったら ⏻/I オーディオ を押して電源を切る

表示窓に「See You」が表示されたあと、現在時刻が表示されます。

お知らせ

- 電源「切」のとき⏏(ディスク取り出し)を押すと、電源が入りディスクトレイが出てきます。⏏(MD取り出し)を押すと、電源が入り、MDが入っているときは出てきます。
- **電源「切」のときは、MDを入れることができません。無理に押し込むと故障の原因となります。**

一時的に消音する

解説 電話のときなど、ボタン一つで簡単に音を消すことができます。

1 消音 を押す

「FADE MUTING」と数秒間表示され、音量が「0」まで下がります。
もう一度**消音**を押すと、徐々に元の音量に戻ります。
- リモコンの**オーディオ音量**または、本体のVOLUME＋を押して音量を上げることもできます。

重低音を強調する

1 AHB PRO ＊を押す

押すごとに「**オン**↔ **オフ**」が選べます。
「**オン**」(お買い上げ時の状態)のときは表示窓に「AHB PRO」が表示され、サブウーハーからの音が強調されます。
- ヘッドホンの音には効きません。

＊ AHB PRO
Active Hyper Bass PROの略です。

小音量のときに聞き易くする

解説 クッキリボイス機能を使うと、小音量のときでもDVDビデオのセリフなどが聞き易くなります。
- **ソース(音源)がラジオ以外のとき、設定できます。**
- サラウンド音声でセンターチャンネルの信号があるとき、または、ステレオ音声でもサラウンドの設定(ALL. CH ST以外)をしているとき(➡**42**ページ参照)に効果があります。

1 を押す

現在のクッキリボイスモードが表示され、表示中さらにボタンを押すと「「**オン**↔ **オフ**」が選べます。「**オン**」のとき、表示窓に 🔊 が表示されます。

- 録音を行うとクッキリボイス機能は解除されます。

音質を調節する

1 バス/トレブル をくり返し押して「BASS」(低音)または「TREBLE」(高音)を選ぶ

表示中に

2 ＋ または － を押して調節する

－5～0～＋5の範囲で調節できます。
- 音質調節の表示は、数秒後にソース(音源)表示に戻ります。

表示窓を暗くする(ディマー機能)

1 ディマー を押す

押すごとに表示窓の明るさが次のように変わります。

→ DIMMER ON ：表示窓が暗くなります。
↓
DISPLAY OFF：数秒後に表示窓が消灯します。いずれかの操作をすると、表示窓が数秒間点灯します。
↓
DISPLAY ON ：表示窓が明るく点灯します。

- 電源「切」のときは、「DISPLAY OFF ↔ DISPLAY ON」になります。

操作中に表示を変える

1 表示/文字 を押す

ソース(音源)がMD以外のとき：
押すごとに**時計表示 ↔ ソース(音源)表示**に切り換わります。
MDが入っているときは、MDの録音残量時間(REM.表示)も見ることができます。

ソース(音源)がMDのとき：
「演奏中にタイトルなどを見るには」(➡**45**ページ参照)をご覧ください。

お知らせ
- **音量の調節、AHB PROやクッキリボイスの効果**は、スピーカーの音声に効きます。録音される音には影響ありません。

基本操作

ラジオ放送を聞く

「オーディオ」側にしておきます。

放送局を受信する
（オート選局、マニュアル選局）

1 FM/AM **を押してFM放送またはAM放送を選ぶ**

ソース（音源）がラジオになります。

2 次 ▶▶I **（または** 前 I◀◀ **）を押して放送局を選ぶ**

2つの選局方法があります。

オート選局

周波数が変わり始めるまで押したままにします。変わり始めたら指を離します。放送局を受信すると周波数が止まります。途中で止めるときは、ボタンを「ポン」と押します。

マニュアル選局

押すごとに周波数が変わります。

- FMステレオ放送を受信すると、ST表示が点灯します。
- 電波が弱く、オート選局で受信できないときはマニュアル選局に切換えてください。

記憶（メモリー）した放送局を選ぶ
（プリセット選局）

解説 オートプリセットまたはマニュアルプリセット（➡**27**ページ参照）で記憶（メモリー）させた放送局を呼び出します。

1 FM/AM **を押してFM放送またはAM放送を選ぶ**

2 **数字ボタン（** ア・記号 1 **～** 10 **、** 12 +10 **）で放送局のプリセット番号を選ぶ**

（プリセット選局）

- 数字ボタンの使いかたは、右の説明を参照してください。
- **カーソル ▶**（または◀）でプリセット番号を選ぶこともできます。

お知らせ

- マニュアル選局の場合、FM放送では0.05MHzずつ、AM放送では9kHzずつ周波数が変わります。

FM放送	0.05MHzずつ	：76.00MHz～108.00MHz
AM放送	9kHzずつ	：531kHz～1629kHz

- 本機は、テレビ1ch：95.75MHz、2ch：101.75MHz、3ch：107.75MHzの音声を受信することができます。
- 電源を「切」にしたり他のソース（音源）に切換えたとき、最後に受信していた放送局が記憶されます。再びラジオに切換えると、同じ放送局が受信できます。
- **本機はAMステレオ放送には対応しておりません。**

オートプリセット
（放送局を自動で記憶）

解説

FM放送とAM放送のオートプリセットは別々に行います。
受信できるすべての放送局、またはプリセットの最大数(FM:30局、AM:15局)まで記憶されると、オートプリセットは終了します。

1 FM/AM **を押してFM放送またはAM放送を選ぶ**

2 オートプリセット **を2秒以上長押しする**

オートプリセットが始まったら指を離します。終了するとプリセット番号1の放送局が受信されます。

- 雑音の多い放送局もプリセットされることがあります。このようなときは、マニュアルプリセットで選び直してください。
- オートプリセットすると、放送局は上書きされます。

ご注意

- **電源コードをコンセントから抜いたり停電があると、記憶(メモリー)した放送局が消去されることがあります。**

マニュアルプリセット
（放送局を手動で記憶）

1 FM/AM **を押してFM放送またはAM放送を選ぶ**

2 次 ▶▶I **(または** 前 I◀◀ **)を押して記憶させる放送局を選ぶ**

➡**26**ページ「放送局を受信する(オート選局/マニュアル選局)」参照。

3 SET **を押す**

「SET」が点滅します。

点滅中に

4 **数字ボタン(** ア・記号 1 **〜** 10 **、** 12 +10 **) を押してプリセット番号を選ぶ**

- 数字ボタンの使いかたは、下の説明を参照してください。
- **カーソル** ▶(または◀)でプリセット番号を選ぶこともできます。

5 SET **を押す**

「STORED」が表示されます。表示が消えると記憶(メモリー)されます。

- FM放送の受信モード(下の「FMステレオ放送が雑音で聞きにくいとき」参照)も記憶されます。

数字ボタンの使いかた

1〜10の番号を選ぶとき

〜

のいずれかを押します。

11以上の番号を選ぶとき

15を選ぶ：(12 +10) ➡ (ナ・JKL 5)

20を選ぶ：(12 +10) ➡ (10)　と押します。

21以上の番号を選ぶとき

25を選ぶ：(12 +10) ➡ (12 +10) ➡

30を選ぶ：(12 +10) ➡ (12 +10) ➡ (10) と押します。

FMステレオ放送が雑音で聞きにくいとき

再生/FMモード **を押して受信モードを切換える**

表示窓のMONO表示が点灯し、聞きやすくなることがあります(このとき音声はモノラルになります)。

元に戻すときは

もう一度、**再生/FMモード**を押します(FM AUTO)。オート受信に変わり、FMステレオ放送のときは、ST表示が点灯します。

ディスクを再生する

本書では、機能ごとに次のマークを示し、説明中の操作がどの種類のディスクでできるのかお知らせします。

例:オーディオCDでは操作できないとき

DVD オーディオ　ビデオ CD

DVD Video　DVD Audio　CD　VCD　SVCD

スーパービデオ CD

DVD ビデオ　オーディオ CD

「オーディオ」側にしておきます。

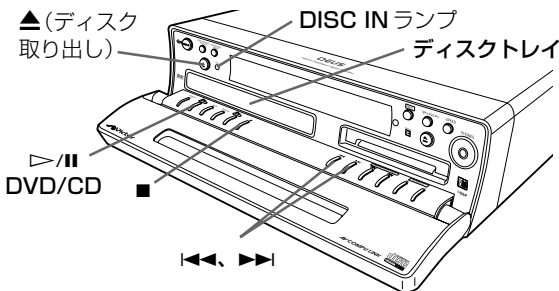
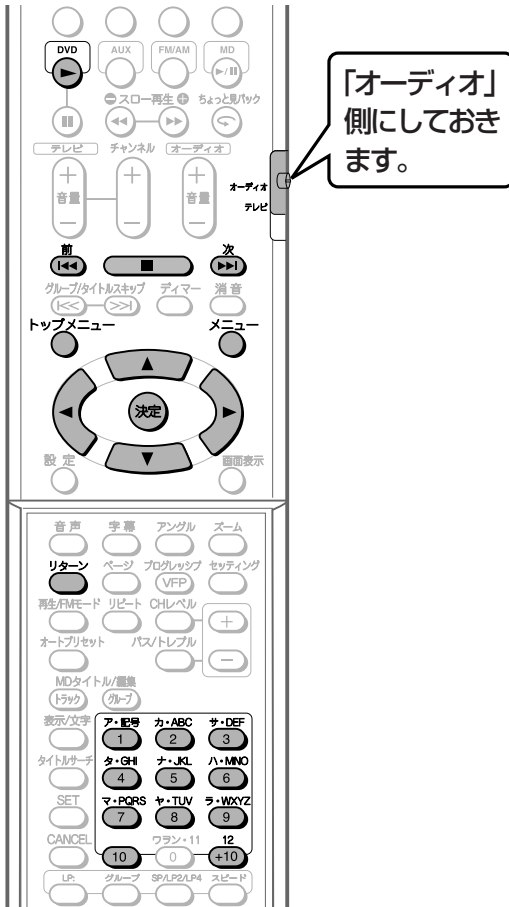
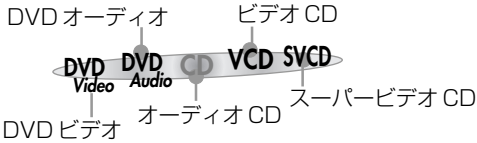
▲(ディスク取り出し)

DISC IN ランプ

ディスクトレイ

▷/II DVD/CD

■

⏮、⏭

ご注意

- ディスクトレイが出ているとき、フロントドアを手で閉めないでください。故障の原因となることがあります。

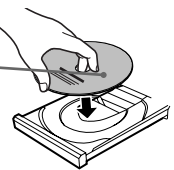
条件　DVD Video　DVD Audio　CD　VCD　SVCD

1 本体の ⏏ を押す

ディスクトレイが出てきます。

- 電源「切」のときは、電源が入ります。

2 ディスクをディスクトレイに置く

- 8センチディスクは内側の凹部に置きます。
- 両面ディスクのときは、通常SIDE-Aを上にして置きます。

3 本体の ⏏ を押してディスクトレイを閉める

ディスクが読み込まれると、DISC INランプが点灯します。

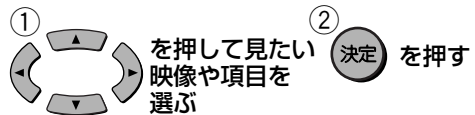
4 (本体は ▷/II DVD/CD)を押す

ソース(音源)がDVDになります。

- ディスクによっては、ディスクトレイを閉めると再生が始まるものもあります。

■ メニュー画面が表示されたら

DVD Video　DVD Audio のとき

① を押して見たい映像や項目を選ぶ　② を押す

- メニュー画面によっては、数字ボタンで選ぶ場合もあります。
- メニュー画面に戻すときは、**メニュー**または**トップメニュー**を押します。
  - DVDオーディオの場合、**メニュー**は働きません。

VCD のとき

① **数字ボタン(1 ～ 10 、+10)を押して見たい番号を選ぶ**

- 数字ボタンの使いかたは、**31**ページをご覧ください。
- メニュー画面に戻すときは、**リターン**を押します。

VCDまたはSVCDを見ているとき[次]または[前]が表示されたときは

▶▶I を押して、メニューの次のページへ進みます。
I◀◀ を押して、メニューの前のページへ戻ります。

VCDまたはSVCDのPBC(プレイバックコントロール)を「入/切」するには

- **PBCを「切」にして再生するには**
  停止中に数字ボタンでトラック番号を選びます。選んだトラックから通常再生が始まります。
- **PBCを「入」にするには**
  再生中に**トップメニュー**または**メニュー**を押します。または、■(停止)を1回(リジューム機能が「**オン**」のときは2回)押してから**DVD ▶**を押します。本体表示窓に「**PBC**」と表示されます。

オープニング画面について

電源を入れた直後や、ディスクを入れる前のテレビ画面にはオープニング画面が表示されます。

メッセージ

オープニング画面の下部には、本機の状態を示すメッセージが表示されます。

NOW READING(ナウ リーディング)	：ディスク情報を読み取り中です。
リージョン コード エラー!	：リージョン番号が違うため、再生できません(➡ **9** ページ参照)。
NO DISC(ノー ディスク)	：ディスクが入っていません。
OPEN(オープン)	：ディスクトレイを開いています。
CLOSE(クローズ)	：ディスクトレイを閉じています。

スクリーンセーバーについて

テレビ画面の焼き付きを防止します。
停止中などで静止画が表示されてから5分以上何も操作をしないと、画面が暗くなります(スクリーンセーバー機能)。操作を再開すると、明るい画面に戻ります。

- JPEGの再生時には、静止画が表示されてもスクリーンセーバー機能は働きません。

スクリーンセーバー機能は、映像設定画面(➡**72**ページ)で設定します。

再生中に表示されるマークについて

⃠ ： 本機やディスクで禁止、または対応していない操作を行ったときに表示されます。

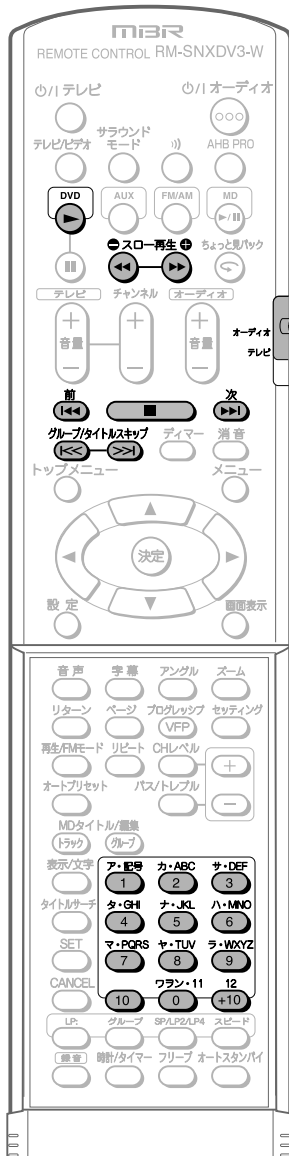
以下のマークは**オンスクリーンガイド**といいます。

- ▶ ： 再生を開始すると約3秒間表示されます。
- II ： 一時停止すると表示されます。
- ◀◀ ▶▶ ： 早送り／早戻し(➡**31**ページ)をすると表示されます。
- ◀I I▶ ： スローモーション再生(➡**32**ページ)をすると表示されます。
- (音声マーク) ： 複数の音声言語が収録されている場面で表示されます(➡**33**ページ)。
- (字幕マーク) ： 複数の字幕言語が収録されている場面で表示されます(➡**33**ページ)。
- (アングルマーク) ： 複数のアングルが収録されている場面で表示されます(➡ **33**ページ)。

- **オンスクリーンガイドは表示しないようにすることもできます(➡73ページ)。**

ご注意

- **ディスクの傷、汚れ、反り、記録状態、記録条件が原因で再生できないことや読みとりに時間がかかることがあります。**
- **ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したような壊れたディスクや、ハート型や八角形など、特殊形状のディスク(シェイプCDなど)は再生できません。**
- **2層ディスクの場合、1層目から2層目に切り換わるとき、映像や音声が乱れる場合がありますが、これは故障ではありません。**
- **ディスクに傷、汚れをつけないよう取り扱いにご注意ください。使用後はカートリッジに収納してください(詳細はディスクに付属の説明書などをご覧ください。)**
- **NTSC方式以外のテレビ方式(PALなど)で収録されたディスクを再生するときは、正常なプログレッシブスキャン方式での映像はお楽しみいただけません。**
- **本機では、CD規格(CD-DA)に準拠しないディスクについては、動作や音質を保証できません。CDを再生するときは、「CDロゴマーク」の有無や、パッケージのご注意をお読みになり、CD規格に準拠するディスクであることをお確かめください。**

CDロゴマーク

「オーディオ」側にしておきます。

再生を停止する

条件　DVD Video　DVD Audio　CD　VCD　SVCD

1　■ を押す

オーディオCD以外のディスクでは、表示窓に「RESUME」が表示され、停止位置が記憶されます。このときリジューム再生することができます。

- リジューム設定(➡**73**ページ)を「**オフ**」に変更したときは、表示されません。

停止位置の記憶(リジューム)について

- 再生中に ■ (停止)を押す
- 再生中にソース(音源)を切換える
- 再生中に電源を「**切**」にする

の操作をすると、停止位置が記憶されます。

記憶された停止位置は電源を「**切**」にしても残りますが、停止中に ■ (停止)を押したりディスクトレイを開けると取り消されます。

リジューム再生をする

条件　DVD Video　DVD Audio　CD　VCD　SVCD

<リジューム設定が「オン」で、前回再生を中断したディスクが入っているとき>

1　 **を押す**

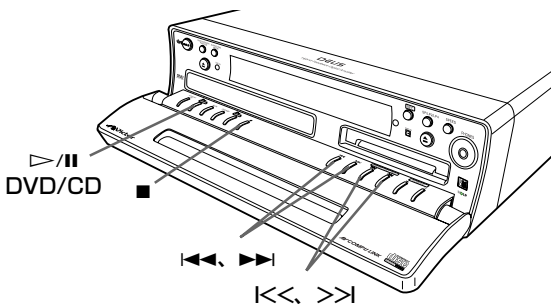
記憶された(前回停止した)位置から続きが再生されます。電源が「**切**」のときは、電源が「**入**」になり再生が始まります。

- 電源を「**入**」にしてから**DVD ►** を押すと停止位置の記憶が取り消され、リジューム再生できません。

ディスクのはじめから再生するとき

停止中に ■ (停止)を押して、位置の記憶を取り消してから**DVD ►** を押します。

お知らせ

- ディスクによっては働かないことがあります。
- プログラム再生またはランダム再生のモードにすると、停止位置の記憶は取り消されます。リジューム再生は働きません。
- メニュー画面を表示中は、停止位置が記憶できないことがあります。
- PBC対応のビデオCDでは、記憶されている停止位置よりも手前、または後ろから再生されることがあります。
- 停止位置と一緒に、音声言語、字幕言語、アングルも記憶されます。

その他の基本操作（早送り/早戻しをする、チャプター/トラックの頭出し、タイトル/グループの頭出し、数字ボタンで頭出しをする[ダイレクト再生]）

■ 早送り/早戻しをする

条件 <再生中に> DVD Video DVD Audio CD VCD SVCD

早送り/早戻し1

① 次(▶▶I) または 前(I◀◀) を押したままにする

押している間、5倍速/20倍速の早送り(▶▶I)または早戻し(I◀◀)再生になります。

② 見たいところで指を離す

通常の再生に戻ります。

早送り/早戻し2（リモコンのみ）

① ⊕(▶▶) または ⊖(◀◀) をくり返し押す

押すごとに、早送り/早戻しのスピードが2倍から60倍まで次のように変化します。

2 ➡ 5 ➡ 10 ➡ 20 ➡ 60

② 見たいところで DVD ▶ を押す

通常の再生に戻ります。

お知らせ

- オーディオCD以外のディスクのとき、早送り/早戻し中に音声は出ません。

■ チャプター/トラックの頭出し

DVD Video DVD Audio CD VCD SVCD

条件
<DVDビデオ:再生中に>
<DVDオーディオ/オーディオCD:いつでも>
<ビデオCD/スーパービデオCD:停止中またはPBCオフで再生中>

① 次(▶▶I) または 前(I◀◀) を押す

くり返し押すと、前後の頭出しができます。

- 再生中にI◀◀を1回押すと、現在再生しているチャプターまたはトラックの頭に戻ります。
- オーディオCD/ビデオCD/スーパービデオCDのとき、停止中に▶▶IまたはI◀◀を押してからDVD ▶ を押すと、選んだトラックから再生が始まります。

お知らせ

- DVDビデオやPBC対応ビデオCDによっては、これらの機能を使えないものがあります。

■ タイトル/グループの頭出し

条件 <再生中に> DVD Video DVD Audio CD VCD SVCD

① >>I または I<< を押す

>>Iを押すと次のタイトル(DVDビデオ)またはグループ(DVDオーディオ)に進み、I<< を押すと、現在再生中のタイトルまたはグループの頭に戻ります。

■ 数字ボタンで頭出しをする [ダイレクト再生]

DVD Video DVD Audio CD VCD SVCD

条件
・オーディオ/テレビ切換スイッチは「オーディオ」側にしておきます。
<DVDビデオ:再生中に>
<DVDオーディオ/オーディオCD:いつでも>
<ビデオCD/スーパービデオCD:停止中またはPBCオフで再生中>

① 数字ボタン(ア・記号 1 ～ 10、12 +10) を使って番号を指定する

指定した番号から再生が始まります。

- DVDビデオのとき、停止中はタイトル、再生中はチャプターが指定されます。
- DVDビデオ以外のディスクでは、トラックが指定されます。
- DVDオーディオにグループがあるときは、>>I（またはI<<）でグループの頭出しをしてから数字ボタンを押します。
- DVDオーディオの場合、ディスクによっては、再生中に数字ボタンが使えないことがあります。

数字ボタンの使いかた

1～10の番号を選ぶとき

ア・記号 1 ～ 10 のいずれかを押します。

11以上の番号を選ぶとき

15を選ぶ：12 +10 ➡ ナ・JKL 5

20を選ぶ：12 +10 ➡ 10 と押します。

21以上の番号を選ぶとき

25を選ぶ：12 +10 ➡ 12 +10 ➡ ナ・JKL 5

30を選ぶ：12 +10 ➡ 12 +10 ➡ 10

または 12 +10 ➡ 12 +10 ➡ 12 +10 ➡ ワヲン・11 0

と押します。

ディスクの便利な機能

ちょっと見バック

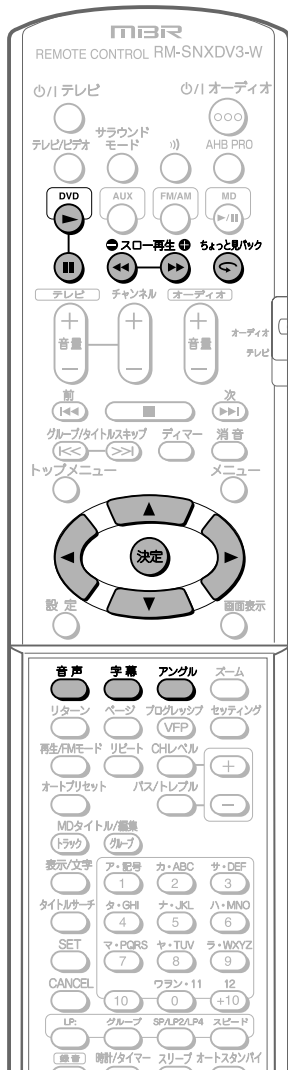
解説・条件

ちょっと前のシーンをワンタッチで見ることができます。

＜再生中に＞ DVD Video

1 ちょっと見バック **を押す**

約10秒前に戻ってから再生が始まります。

- DVDビデオによっては、働かない場合があります。また、再生するタイトルが切換わった直後などは、前のタイトルに戻ることはできません。

一時停止/コマ送り/スロー再生をする[スロー]

条件

一時停止： DVD Video　DVD Audio　CD　VCD　SVCD

コマ送り：
スロー再生： DVD Video　VCD　SVCD

＜再生中に＞

1 ⏸ **を押して一時停止する**

- 時間表示が点滅します。

2 コマ送り

コマ送りするには
さらに ⏸ を押す
（リモコンのみ）

押すごとに静止画像が次のフレームに進みます。

2 スロー再生

スロー再生するには
⊕▶▶ または ⊖◀◀ を押す

▶▶ を押すと順方向のスロー再生になります。
◀◀ を押すと逆方向のスロー再生になります。

- 押すごとに、再生スピードが次のように変化します。

$\frac{1}{32}$ ➡ $\frac{1}{16}$ ➡ $\frac{1}{8}$ ➡ $\frac{1}{4}$ ➡ $\frac{1}{2}$

通常の再生に戻すとき
DVD ► を押します。

お知らせ

- スローモーション再生中は、音声が出ません。
- ビデオCD/スーパービデオCDでは逆方向のスローモーション再生はできません。

音声言語/音声を選ぶ[音声]

解説・条件

- DVDビデオでは、複数の音声が収録されている箇所の冒頭で、画面に「◯◯)」が表示されます。

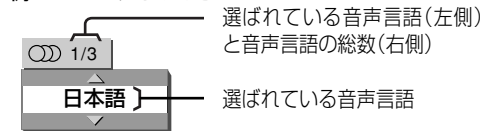
<再生中に> DVD Video DVD Audio CD VCD SVCD

1 音声 を押す

テレビ画面に音声選択ウィンドウが表示されます。

例：DVDビデオのとき

選ばれている音声言語(左側)と音声言語の総数(右側)

選ばれている音声言語

2 さらに 音声 をくり返し押して音声言語または音声を選ぶ

押すごとに、音声言語/音声が切換わります。

音声選択ウィンドウを消すには
決定を押します。
- 何も操作しないと数秒間で消えます。

アングルを切換える[アングル]

解説・条件

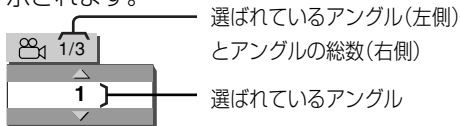
- DVDビデオでは、複数のアングルが収録されている箇所の冒頭で、画面に「🎥」が表示されます。

<再生中に> DVD Video DVD Audio CD VCD SVCD

1 アングル を押す

テレビ画面にアングル選択ウィンドウが表示されます。

選ばれているアングル(左側)とアングルの総数(右側)

選ばれているアングル

2 さらに アングル をくり返し押してアングルを選ぶ

押すごとに、アングルが切換わります。

アングル選択ウィンドウを消すには
決定を押します。
- 何も操作しないと数秒間で消えます。

字幕を切換える[字幕]

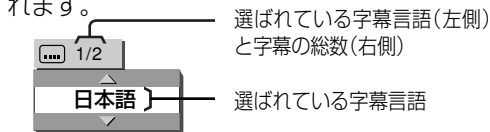
解説・条件

- DVDビデオでは、字幕が収録されている箇所の冒頭で、画面に「....」が表示されます。

<再生中に> DVD Video DVD Audio CD VCD SVCD

1 字幕 を押す

テレビ画面に字幕選択ウィンドウが表示されます。

選ばれている字幕言語(左側)と字幕の総数(右側)

選ばれている字幕言語

2 カーソル ▼ (または ▲)を押して字幕言語を選ぶ

押すごとに、字幕言語が切換わります。

字幕選択ウィンドウを消すには
決定を押します。
- 何も操作しないと数秒間で消えます。

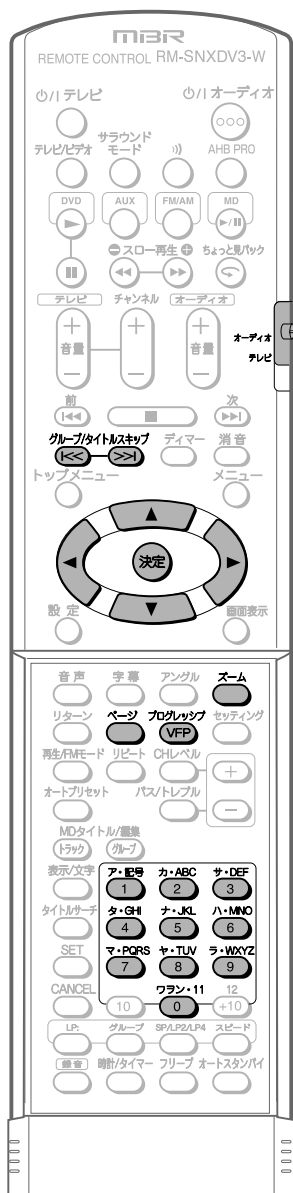
■ 字幕のオンとオフ

① **字幕 をくり返し押す**

選ばれている字幕言語と字幕なし(オフ)が交互に切換わります。

お知らせ

- メニューバーを使って、音声、アングル、字幕を選ぶこともできます(➡**39**ページ参照)。
- DVDビデオの再生中、音声選択ウィンドウまたは字幕選択ウィンドウに表示される言語のうち、英語、スペイン語、フランス語、中国語、ドイツ語、イタリア語、日本語以外は言語コード(➡**74**ページ参照)で表示されます。
- オンスクリーンガイドが「**オフ**」のときは「◯◯)」、「🎥」、「....」は表示されません(➡**73**ページ参照)。
- 「音声言語/音声を選ぶ[音声]」の**手順2**の操作と「アングルを切換える[アングル]」の**手順2**の操作は、**カーソル▼**(または▲)を押しても選ぶことができます。

ズームと画質の調節／DVDオーディオの特別な再生

「オーディオ」側にしておきます。

画面を拡大する[ズーム]

条件 DVD Video　DVD Audio　CD　VCD　SVCD

<再生中または一時停止中に>

1 ズーム を押す

- 押すごとに、倍率が変化します。

OFF ➡ ズーム1 ➡ ズーム2 ➡ ズーム3 ➡ ズーム4 ➡ ズーム5 ➡ ズーム6 ➡ OFF

2 を押して拡大したい部分を選ぶ

通常の映像に戻すには
ズームをくり返し押して「**OFF**」を選びます。

DVDオーディオの静止画像を選ぶ[ページ]

条件

- DVDオーディオによっては、音声とともに自動で再生される静止画が収録されていることがあります。これを「B.S.P.(Browsable Still Picture)」と言います。

<再生中、表示窓のB.S.P.が点灯しているとき>　DVD Video　DVD Audio　CD　VCD　SVCD

1 ページ を押す

テレビ画面にページ選択ウィンドウが表示されます。

PAGE 1/12 — 選ばれている静止画像(左側)と静止画像の総数(右側)
1 — 選ばれている静止画像

2 さらに ページ をくり返し押してページを切換える

ページ選択ウィンドウを消すには
決定を押します。

- 何も操作しないと数秒間で消えます。

お知らせ

- 拡大すると、画質が悪化したり、画像がブレることがあります。
- DVDオーディオの場合:
  - 静止画再生中のズーム無効です。
  - ディスクによっては、ズームができません。

画質を調節する[VFP]

解説・条件

- 部屋の照明やお好みに合わせて画面の画質を調節することができます。

<再生中に> DVD Video DVD Audio CD VCD SVCD

1 プログレッシブ VFP **を「ポン」と押す**

テレビ画面にVFP設定ウィンドウが表示されます。

2 カーソル ▶(または ◀)を押してVFPモードを選ぶ

ノーマル	：通常はこれを選びます。
シネマ	：映画を見るとき選びます。
ユーザー1、2	：設定を変更して記憶させるとき選びます。

「**ユーザー1**」または「**ユーザー2**」を選んだときは、次の手順で設定を変更します。

3 カーソル ▼(または ▲)を押して項目を選び、決定 を押す

ガンマ	：暗い部分と明るい部分の明るさを変えずに、中間の明るさを調節します。
明るさ	：明るさを調節します。
コントラスト	：コントラストを調節します。
色のこさ	：色の濃さを調節します。
色合い	：色合いを調節します。
シャープネス	：シャープさを調節します。

4 カーソル ▼(または ▲)を押して項目を調節し、決定 を押す

5 手順3、4をくり返して他の項目を調節する

6 調節が終了したら プログレッシブ VFP を押す

DVDオーディオのボーナスグループを再生する

解説・条件

- DVDオーディオによっては、キーナンバー(パスワード)を入力して再生することができるグループが収録されていることがあります。これをボーナスグループと言います。キーナンバー(パスワード)を知る方法(ジャケットに記載など)はディスクによって異なります。

DVD Video DVD Audio CD VCD SVCD

<表示窓のBONUS表示が点灯しているDVDオーディオが再生中に>

1 ▶▶| を押してボーナスグループ(ディスク最後のグループ)を選ぶ

テレビ画面　　本体表示窓

KEY ____　　KEY ____

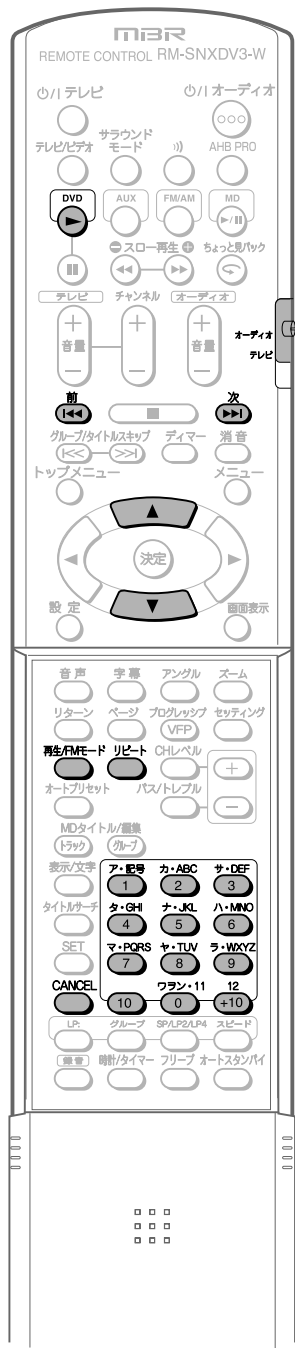
2 数字ボタン(ア・記号 1 ～ ラ・WXYZ 9、ワヲン・11 0)でキーナンバー(パスワード)を入力してから 決定 を押す

ボーナスグループの再生が始まります。

- オーディオ/テレビ切換スイッチは「オーディオ」側にしておきます。
- キーナンバー(パスワード)が間違っているときは、入力表示はそのまま表示されます。

入力表示を消すには

次のいずれかの操作をします。

- しばらく待つ
- ■(停止)を押す
- ⏏(ディスク取り出し)を押してディスクトレイを開ける
- 電源を「**切**」にする

「オーディオ」側にしておきます。

くり返し再生する[リピート]

DVD Video　DVD Audio　CD　VCD　SVCD

条件

<DVDビデオ/DVDオーディオ:再生中に>
<オーディオCD:再生中/停止中に>
<ビデオCD/スーパービデオCD:停止中またはPBCオフで再生中に>

1 リピート を押す

押すごとに、リピートモードが切換わり、本体表示窓とテレビ画面に次のように表示されます。

- 停止中のときは、DVD ►を押してリピート再生を始めます。

本体表示窓	テレビ画面	モードの説明
(リピート表示)	CHAP (DVDビデオ)	現在再生中のチャプターをくり返し再生
	TRACK (DVDビデオ以外)	現在再生中のトラックをくり返し再生
ALL	TITLE (DVDビデオ)	現在再生中のタイトルをくり返し再生
	GROUP (DVDオーディオ)	現在再生中のグループをくり返し再生
ALL	ALL (DVDビデオ/DVDオーディオ以外)	全トラックをくり返し再生
消灯	OFF	リピート再生のモードを解除

- **この他に、任意の2点間をくり返すA-Bリピート再生をすることもできます。A-Bリピート再生について詳しくは、39ページをご覧ください。**

リピート再生をやめるには

■(停止)を押して再生を停止します。

- DVDビデオのときは、再生を停止すると同時にリピート再生のモードも解除されます。DVDビデオ以外のときは、リピート再生のモードは解除されません。

リピート再生のモードを解除するには

リピートを押して本体表示窓のリピートモード表示を消灯させるか、テレビ画面に「 OFF」を表示させます。

プログラム再生またはランダム再生(➡**37**ページ参照)**のときのリピート再生のモード**

プログラム再生またはランダム再生をくり返すリピート再生(REPEAT ALL)のモードと、再生中のチャプター(トラック)だけをくり返すリピート再生(REPEAT STEP)のモードが選べます。

プログラム再生

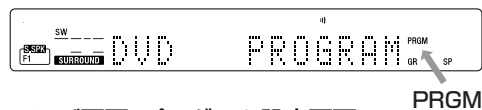
解説・条件

- チャプター/トラックをお好みの順番で再生することができます。最大99ステップまでプログラムできます。

<停止中に> DVD Video DVD Audio CD VCD SVCD

1 再生/FMモード を押して本体表示窓にPRGMを点灯させる

テレビ画面にはプログラム設定画面が表示されます。

本体表示窓:(例DVDビデオのとき)

SW S.SPK F1 SURROUND DVD PROGRAM PRGM GR SP

PRGM

テレビ画面:プログラム設定画面

2 数字ボタンで、再生したい順にチャプター/トラック番号を選ぶ

- 数字ボタンの使いかたは、「数字ボタンで頭出しをする [ダイレクト再生]」(➡**31**ページ)を参照してください。

オーディオCD、ビデオCD、スーパービデオCDの場合

トラック番号を選びます。

DVDビデオ、DVDオーディオ(またはMP3/WMAファイル)の場合

最初にタイトル(グループ)番号を選び、そのあとチャプター(トラック)番号を選びます。

- 番号を間違えたときは、CANCELを押します。最後のプログラム内容が消えます。CANCELを2秒以上長押しすると、すべてのプログラム内容が消去されます。

3 DVD ► を押す

プログラムした順番で再生が始まります。

プログラムされたすべてのチャプター/トラックの再生が終わると停止し、プログラム設定画面が表示されます。

本体表示窓でプログラムの内容を確認するには

停止中に►►I(またはI◄◄)を押すと、プログラムの順番を確認することができます。

カーソル▲(または▼)を押して確認することもできます。

プログラム再生のモードを解除するには

停止中に**再生/FMモード**を押して、本体表示窓のPRGMを消灯させます。

プログラムを消去するには

ディスクを取り出す、または電源を「**切**」にしたときもすべてのプログラムの内容が消去され、プログラム再生のモードも解除されます。

ランダム再生

解説・条件

- ディスクに収録されているチャプター/トラックをランダム(無作為)に再生します。

<停止中に> DVD Video DVD Audio CD VCD SVCD

1 再生/FMモード をくり返し押して本体表示窓にRANDOMを点灯させる

本体表示窓:(例DVDビデオのとき) RANDOM

2 DVD ► を押す

ランダム再生が始まります。

すべてのチャプター/トラックの再生が終了すると、自動停止します。

ランダム再生のモードを解除するには

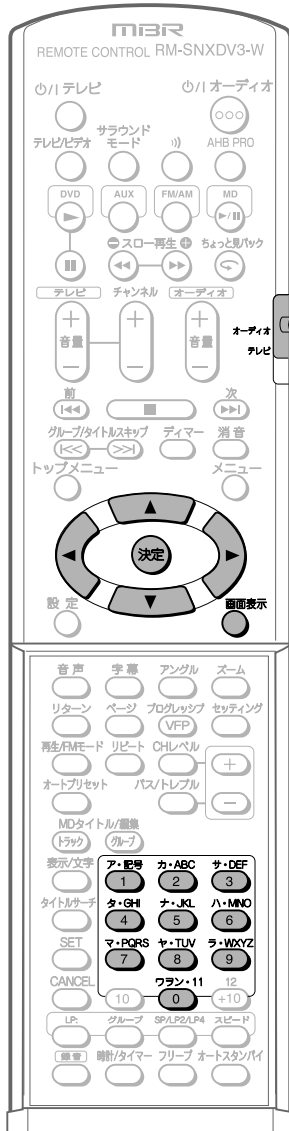
停止中に**再生/FMモード**を押して、本体表示窓のRANDOMを消灯させます。

ディスクを取り出す、または電源を「**切**」にしたときもランダム再生のモードが解除されます。

ステータスバーとメニューバー

テレビ画面に、ステータスバーとメニューバーを表示させて、再生中のディスクの情報を確認したり（ステータスバー）、様々な機能を呼び出して使う（メニューバー）ことができます。

ご注意

- MP3/WMAまたはJPEGディスクは、ステータスバー/メニューバーは使えません。
- DVDビデオ、DVDオーディオ、ビデオCDのメニュー画面が表示されているとき、メニューバーを表示すると、メニュー画面の操作がうまくいかないことがあります。このようなときは、メニューバー表示を消してください。

ステータスバーの呼び出しとメニューバーの基本操作[画面表示]

条件 DVD Video　DVD Audio　CD　VCD　SVCD

＜再生中または一時停止中に＞

1 画面表示を押してステータスバーを呼び出す

例：DVDビデオのとき

ディスクの種類　DVD-VIDEO　DVD-AUDIO　CD　VCD　SVCD

再生情報（ディスクによって異なります）　TITLE 1（タイトル）　CHAP 3（チャプター）　GROUP 1（グループ）　TRACK 3（トラック）

再生状態　再生中：▶　一時停止中：⏸
早送り / 早戻し中：⏩/⏪
スロー再生中：▶|/|◀

2 さらに画面表示を押してメニューバーを呼び出す

例：DVDビデオのとき

- メニューバーに表示されるアイコンの数は、ディスクの種類によって異なります。

3 カーソル ▶（または ◀）を押してメニューバーのアイコンを選んでから、決定を押し、設定または操作をする

設定または操作については「メニューバーでの操作」（➡**39**ページ）をご覧ください。

ステータスバー、メニューバーを消すには
メニューバーが表示中に**画面表示**を押します。

メニューバーでの操作

■ TIME 時間表示 アイコン

ステータスバーの時間表示を切換えます。

① **決定をくり返し押す**

押すごとにTOTAL(タイトル/グループの経過時間)、T.REM(タイトル/グループの残り時間、TIME(チャプター/トラックの経過時間)、REM(チャプター/トラックの残り時間)の順に時間表示が切換わります(CDはTIMEとREMのみ)。

■ OFF リピート アイコン

いろいろなくり返し再生をするときに選びます。

① **カーソル▲(または▼)を押してリピートモードを選び、決定を押す**

リピートモード「A-B」については、右の説明をご覧ください。
他のリピートモードについては、「くり返し再生する[リピート]」(➡**36**ページ)をご覧ください。

■ タイムサーチ アイコン

再生したい場所を時間で指定します。

① **数字ボタンで時間を入力し、決定を押す**

指定した時間から再生が始まります。

時間0:15:23のとき、「**0**」➡「**1**」➡「**5**」➡「**2**」➡「**3**」と押します。
時間2:34:00のとき、「**2**」➡「**3**」➡「**4**」と押します。

- 分、秒の入力は省略することができます。
- 時間の入力を間違えたときは、間違えた数字が消えるまで**カーソル◀**を押してから、入力し直します。

■ CHAP.➡ チャプターサーチ アイコン(DVD Video のみ)
TRACK➡ トラックサーチ アイコン(DVD Audio のみ)

再生したい場所をチャプター番号、トラック番号で指定します。

① **数字ボタンで番号を入力し、決定を押す**

指定した場所から再生が始まります。

番号5のとき、「**5**」を押します。
番号15のとき、「**1**」➡「**5**」と押します。

■ 1/3 音声 アイコン(DVD Video DVD Audio VCD SVCD)
1/5 字幕 アイコン(DVD Video SVCD のみ)
1/3 アングル アイコン(DVD Video のみ)
PAGE 1/12 ページ アイコン(DVD Audio のみ)

① **カーソル▼(または▲)で選んでから、決定を押す**(動作内容は**33**、**34**ページ参照)

くり返し再生する[A-Bリピート]

解説・条件

- 再生中のチャプター(DVDビデオのとき)やトラック(DVDビデオ以外のとき)の指定した範囲をくり返し再生することができます(A-Bリピート)。

DVD Video DVD Audio CD VCD SVCD

<DVDビデオ/DVDオーディオ/オーディオCD:再生中に>
<ビデオCD/スーパービデオCD:PBCオフで再生中に>

準備

メニューバーの OFF (リピートアイコン)を選び、決定 を押す

1 カーソル ▼ (または ▲)を押して「A-B」を選ぶ

2 くり返したい部分の頭で、決定 を押す(Aポイント)

メニューバーに A- が表示されます。

3 くり返したい部分の終わりで、決定 を押す(Bポイント)

A ポイントと B ポイント間のリピート再生が始まります。

A-Bリピート再生を解除するには

■(停止)または ▶▶I、I◀◀ を押します。

- **手順1**で「**オフ**」を選び、**決定**を押しても解除されますが、通常の再生は続きます。

お知らせ

- **タイムサーチで時間を入力するとき**
  DVDビデオはディスクの頭からの時間、DVDオーディオは再生中のトラックの頭からの時間を入力します。
  オーディオCD/ビデオCD/スーパービデオCDは、停止中はディスクの頭から、再生中はトラックの頭からの時間を入力します。
- ディスクよっては、A-Bリピートができない場合もあります。
- A-Bリピートのとき、タイトルまたはトラックをまたがるA-Bリピート再生はできません。また、プログラム再生中、ランダム再生中は、A-Bリピートはできません。

音楽・映像ファイルの再生

再生できるファイルについて

本機では、CD-R/RW上にある、以下の音楽・映像ファイルを再生することができます。

- **MP3/WMAファイル**

  ファイル転送レート128 kbpsで作成されたMP3ファイル、転送レート64 kbpsで作成されたWMAファイルを推奨します。

  「.MP3」「.mp3」「.WMA」「.wma」の正しい拡張子が付いているファイルが再生できます。

  – タグ情報（ID3-Tag、WMA-Tag）に対応しています。タグ情報はテレビ画面に表示されます。

  – MP3iやMP3 PROファイルは再生できません。

- **JPEGファイル**

  「.JPEG」「.JPG」「.jpeg」「.jpg」の正しい拡張子が付いていて、デジタルカメラで撮影したJPEG画像ファイルにのみ対応しています。

  （Exif Ver2.1 JPEGベースライン方式、解像度320×240ピクセル～6144×4096ピクセルのJPEG画像）

お知らせ

- ディスクの読み取りにかかる時間は、記録されたグループやファイルの数によって異なります。
- ディスクの特性や記録状態によっては、再生できない場合もあります。

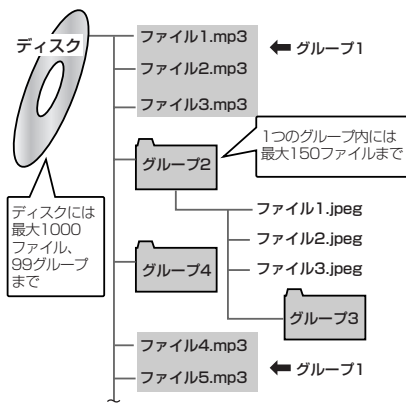
ファイル/フォルダ(グループ)について

本書ではフォルダを「グループ」と呼びます。

本機が1つのCD-R/RWで識別再生できるファイル数とグループ数は、次のようになります。

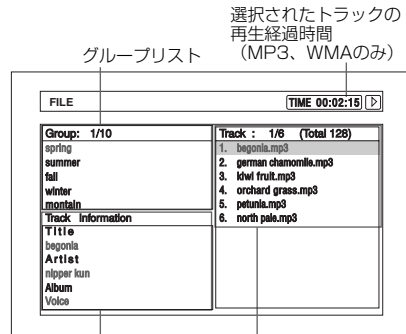
- 最大ファイル数：1000ファイルまで
- 最大グループ数：99グループまで（1 グループ内は最大 150 ファイルまで）

  – 再生できないファイルがある場合、それらもファイルとして数えます。

  – 再生できるファイルがどのグループにも含まれないときは、そのファイルはグループ1として扱われます。

お知らせ

- MP3、WMA、JPEGファイルが一緒に記録されているディスクの場合、「映像設定画面」（➡72ページ）の「ファイルタイプ」で設定されたファイルを再生します。

コントロール画面について

MP3、WMA、JPEGファイルを含むCD-R/RWを本機に挿入すると、コントロール画面が表示されます。コントロール画面からファイルを選んで再生します。

- ファイル名やグループ名に半角英数字以外の文字を使用すると、正しく表示されません。
- コントロールパネル画面に表示されるファイル/グループの順序は、パソコン上で表示される順番と異なることがあります。
- 再生できないファイルや、再生できるファイルを含まないグループは、コントロール画面には表示されません。

作成時の注意

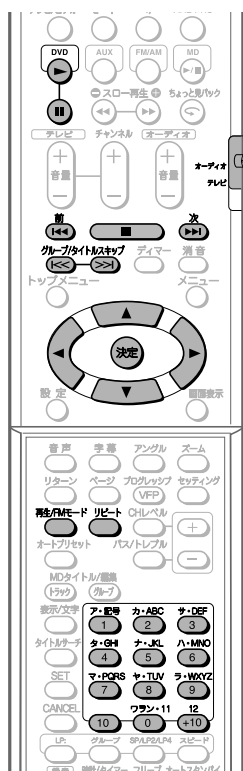
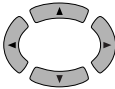
ファイル/グループを作成するときは、次のことに注意してください。

- **正しい拡張子を付ける（大文字小文字の混在も可）**

  MP3ファイル　「.MP3」「.mp3」
  WMAファイル　「.WMA」「.wma」
  JPEGファイル　「.JPEG」「.JPG」「.jpeg」「.jpg」

- **ファイル/グループ名には半角英数字のみを使用する**

CD-R/RWディスクを作成するときは、次のことに注意してください。

- **ディスクフォーマットを「ISO 9660」にする**
- **パケットライト方式（UDFフォーマット）は使わない**
- **必ずファイナライズする**

「オーディオ」側にしておきます。

コントロール画面から再生する

条 件 <コントロール画面表示中(➡**40**ページ)に>

1 **を押してグループまたはトラック(ファイル)を選ぶ**

2 **決定 または DVD ► を押す**

再生が始まります。

MP3/WMAファイルのとき:
本体表示窓には、トラック名→タグ情報(Title、Artist、Album)がスクロール表示されます。MP3またはWMA表示が点灯します。

JPEGファイルのとき:
DVD ►を押すと、選んだファイルから次々と再生されるスライドショー再生になります。
決定を押すと、選んだファイルだけ再生されます。

お知らせ

- MP3/WMAファイルの早送り/早戻しはできません。

その他の操作

■ 一時停止する

を押す

- JPEGファイルのスライドショー再生中は、スライドショーの一時停止になります。

■ 停止する

■ を押す

- JPEGファイルのスライドショー再生中は、スライドショーの停止になります。

■ 頭出しをする

次 (または 前)を押す

■ グループを選ぶ

(または)を押す

■ 数字ボタンでトラック(ファイル)を選ぶ

- 「数字ボタンの使いかた」(➡**31**ページ)をご覧ください。

■ くり返し再生する

<コントロール画面表示中に>
リピート を押してリピートモードを選ぶ

MP3/WMAファイルのとき:
トラックのくり返し再生、グループのくり返し再生、全トラックのくり返し再生から選べます(➡**36**ページ)。

- プログラム再生またはランダム再生のときは、プログラム再生またはランダム再生をくり返すリピート再生と、再生中のトラックだけをくり返すリピート再生が選べます。

JPEGファイルのとき:
グループのくり返し再生、ディスクのくり返し再生のモードから選べます。

■ 画面を拡大する[ズーム](JPEGファイルのみ)

<(スライドショー再生を除く)ファイル再生中または一時停止中に>

① ズーム を押して倍率を選ぶ

「**ズーム1**」、「**ズーム2**」、「**OFF**」から選べます。

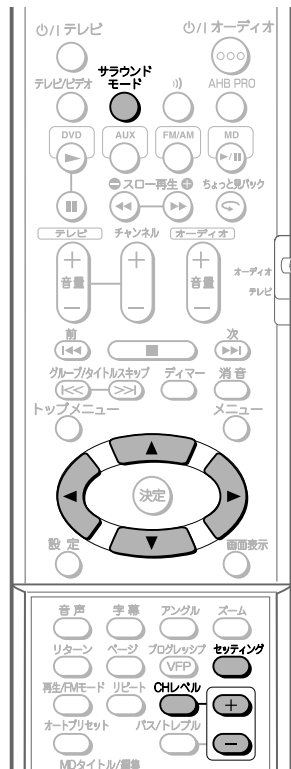
② を押して拡大したい部分を選ぶ

通常の映像に戻すには
ズームをくり返し押して「**OFF**」を選びます。

■ プログラム再生、ランダム再生

(MP3/WMAファイルのみ)

- 詳しくは、「プログラム再生」、「ランダム再生」(➡**37**ページ)をご覧ください。

サラウンドの設定と調節

サラウンドについて

■ マルチチャンネルサラウンド

本機では「AUTO SURROUND」設定でマルチチャンネル信号入力の場合、次の音声フォーマットの信号を入力すると、自動的に判別してサラウンドを「入」にします。2ch信号入力の場合は、自動的にサラウンドを「切」にします。

音声フォーマット	本体表示窓
PPCM	P PCM
ドルビーデジタル	DD D
DTS	dts
MPEG-2 AAC＊1	AAC

- MPEG-2 AACは、BSデジタルチューナーなどを本機のデジタル1またはデジタル2入力端子に接続します。ソース(音源)は、AUX-DIGITAL1またはAUX-DIGITAL2にします。

＊1米国パテントナンバー

5,848,391; 5,291,557; 5,451,954; 5,400,433; 5,222,189; 5,357,594; 5,752,225; 5,394,473; 5,583,962; 5,274,740; 5,633,981; 5,297,236; 4,914,701; 5,235,671; 07/640,550; 5,579,430; 08/678,666; 98/03037; 97/02875; 97/02874; 98/03036; 5,227,788; 5,285,498; 5,481,614; 5,592,584; 5,781,888; 08/039,478; 08/211,547; 5,703,999; 08/557,046; 08/894,844 5,299,238; 5,299,239; 5,299,240; 5,197,087; 5,490,170; 5,264,846; 5,268,685; 5,375,189; 5,581,654; 5,548,574; 5,717,821

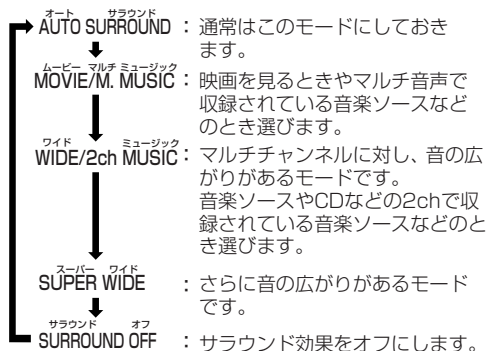
サラウンドモードを選ぶ

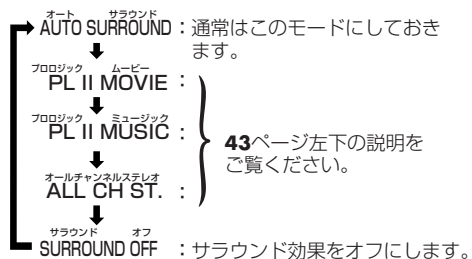
条 件<ソース(音源)がラジオ以外のとき>

1 サラウンドモード ● **をくり返し押して**
サラウンドモードを選ぶ

押すごとに次のように変わります。

- スピーカーポジションが「F1」または「F2」のとき(➡**10, 20** ページ参照)

AUTO SURROUND ：通常はこのモードにしておきます。
⬇
MOVIE/M. MUSIC ：映画を見るときやマルチ音声で収録されている音楽ソースなどのとき選びます。
⬇
WIDE/2ch MUSIC ：マルチチャンネルに対し、音の広がりがあるモードです。音楽ソースやCDなどの2chで収録されている音楽ソースなどのとき選びます。
⬇
SUPER WIDE ：さらに音の広がりがあるモードです。
⬇
SURROUND OFF ：サラウンド効果をオフにします。

- **スピーカーポジションが「R」(➡11, 20ページ参照)でステレオ音声のソースのとき**

AUTO SURROUND ：通常はこのモードにしておきます。
⬇
PL II MOVIE ：
⬇
PL II MUSIC ：
⬇
ALL CH ST. ：
（PL II MOVIE／PL II MUSIC／ALL CH ST.）**43**ページ左下の説明をご覧ください。
⬇
SURROUND OFF ：サラウンド効果をオフにします。

- **スピーカーポジションが「R」(➡11, 20ページ参照)でマルチ音声のソースのとき**

SURROUND ON ⬌ SURROUND OFF

(SURROUND ONの場合、音声フォーマット名が表示されます)

•DVDオーディオ ：OFF ⬌ PPCM
•DVDビデオ ：OFF ⬌ Dolby D
(またはDTS)

- サラウンドが「入」になると、サラウンド処理されている信号の場合、表示窓に「SURROUND」が表示されます。
- 録音中、サラウンドモードは一時的に解除されます。
- サラウンドの音はヘッドホンには効きません。
- ヘッドホンのプラグが接続されているとき、**サウンドモード**を押すと、「HEADPHONE」が表示されます。

スピーカーごとの音量を調節する

解説・条件

- サラウンドスピーカーとパワードサブウーハーの音量を調節します。

<ソース(音源)がラジオ以外のとき>

1 CHレベル **を押して「SURR」(サラウンドスピーカー)または「SUBWFR」(サブウーハー)を選ぶ**

2 ＋ **または** － **を押して調節する**

－6～0～＋6の範囲で調節できます。

- 数秒後にソース(音源)表示に戻ります。

- スピーカーポジションが「R」のとき、サラウンドスピーカーの音量は左「SURR L」と右「SURR R」を別々に調節します。

■ **ドルビープロロジックⅡ**

ドルビープロロジックⅡは、CDなどの2 チャンネルソース(音源)をサラウンドでお楽しみいただけます。次の2つのモードがあります。

- **プロロジックムービー(PLII MOVIE)**
  :映画ソフト向けのサラウンド
- **プロロジックミュージック(PLII MUSIC)**
  :音楽ソフト向けのサラウンド

ドルビープロロジックⅡサラウンドを使っているときは、本体表示窓に ▯▯ PLⅡ 表示が点灯します。

■ **オールチャンネルステレオ(ALL CH ST.)**

CDなどの2チャンネルソース(音源)の再生中に、本機の4本のスピーカーを使ってステレオ音声を楽しむためのモードです。スピーカー2本のときよりも、より広い範囲でステレオ音声をお楽しみいただけます。

その他の設定

1 セッティング **を押す**

2 **カーソル ▼ (または ▲)を押して設定項目を選ぶ**

BAL : フロントスピーカーの音量バランスを調節します。
↕
DEC1 : デジタル１端子のデコードモードを設定します。
↕
DEC2 : デジタル2端子のデコードモードを設定します。

3 **カーソル ▶ (または ◀)を押して設定または調節する**

BAL:

左右どちらかの音量を下げます。右側を下げるときは、**カーソル◀**を押し(R-1～R-21)、左側を下げるときは**カーソル▶**を押し(L-1～L-21)ます。押すごとに左右の音量が変わります。バランスが合っているときは「CENTER」と表示されます。

DEC1、2 :

デジタル１、2に接続された外部機器の音声がドルビーデジタルやDTSのとき、またはBSデジタルチューナーなどを接続しているときにデコードモードを設定しておくことができます。

次のようなときに便利です。

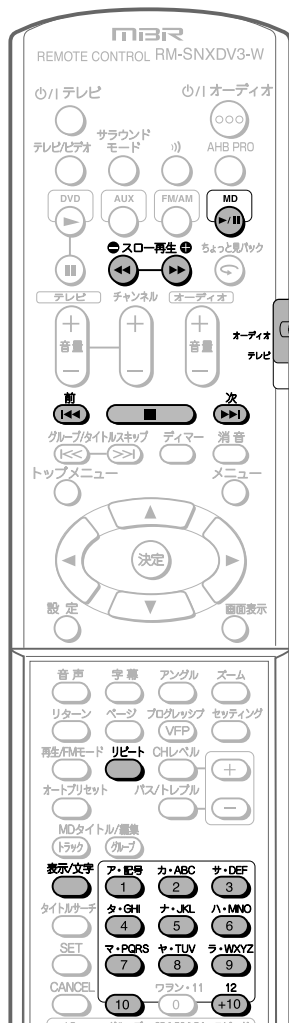
- 再生の冒頭部分で音声が聞こえないとき
- チャプターを選ぶとノイズが入るとき

AUTO/PCM : 通常はこれを選びます。
DTS : 音声がDTSのとき選びます。DTS以外の音声は聞こえません。

- 数秒後にソース(音源)表示に戻ります。

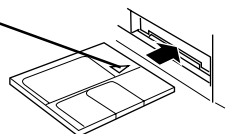
MDを聞く

本機のMDプレーヤーは、MD**LP**(「MD**LP**について」参照)で録音された曲の演奏に対応しています。

ご注意

- MD挿入口からMDが出ているとき、フロントドアを手で閉めないでください。故障の原因となることがあります。
- 電源「切」のときは、MDを入れることができません。無理に押し込むと故障の原因となります。

1 MD挿入口にMDを入れる

矢印のある面を上にして、矢印の向きに正しく差し込みます。MDは途中から引き込まれます。

- DISC INランプが点灯します。

ソース(音源)がMDのとき:
「MD READING」表示➡ディスクタイトル(ついているとき)**➡総曲数と総グループ数*➡総曲数と総演奏時間**
と表示されます。

- 未録音のMDを入れると「BLANK DISC」と表示されます。
- 長いタイトルはスクロール表示されます。

* グループ分けされていないときは「−−」表示になります。

2 MD ▶/II (本体は▷/II MD)を押す

ソース(音源)がMDになり演奏が始まります。

曲にタイトルがあるときは、曲タイトルが表示されてから、演奏経過時間などが表示されます。長いタイトルはスクロール表示されます。

演奏が終わると自動停止します。

MD**LP**について

音声圧縮技術ATRAC3により、MDを最長4倍の長さに使えるステレオ長時間録音モードをMD**LP**といいます。LP4モードでは、4倍長ステレオ録音ができ80分MDで最長320分の録音・再生が可能です(LP2モードでは2倍長ステレオ録音・再生)。

MDの再生モード
MDは録音したときの録音モード(SP、LP2、LP4)に従って演奏されます。演奏が始まると、その曲の再生モード(録音モードと一致します)が表示窓に表示されます。

- SP:本機でステレオ録音したMD、またはMD**LP**に対応していないMDレコーダーで録音したMDのとき
- LP2:2倍長時間録音(ステレオ)したMDのとき
- LP4:4倍長時間録音(ステレオ)したMDのとき

MDの基本操作

■ 演奏を停止する

① [■] を押す

■ 演奏を一時停止する

① 演奏中に [MD ►/II] を押す

演奏時間表示が点滅します。
- もう一度押すと、停止したところから演奏が始まります。

■ 曲の頭出しをする(スキップ)

① 演奏中に [次 ►►I] (または [前 I◄◄])を押す

次の曲(または演奏中の曲)の頭出しができます。くり返し押すと、さらに前後の曲の頭出しができます。
- 停止中に押すと、1曲ごとの演奏時間が表示されます。

■ 曲の早送り/早戻しをする(サーチ)

早送り/早戻し1(リモコンのみ)

① 演奏中に [⊕ ►►] (または [⊖ ◄◄])を押す

② 聞きたいところで [MD ►/II] を押す

そこから演奏が始まります。

早送り/早戻し2

① 演奏中に [次 ►►I] (または [前 I◄◄])を押したままにする

② 聞きたいところで指を離す

指を離したところから演奏が始まります。

■ 演奏中にタイトルなどを見るには

① [表示/文字] を押す

曲数と演奏時間、曲タイトル、グループタイトル、現在時刻などが順番に表示されます。
停止中に押すと、総グループ数、ディスクタイトル、現在時刻を見ることができます。

■ MDを取り出す

① 本体の [⏏] (MD取り出し)を押す

出てきたMDは抜き取ってから他の操作をしてください。

聞きたい曲を指定する
(ダイレクト演奏)

1 聞きたい曲を数字ボタン ([ア・記号 1] ～[10]、[12 +10])で選ぶ

停止中は、押した数字の曲番号が表示され、ダイレクト演奏が始まります。

数字ボタンの使いかた

1～10の番号を選ぶとき

[ア・記号 1] ～ [10] のいずれかを押します。

11以上の番号を選ぶとき

15を選ぶ：[12 +10] ➡ [ナ・JKL 5]
20を選ぶ：[12 +10] ➡ [10] と押します。

21以上の番号を選ぶとき

25を選ぶ：[12 +10] ➡ [12 +10] ➡ [ナ・JKL 5]
30を選ぶ：[12 +10] ➡ [12 +10] ➡ [10]
と押します。

MDのリピート演奏

1 [リピート] を押してリピートモードを選ぶ

REPEAT ALL (全曲リピート演奏)	：MDの全曲をくり返し演奏します。
REPEAT TRACK (1曲リピート演奏)	：現在演奏中の曲、またはこれから演奏する1曲をくり返します。

リピート演奏のモードを解除する
リピートをくり返し押して「**REPEAT OFF**」を選びます。
- MDを取り出したり電源を「**切**」にしても、リピート演奏のモードは解除されます。

MDのいろいろな演奏

「オーディオ」側にしておきます。

MDのプログラム演奏

解説・条件

- 最大32曲までプログラムして聞くことができます。

<MDが停止中に>

1 再生/FMモード を押して本体表示窓にPRGMを点灯させる

SW L R S.SPK F1 - - MD PROGRAM PRGM GR

PRGM

- すでにプログラムされているときは、曲番号、プログラム番号が表示されます。

2 数字ボタンを押してプログラムする

- 数字ボタンの使いかたは**45**ページ「聞きたい曲を指定する(ダイレクト演奏)」を参照してください。
- 番号を間違えたときは、CANCELを押します。最後のプログラム内容が消えます。

3 を押す

プログラムした曲の演奏が始まります。

- 演奏が終わると自動停止します。

プログラムの内容を確認する

停止中に ►►I(または I◄◄)を押すと、プログラムの曲順を確認することができます。

プログラムを修正する

停止中にCANCELを押します。プログラムの最後の曲から順番に削除されます。

プログラム演奏のモードを解除する

停止中に**再生/FMモード**をくり返し押して、表示を「PRGM」以外にします。

プログラム内容をすべて削除する

CANCELを2秒以上長押しします。すべてのプログラム内容が消去されます。

本体の ▲(MD取り出し)を押してMDを取り出す、または電源を「**切**」にしたときもすべてのプログラムが消去されます。

お知らせ

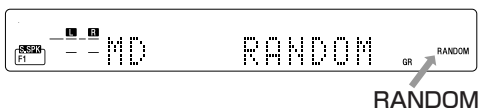
- MDのいろいろな演奏とリピート演奏を組み合わせたとき:
  プログラム演奏とリピート全曲演奏を組み合わせると、プログラムした全曲をくり返し演奏します。
  ランダム演奏とリピート全曲演奏を組み合わせると、ランダム演奏の曲順はくり返されるたびに異なります。
  グループ演奏とリピート全曲演奏を組み合わせると、選んだグループの曲だけをくり返し演奏します。
- プログラム演奏のとき、33曲目をプログラムすると、「MEMORY FULL」と表示され、これ以上はプログラムできません。

MDのランダム演奏

解説・条件

- MDに収録されているすべての曲を、本機がランダム(無作為)に選んで演奏します。

<MDが停止中に>

1 再生/FMモード **をくり返し押して本体表示窓にRANDOMを点灯させる**

RANDOM

2 MD ►/II **を押す**

最初の曲の曲番号が表示され、演奏が始まります。

- ►►I を押すと、現在演奏中の曲を飛ばして次の曲を演奏します。
- I◄◄ を押すと、演奏中の曲の頭出しをします。前の曲には戻れません。
- 収録されている曲の演奏がすべて終わると自動停止します。
- 一度演奏した曲は、再び選曲されません。

ランダム演奏のモードを解除する

停止中に**再生/FMモード**をくり返し押して、表示を「**RANDOM**」以外にします。またはMDを取り出す、電源を「**切**」にします。

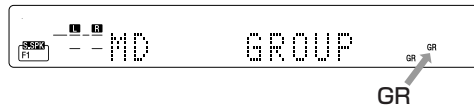
MDのグループ演奏

解説・条件

- 選んだグループに登録されている曲だけを演奏します。

<MDが停止中に>

1 再生/FMモード **をくり返し押して本体表示窓にGRを点灯させる**

GR

2 MD **を押す**

グループ1の最初の曲番号が表示され、演奏が始まります。

- グループが1つもないときは、通常演奏と同じになり、表示窓の**GR**表示が消灯ます。
- グループ１を聞くときは、**手順3**の操作をしないで、このままお聞きください。
  グループ登録された曲の演奏がすべて終わると自動停止します。

3 >>I **(または** I<< **)を押して演奏するグループを選ぶ**

選んだグループの最初の曲番号が表示され、演奏が始まります。

グループ登録された曲の演奏がすべて終わると自動停止します。

同じグループ内の演奏曲を変える

►►I (または I◄◄)を押します。

他のグループの曲や、グループ登録されていない曲を選ぶことはできません。

演奏グループを変える(グループスキップ)

グループ演奏中に>>I (または I<<)を押します。

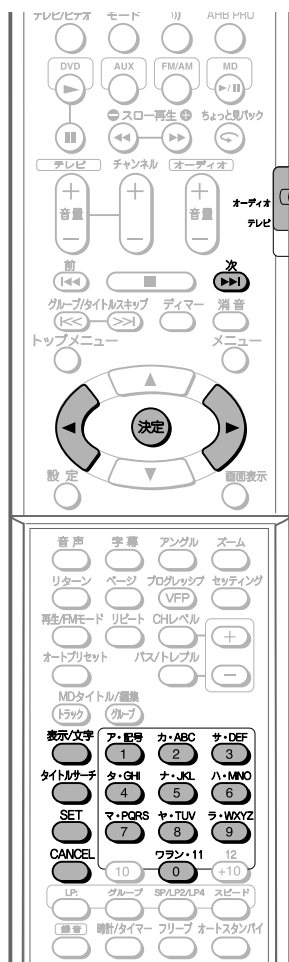
- 通常演奏中に上記の操作をすると、そのグループの最初の曲からMDの最後の曲まで演奏されます。

グループ演奏のモードを解除する

停止中に**再生/FMモード**をくり返し押して、表示を「**GR**」以外にします。

- MDを取り出したり電源を「**切**」にしても、グループ演奏のモードは解除されます。

MDのタイトルサーチ

本機では、曲タイトルやグループタイトルを探して（タイトルサーチ）演奏することができます。タイトルを探したいMDを本機に入れておきます。

タイトル入力に使うボタン

表示/文字	：文字の種類を切換えます。
カーソル◄、►	：入力位置を移動します。
数字ボタン(1~9、0)	：文字を入力します。
CANCEL	：入力した文字を消します。

- 詳しい入力方法は**58**ページの「タイトル入力のしかた」をご覧ください。

お知らせ

- タイトルサーチの場合、空白（スペース）も文字として扱われますが、空白（スペース）の後ろに文字がないときは、無視されます。
- タイトルサーチでは、英大文字と英小文字は区別されます。

条件 ＜停止中または演奏中に＞

1 曲タイトルを探すとき：

タイトルサーチ を1回押してから、SET を押す

グループタイトルを探すとき：

タイトルサーチ を2回押してから、SET を押す

表示窓に入力表示が現れます。
- 演奏中のときは停止します。
- ソース（音源）がMD以外のときは、タイトルサーチができません。

例：曲タイトルを探すとき

SEARCH
TR.T.>

2 探したいタイトルを入力する

探したいタイトルの最初の1～5文字まで入力します。

例：「F」と入力したときは、「F」で始まるタイトルを曲番号順に探します。
「Frien」と入力したときは、「Frien」で始まるタイトルを曲番号順に探します。

- タイトル入力に使うボタンは、左の説明をご覧ください。
- タイトルが記録されていない曲（NO TITLE）を探すときは、何も入力しないで**手順3**に進みます。
- 途中でやめるときは、**タイトルサーチ**を押します。

3 決定 を押す

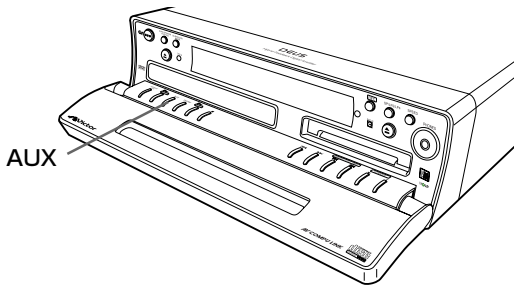
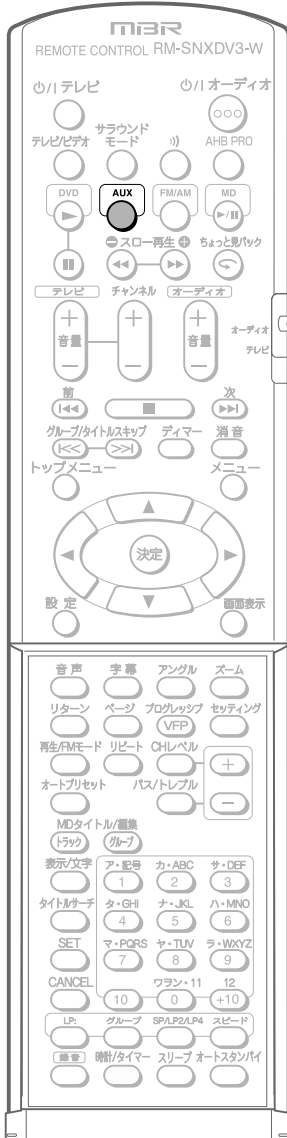
「SEARCH」と表示され、タイトルサーチが始まります。曲が見つかると演奏が始まります。
演奏が終わると再び次のタイトルサーチが始まります。該当する曲が見つからないときは、「SEARCH END」と表示され、自動停止します。

- 探したいタイトルがMDにないときは、「NOT FOUND」と表示され、自動停止します。

次の曲を探すには

►►I を押すと、「SEARCH」と表示され次の曲のタイトルサーチが始まります。曲が見つからないときは、「SEARCH END」と表示され、タイトルサーチが終了します。

他の機器の音声を聞く

本機背面のAUX端子、デジタル1、2入力に接続した他の機器の音声を楽しむことができます。

1 [AUX] **をくり返し押して「AUX」、「AUX-DIGITAL1」、「AUX-DIGITAL2」のいずれかを選ぶ**

2 他の機器の再生を始める

- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

3 音量などを調節する

（➡**24**～**25**ページ「基本操作」参照）

録音する前に

ステレオ長時間録音(MDLP)

本機はステレオ音声のまま2倍または4倍の長時間録音(MDLP)に対応しています。
1枚のMDに違うモード(SP: 標準/LP2: 2倍長時間/LP4: 4倍長時間)の曲を混在させて録音することもできます。MDの録音残量は録音モードに応じて変わります。

SP ：**標準のステレオ録音**
(MD80で最大80分の録音)
LP2 ：**2倍長時間録音(ステレオ)**
(MD80で最大160分の録音)
LP4 ：**4倍長時間録音(ステレオ)**
(MD80で最大320分の録音)
ラジオ放送の長時間録音などに使用すると便利です。

- 録音モードが長時間(SP→LP2→LP4)になるにしたがって、音質に差がでます。最良の音質で録音したいときは、SPを選んでください。
- LP2またはLP4モードで録音したMDを、SPモードで録音することもできます。
- 本機では、モノラル長時間録音はできません。

ご注意

- **LP2またはLP4で録音された曲は、「MDLP」の再生に対応した機器以外では再生できません。曲タイトルの始めに「LP:」と表示され、無音状態になります。「MDLP」に対応した機器で再生すると、「LP:」は表示されません。**
  「LP:」はつけない設定にすることもできます。(➡51ページ「LP:の設定」参照)
- **MDの編集をするとき、録音モード(SP/LP2/LP4)の異なる曲をつなげる(JOIN)ことはできません。**

グループ録音

録音開始から終わりまでを1つのグループとして録音します(お買い上げ時の設定)。
- グループとして録音しない設定もできます。(➡**51**ページ「グループ録音の設定」参照)

オーディオCDの倍速録音

オーディオCDの音声は5倍速で録音することができます。
- 倍速録音中は、音声を聞くことはできません。

1トラック(1曲)録音

オーディオCD/ビデオCD/スーパービデオCD/DVDオーディオ/MP3/WMAディスクの音声を録音するときに使えます。
演奏中の1トラック(1曲)だけを録音することができます。(➡**52**ページ参照)

シンクロ録音

ディスクの再生開始と同時にMDの録音が開始します。再生が終了すると録音も終了します。

サウンドシンクロ録音

接続した他の機器(AUXまたはAUX-DIGITAL1、2)の音声を録音するときに使えます。
接続した他の機器(AUXまたはAUX-DIGITAL)からの音声信号に反応して録音を開始します。30秒音声が途切れると、録音を中止します。

トラックマークについて

MDには、曲ごとの頭の部分に曲番がついています。この曲番を「トラックマーク」と呼び、このトラックマークとトラックマークの間が「曲」としてみなされます。
- ディスクからの音声を録音するときは、曲の変わり目に自動でトラックマークがつきます。ただし、DVDビデオ/DVDオーディオの場合、正しくつかいないことがあります。
- ラジオ、AUX、AUX-DIGITAL1、AUX-DIGITAL2の音声を録音するときは、トラックマークをつけたいところでリモコンの**SET**を押してトラックマークをつける**マニュアルマーク方式**(お買い上げ時の設定)、5分間隔で自動的にトラックマークがつく**タイムマーク方式**、無音部分が3秒以上続くと自動でトラックマークがつく**オートマーク方式**があります。

マニュアルマーク方式/タイムマーク方式/オートマーク方式の切換えについては、「ラジオ放送、他の機器の音声を録音する」(➡**55**ページ参照)をご覧ください。

録音をする前に

- 大切な録音の場合は、必ず等速で試し録音をして正常に録音できることを確認してからお使いください。(同じ曲の倍速録音は74分後になります)
- MDには最大254曲(トラック)まで録音することができます。
- オーディオCD/ビデオCD/スーパービデオCDの音声は、デジタル信号のまま録音されます。
  CD-R/RWの音声は、「**SCMS CANNOT COPY**」が表示されデジタル録音できません。このようなときは、「**CD-R/RWの録音**(➡**53**ページ参照)」をご覧になり、アナログ録音してください。
  DVDビデオ/DVDオーディオ、MP3/WMAディスク、ラジオ、AUXの音声はアナログ信号をデジタル信号に変換してから録音されます。
- 途中まで録音してあるMDのときは、その終わりを自動的に探して未録音部分の始まりから録音されます。
  新たに録音し直すときは、ALL ERASE (➡**62**ページ参照)で全部の曲を消してから録音してください。
- 録音をしながらMDに曲タイトルをつけることができます(➡**56〜58**ページ参照)。
- 録音中は、本機の音量・音質を変えても録音される音声には影響ありません。

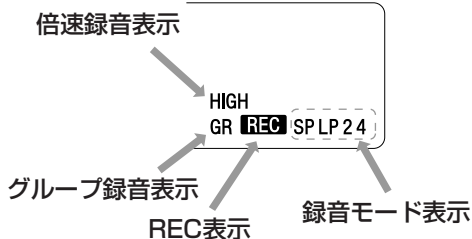
HCMS(倍速録音での著作権保護)について

MDへの倍速録音では、著作権保護のため倍速(等速を超える)録音に関する規定があります(➡**77**ページ参照)。
- この規定により、オーディオCDから一度5倍速録音した曲は、その曲の録音開始から74分が経過しないと、その曲の再録音はできません。
- 74分が経過する前に同じ曲を録音しようとすると、「HCMS CANNOT COPY」が表示されて録音が停止します。

ご注意

- **MDの録音/編集中は、本機に振動を与えないようにしてください。特に「WRITING」の表示中は注意してください。MDが演奏できなくなるおそれがあります。**
- **ディスクを録音すると、リピート演奏のモードは解除されます。**

MDカートリッジのラベルについて
- **MDカートリッジのラベルは、はがれないように端の方までしっかりと張りつけてください。万一、ラベルエリアよりもはみ出したり、はがれかかったままお使いになると、MDが取り出せなくなったり、故障の原因になることがあります。**

録音状態表示

MD の録音残量を見るには

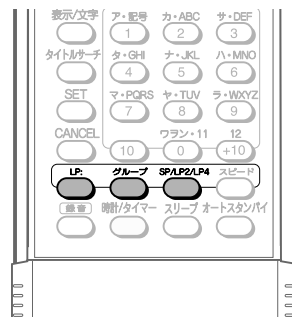
① **録音用MDをMD挿入口に入れる**

② **を押してソース(音源)を外部機器にする**

接続した機器の電源は「**切**」にしておきます。
- ソース(音源)がDVDまたはラジオのときも録音残量を見ることができます。

③ SP/LP2/LP4 **を押して録音モードを選ぶ**

④ **を押して録音残量時間を表示させる**

録音する前の設定

■ LP:の設定

ステレオ長時間録音された曲の頭の部分にLP: をつける／つけないの設定をします。

① LP: **を押す**

押すごとに次のように変わります。

(LP：) OFF：曲タイトルの頭に**LP：**がつきません。
(LP：) ON：曲タイトルの頭に**LP：**がつきます。

■ グループ録音の設定

これから録音する曲や放送などを一つのグループとして登録するとき**MD GROUPの設定**を「**ON**」にします。

① グループ **を押す**

押すごとに次のように変わります。

GROUP REC ON：グループとして録音します。MD録音状態表示の**GR**が点灯します。
GROUP REC OFF：グループとして録音しません。MD録音状態表示の**GR**は点灯しません。

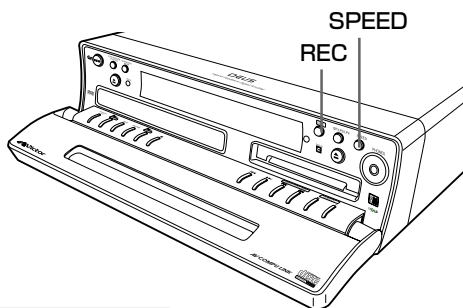
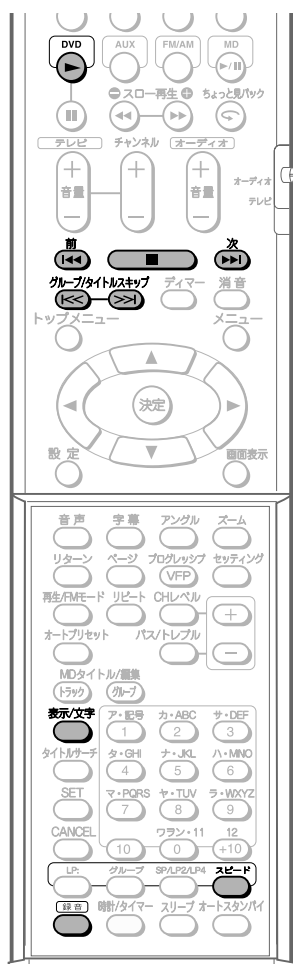
■ 録音モードの設定

事前に録音するソース（音源）を選んでから、ステレオ長時間録音（MDLP）のモードを設定します。

① SP/LP2/LP4 **を押して録音モードを設定する**

押すごとに録音モードが変わります。

ディスクの音声を録音する

録音レベルは自動調節されます。

大切なお知らせ

ディスクを再生中に**録音**(本体は**REC**)を押すと、**1トラック(曲)録音**になり、再生中のトラック(曲)の録音が終了すると自動停止します。

ディスクの途中から録音するつもりで上記の操作をすると、再生中以降のトラック(曲)は録音されません。

このようなときは、ディスクの停止中に録音を開始するトラック(曲)を選んでから**録音**(本体は**REC**)を押します。

準備

録音用のMDをMD挿入口に入れ、LP:の設定、グループ録音の設定、録音モードの設定を確認しておきます(「録音する前の設定」➡51ページ参照))。

- 誤消去防止つまみを閉じておきます(**➡79**ページ参照)。

基本操作

1 録音するディスクを入れ、

 を押してから ■ を押す

- **DVDビデオ(音楽ソフトなど)の場合**
  タイトル/チャプターを再生し、一時停止してから |◀◀ (または|<<)を押して曲の先頭に戻します。
  - ディスクによっては、正しく録音されないことがあります。

2 録音 を押す

ディスクとMDの録音が始まり、表示窓のREC表示が点滅します。

ディスクの再生が終わると、「WRITING」と表示され録音も自動的に終了します。

- MDの録音残量時間がなくなったときも、自動停止します。

- 録音を途中で停止するときは、■(停止)を押します。

1トラック録音
(再生中のトラックだけ録音する)

1 録音したいトラックの再生中(または一時停止中)に

 を押す

再生中のトラックの頭に戻り、そのトラックだけを録音してからMDとディスクが自動停止します。

- DVDビデオでは、1トラック録音はできません。DVDビデオを再生中に**録音**を押すと、その場所からの録音になります。

オーディオCDの5倍速録音

1 録音するオーディオCDを入れ、 を押してから ■ を押す

2 スピード を押して録音スピードを選ぶ

押すごとに次のように変わります。

x1 ⟷ x5（表示窓のHIGH点灯）
（等速）（5倍速）

3 録音 を押す

• **オーディオCD以外のディスクのときに**「x5」（5倍速）を選ぶと、**録音**を押したとき「CANNOT REC x1 REC ONLY」と表示され録音できません。

プログラム録音

1 録音するディスクを入れ、プログラム再生の操作をする

（**37**ページ「プログラム再生」参照）

• DVD ►は押さないで停止状態のままにしておきます。
• オーディオCDをプログラム録音するとき、録音スピードは「x1」（等速）を選んでください。
「x5」（5倍速）を選んで録音を開始すると「CANNOT REC x1 REC ONLY」と表示され、録音されません。

2 録音 を押す

録音が始まります。
プログラム再生が終わると、「WRITING」と表示され録音も自動的に終了します。

録音する

CD-R/RWの録音

CD-R/RWの音声をMDに録音するとき、**録音**（本体は**REC**）を押すと、表示窓に「SCMS CANNOT COPY」が表示され、デジタル録音ができないことがあります。
このようなときは、録音スピードを「x1」（等速）にし、本体の**REC**（リモコンではできません）を4秒以上押します。「ANALOG REC？」が表示されている間にもう一度**録音**（本体は**REC**）を押して、アナログ録音してください。

指定したグループまたはトラック番号以降の録音

ディスクの停止中に指定します。
• **録音**を押す前に操作してください。

オーディオCD/ビデオCDのとき
►►I または I◄◄ でトラックを指定します。指定したトラック番号以降のトラックを録音します。

DVDオーディオ/MP3/WMAディスクのとき
>>I または I<<でグループを指定します。指定したグループの最初のトラック以降のトラックを録音します。
►►I または I◄◄ でトラックを指定します。指定したトラック番号以降のトラックを録音します。

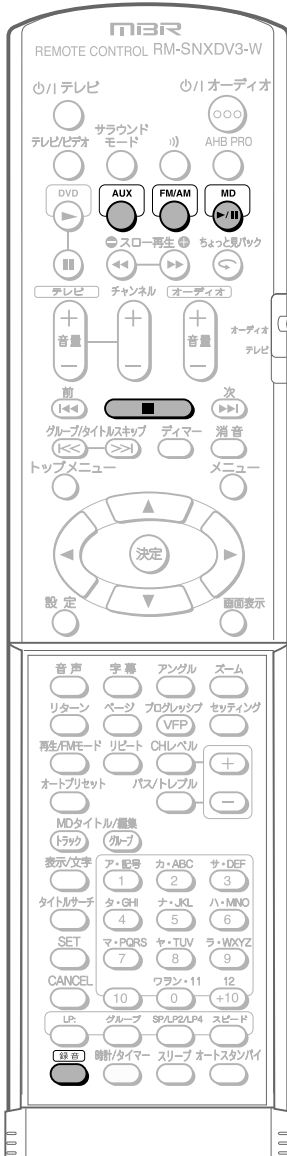
録音中の表示窓の表示内容を切換える

リモコンの**表示/文字**を押すごとに、MDの録音残量時間→MDの曲番号→グループ番号→ソース（音源）表示→現在時刻→MDの録音残量時間→…に切換わります。

お知らせ

• オーディオCDの5倍速録音中は、音声を聞くことはできません。
• オーディオCDの5倍速録音ではディスクを高速で回転させるため、オーディオCDの状態によっては正しく録音されず、雑音などが録音されることがあります。
このようなときは、等速で録音し直してください。
• 著作権保護のため、オーディオCDから一度5倍速録音した曲は、その曲の録音開始から74分が経過しないと、その曲の再録音はできません（**HCMS** ➡**51**ページ参照）。
• DVDビデオを録音中は、字幕言語、音声言語、アングル、ズームなどのDVDの操作、サラウンドモードの切換えはできません。
• 録音中、サラウンドモードは一時的に解除されます（➡**42**ページ参照）。

ラジオ、他の機器の音声を録音する

録音レベルは自動調節されます。

準備

録音用のMDをMD挿入口に入れ、LP:の設定、グループ録音の設定、録音モードの設定を確認しておきます(「録音する前の設定」➡51ページ参照))。
- 誤消去防止つまみを閉じておきます(➡**79**ページ参照)。

ラジオ放送を録音する

1 FM/AM **を押してから数字ボタンなどで録音したい放送局を選局する**

2 **トラックマークのつけかたを選ぶ**
- 「トラックマークの設定」(➡**55**ページ)をご覧ください。

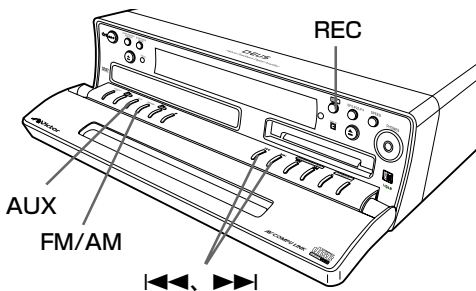
3 録音 **を押す**

表示窓のREC表示が点滅し、録音が始まります。

4 **録音をやめるときは** ■ **を押す**

「WRITING」と表示され録音が終了します。
- MDの録音残量時間がなくなったときも、自動停止します。

トラックマークをつけるときは

「トラックマークをつける」(➡**55**ページ)をご覧ください。

他の機器の音声を録音する
（サウンドシンクロ録音）

1 AUX を押して外部入力を選び、他の機器の演奏準備をする

2 トラックマークのつけかたを選ぶ

- 「トラックマークの設定」（右の説明）をご覧ください。

3 録音 を押す

表示窓のREC表示が点灯し、録音待機状態になります。

4 「AUX>（録音残量時間）」または「AUXD1またはAUXD2>（録音残量時間）」と表示されるのを待って、接続した機器の演奏を始める

音声が入力されると録音が自動的に始まります（**サウンドシンクロ録音**）。
また、MD ►/❚❚を押して録音を始めることもできます。

5 録音をやめるときは ■ を押す

「WRITING」と表示され録音が終了します。

- MDの録音残量時間がなくなったときも、自動停止します。

トラックマークをつけるときは
「トラックマークをつける」（右の説明）をご覧ください。

ご注意

- 接続する外部機器や再生する音量によっては、うまく録音できないことがあります。そのようなときは、外部機器側の出力レベル設定などをし直してください。

トラックマークの設定

録音するソース（音源）がラジオまたは他の機器の音声の場合、トラックマークのつけかたを設定します。

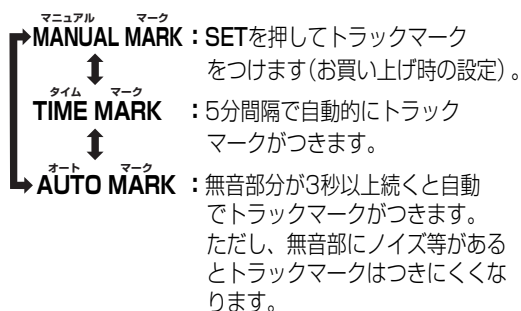
- **本体を使って設定します。**

① **トラックマークのつけかたが表示されるまで、本体の REC を約4秒間押す**

- お買い上げ時は「MANUAL MARK」が表示されます。
  次回からは設定した方式が表示されます。

② **表示中に本体の ►►❙（または ❙◄◄）を押して選ぶ**

押すごとに次のように変わります。

MANUAL MARK（マニュアル マーク）	SETを押してトラックマークをつけます（お買い上げ時の設定）。
TIME MARK（タイム マーク）	5分間隔で自動的にトラックマークがつきます。
AUTO MARK（オート マーク）	無音部分が3秒以上続くと自動でトラックマークがつきます。ただし、無音部にノイズ等があるとトラックマークはつきにくくなります。

トラックマークをつける

マニュアルマーク方式（MANUAL MARK）のとき：
録音中に曲の変わり目などでSETを押してトラックマークをつけます。

タイムマーク方式（TIME MARK）のとき
5分間隔で自動的にトラックマークがつきます。
SETを押してもトラックマークをつけることはできません。

オートマーク方式（AUTO MARK）のとき
録音中に無音部分が3秒以上続くと自動でトラックマークがつきます。
SETを押してトラックマークをつけることもできます。

録音が終わったあとでもMDの編集機能（「曲を分ける（DIVIDE）」➡ **60**ページ参照）でトラックマークをつけることができます。MD全体を1曲として録音したときなど、あとから「分ける・一部を消す」などの編集機能をお使いください。

タイトルをつける

タイトル編集する前に

- タイトルは、**カタカナ**、**英大文字/英小文字**、**記号**、**数字**を使って**最大61文字まで**つけることができます。

MDに入力できる文字数について

1枚のMDにつき、最大1792文字(英数字・記号)、1曲につき最大61文字のタイトル入力ができます。ただし、MDの記録方式の制約により実際に入力できる文字数は、これより少なくなります。

カタカナは1文字あたりのデータ量が多いため、入力できる文字数が少なくなります。スペース(空白)は文字と同じ量のデータを必要とします。

ステレオ長時間録音(LP2またはLP4)したときは、曲タイトルの先頭にLP: とスペース(空白4文字分)が自動的に記録されるため、曲数が多いと入力できる文字数がさらに少なくなります。

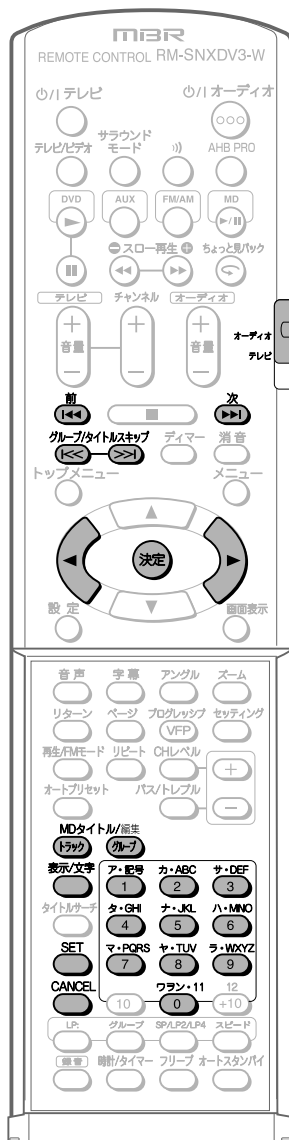
LP:はつけない設定にすることもできます(➡**51**ページ参照)。

例:
- ステレオ長時間録音で120曲を録音したMDでは、全曲に英数字で10文字ずつタイトル入力することができます。
- ステレオ長時間録音で60曲を録音したMDでは、全曲にカタカナで10文字ずつタイトル入力することができます。

タイトルリザーブ機能

- オーディオCDの録音中(1トラック録音は除く)は、16曲分のタイトルを前もって入力できます。
  - 録音が終了するまでに**決定**が押されなかったときは、入力した内容は取り消されます。
  - 録音する曲より多くのタイトルを入力すると、余ったタイトルは取り消されます。
  - グループ録音中は、そのグループのタイトルをつけることができます。

タイトルをつけるときのご注意

- タイトル入力の操作をしたあとで⏏(MD取り出し)を押すと、MDが出てくる前に「WRITING」が点滅し、編集した内容がMDに記録されます。「WRITING」が点滅している間は、振動を与えないように注意してください。演奏できなくなるおそれがあります。
- 誤消去防止状態のMDにはタイトルをつけることができません。タイトルをつけようとすると「DISC PROTECTED」が表示されます。
- MDがプログラム演奏中、ランダム演奏中、グループ演奏中は、**MDタイトル/編集**の**トラック**または**グループ**を押してもタイトル入力はできません。
- 62文字以上のタイトルは、本機で編集できません。タイトルを入力した機器で編集してください。

「オーディオ」側にしておきます。

1 タイトルをつけるMDを入れる

- 誤消去防止つまみを閉じておきます。（➡**79**ページ参照）

2 トラック または グループ を押してタイトル編集モードに切り換える

■ **ディスクタイトル、曲タイトルを編集するとき**

トラック を押す

タイトル編集表示になります。

DISC TITTLE?

- 曲タイトルを編集するときは、次（または前）を押して曲番号を選びます。
- 演奏中は、演奏中の曲番号が表示されます。ディスクタイトルを編集するときは、前 をくり返し押して「DISC TITLE?」を選びます。

■ **グループタイトルを編集するとき**

グループ を2回押す

グループタイトル編集表示になります。

GR. 1 TITTLE?

- ≫I（または I≪）を押してグループ番号を選びます。
- グループ分けされていないときは、「FORM GR」表示になります。

3 SET を押す

タイトル入力表示に切換わります。

- タイトルが入力されているときは、入力位置にタイトルが表示されます。

入力位置（点滅）

入力文字種
現在選ばれている文字種（例はカタカナ）が表示されます。
ア：カタカナ
A：英文字・記号
a：英子文字・記号
1：数字

4 タイトルを入力する

- タイトル入力のしかたは、「タイトル入力のしかた」（➡**58**ページ）をご覧ください。

タイトル入力に使うボタン

表示/文字	：文字の種類を切換えます。
カーソル◄、►	：入力位置を移動します。
数字ボタン(1~9、0)	：文字を入力します。
CANCEL	：入力した文字を消します。

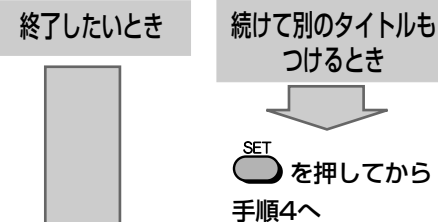
5 決定 を押してタイトルを登録する

表示窓に「EDITING」が表示され、タイトルが登録されます。

- 次のタイトル編集表示が現われます。

終了したいとき

続けて別のタイトルもつけるとき

SET を押してから手順4へ

6 CANCEL を押してタイトル入力を終了する

通常のモードに戻ります。

- **MDタイトル/編集**の**トラック**または**グループ**をくり返し押して、通常のモードに戻すこともできます。

7 本体の ⏏（MD取り出し）を押してMDを取り出す

- MDが出てくる前に「WRITING」表示が点滅表示され、編集した内容がMDに記録されます。

タイトル入力を途中でやめる

- 操作の途中で**MDタイトル/編集**の**トラック**または**グループ**を押します。タイトル入力をいつでも解除できます。

タイトルをつける（つづき）

タイトル入力のしかた

■ 入力文字を変更するときは

① 表示/文字 を押す

押すごとに文字の種類が切換わります。

- 入力したい文字は右の「文字配列表」で確認してください。

■ タイトルを入力する

① **数字ボタンを使って、1文字ずつ入力する**

1つのボタンに複数の文字が割り当てられていますので、文字ごとに、そのボタンをくり返し押して表示させます。

例:「ス」を入力するには

1）表示/文字 **を押して、「ア」を表示させる**

入力文字が「カタカナ」になります。

2）サ・DEF 3 **をくり返し押して「ス」を表示させる**

押すごとに「**シ➡ス➡セ➡ソ➡サ…**」と順番に表示されます。合計3回押して入力位置に「ス」を表示させます。

文字の入力位置を移動させるには

カーソル ▶（または ◀）を押します。右（または左）に1文字分ずつ移動します。入力位置で文字を入力すると新しい文字が入力され、そこにあった文字は右に１文字分移動します。

文字を訂正するときは

訂正したい文字に入力位置を移動させて CANCEL を押します。入力位置の文字が消去されます。右側に文字があるときは左に１文字分つまります。

「空白」をつくるには

カーソル ▶ で入力位置を右に移動させるか、文字種を[A]または[a]にして「記号」からスペース(空白)を選びます。

- 「ウエ」「NO」のように、**同じボタンを使う入力が連続するとき**は、**カーソル ▶** を押して、文字の入力位置を右に1文字分移動させてから入力します。

タイトル入力に使える文字・記号と数字

● 文字配列表

ボタン	カタカナ	英大文字	英小文字	数字
ア・記号 1	アイウエオァィゥェォ	記号*	記号*	1
カ・ABC 2	カキクケコ	ABC	abc	2
サ・DEF 3	サシスセソ	DEF	def	3
タ・GHI 4	タチツテトッ	GHI	ghi	4
ナ・JKL 5	ナニヌネノ	JKL	jkl	5
ハ・MNO 6	ハヒフヘホ	MNO	mno	6
マ・PQRS 7	マミムメモ	PQRS	pqrs	7
ヤ・TUV 8	ヤユヨャュョ	TUV	tuv	8
ラ・WXYZ 9	ラリルレロ	WXYZ	wxyz	9
ワヲン・11 0	ワヲン ゛ー ゜			0

＊「記号」で表示できる内容

<table>
<tr><td colspan="3">□スペース(空白)</td><td>!</td><td>”</td><td>#</td><td>$</td><td>%</td><td>&</td><td>’</td><td>(</td><td>)</td><td>*</td><td>+</td></tr>
<tr><td>,</td><td>–</td><td>.</td><td>／</td><td>:</td><td>;</td><td><</td><td>=</td><td>></td><td>?</td><td>@</td><td>_</td><td>`</td><td></td></tr>
</table>

- 「゛」や「゜」は、濁音や半濁音になる文字以外には入力することができません。

MDを編集する前に

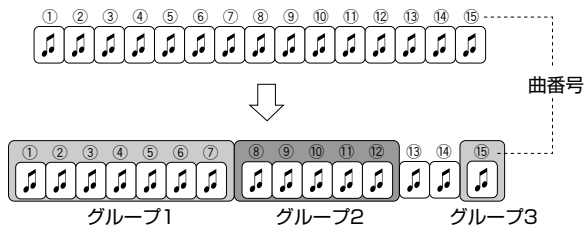
編集をする前に

- 再生専用MDは編集することができません。編集の操作をすると「PLAY BACK」が表示されます。
- 誤消去防止状態になっているMDは編集できません。編集の操作をすると「DISC PROTECTED」が表示されます。
- MDがプログラム演奏中、ランダム演奏中、グループ演奏中は、**MDタイトル/編集**の**トラック**または**グループ**を押しても編集のモードになりません。
- 編集操作が終了すると「EDITING」が表示されたあとに「WRITING」が点滅表示され、編集した内容がMDに記録されます。
  「WRITING」が点滅表示されている間は、振動を与えないように注意してください。演奏できなくなるおそれがあります。
- 操作の途中でCANCELまたは**MDタイトル/編集**の**トラック**または**グループ**を押すと、編集操作を中止することができます。

MDの曲(トラック)編集

- MDの曲(トラック)編集には「曲を分ける」、「曲をつなげる」、「曲を移動する」、「曲を消す」、「全曲を消す」があり、機能を組み合わせて使うこともできます。

MDのグループ機能とは

MDに収録されている曲(トラック)を最大99のグループに分けて登録することで、管理をより便利にするためのものです。

グループは、1曲(トラック)でも設定できます。また、連続する曲(トラック)をグループとして登録することができます。

MDのグループ機能には、次のものがあります。

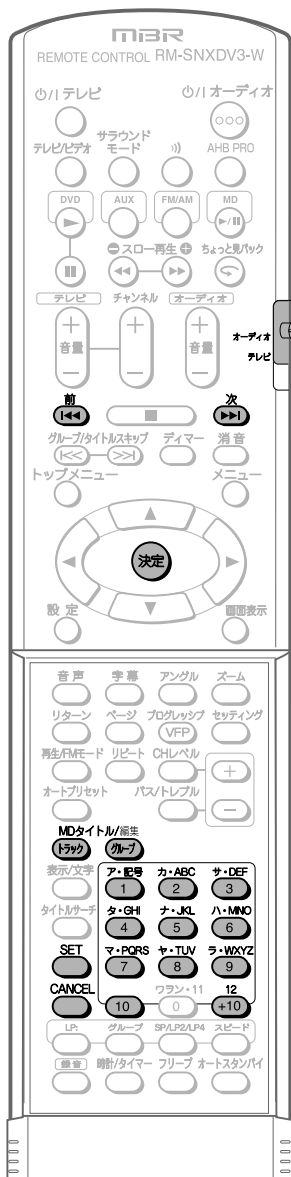
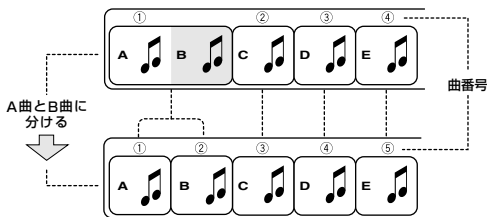
- **グループ演奏**　：1つのグループの曲(トラック)だけを演奏します(➡**47**ページ参照)。
  リピート演奏もできます。
- **グループ録音**　：録音と同時に、複数の曲(トラック)をまとめて1つのグループとして登録できます(➡**50**ページ参照)。
- **グループタイトル**：ディスクや曲(トラック)と同じように、グループにもタイトルをつけたり編集したりすることができます(➡**57**ページ参照)。
- **グループ編集**　：右の項目をご覧ください。

MDのグループ編集

MDのグループ編集には次の8つの機能があります。

これらの機能を組み合わせて使うこともできます。

- **「グループをつくる(FORM GROUP)」:**
  グループに属していない曲(トラック)から新しいグループを作ります
- **「グループに登録する(ENTRY GROUP)」:**
  曲をすでにあるグループに登録します。
- **「グループを分ける(DIVIDE GROUP)」:**
  1つのグループを2つのグループに分けます。
- **「グループをつなげる(JOIN GROUP)」:**
  2つのグループをまとめて1つのグループにします。
- **「グループを移動する(MOVE GROUP)」:**
  グループの移動をします。
- **「グループを解消する(UNGROUP)」:**
  1つのグループを解消します。曲(トラック)は消されません。
- **「全グループを解消する(UNGROUP ALL)」:**
  すべてのグループを解消して、グループのない状態にします。曲(トラック)は消されません。
- **「グループと曲を消す(ERASE GROUP)」:**
  グループと共にそのグループ内のすべての曲(トラック)を消します。

曲を編集する

曲を分ける(DIVIDE)

編集するMDをMD挿入口に入れておきます。

1 **トラック をくり返し押して「DIVIDE?」を選んでから、SET を押す**

MDが停止中のときは、1曲目の演奏が始まり、演奏中は演奏が継続します。

2 **次 ▶▶I(または 前 I◀◀)を押して編集したい曲を選ぶ**

- 演奏中に ▶▶I を押したままにすると早送りできます。分けたいところを探すときに便利です。

3 **曲を分けたいところで SET を押す**

押したところから3秒間がくり返し演奏されます。

POSI.

- 希望どおりに分けられたときは、**手順5**に進みます。

4 **次 ▶▶I(または 前 I◀◀)を押して微調節する**

±128ポジション(SP:標準モードで約±8秒)の範囲で分けるところが調節できます。

5 **SET を押す**

「YES→ENTER」が表示されます。

6 **決定 を押す**

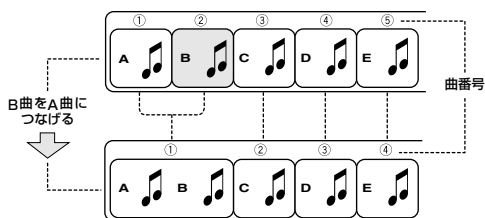
「EDITING」→「WRITING」と点滅表示され、編集した内容がMDに記録されます。

お知らせ

- 操作の途中で**CANCEL**を押すと、前の手順に戻ります。
- 操作の途中で**MDタイトル/編集**の**トラック**または**グループ**押すと、編集操作を中止することができます。
- 曲を分ける(DIVIDE)のとき254曲録音してあるMDなどは、**手順3**で**SET**を押すと「DISC FULL」が表示され、曲を分けることができません。
- 曲番号を選ぶとき、数字ボタン(1〜10、+10)を押して、直接選ぶこともできます。

曲をつなげる(JOIN)

（JOIN のふりがな：ジョイン）

となり合う2曲をつなげることができます。

編集するMDをMD挿入口に入れておきます。

1 **（トラック）をくり返し押して「JOIN?」を選んでから、（SET）を押す**

2 **（次）(または（前）)を押してつなぎたい2つの曲を選ぶ**

TR----+TR

表示は「1+2?」「2+3?」のように次々と変わっていきます。

3 **（SET）を押す**

「YES→ENTER」が表示されます。

4 **（決定）を押す**

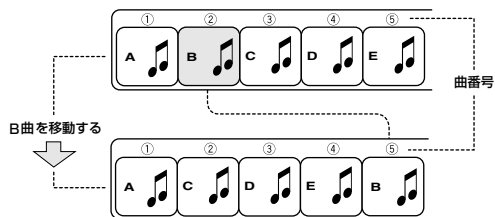
「EDITING」→「WRITING」と点滅表示され、編集した内容がMDに記録されます。

- 曲にタイトルがついているときは、番号が小さい方の曲タイトルが残ります。

つなげることができない曲またはMD

- 録音モード(SP/LP2/LP4)の異なる曲をつなげることはできません。つなげようとすると「CANNOT JOIN」が表示されます。

曲を移動する(MOVE)

（MOVE のふりがな：ムーブ）

編集するMDをMD挿入口に入れておきます。

1 **（トラック）をくり返し押して「MOVE?」を選んでから、（SET）を押す**

2 **（次）(または（前）)を押して移動したい曲番号を選び、（SET）を押す**

表示は「　←　2 ?」「　←　3 ?」のように変わります。

3 **（次）(または（前）)を押して移動先の曲番号を選び、（SET）を押す**

TR

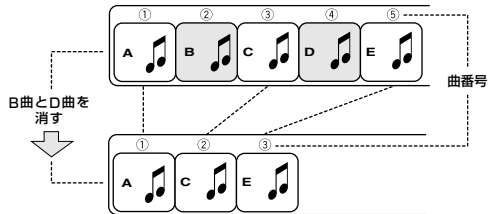
- 移動先の曲番号がグループ登録されているときは、移動後そのグループに登録されます。また、移動先の曲番号がグループ登録されていないときは、移動後にグループ登録からはずれます。

4 **（決定）を押す**

「EDITING」→「WRITING」と点滅表示され、編集した内容がMDに記録されます。

曲を消す(ERASE)

指定した曲を消します。最大15曲まで1回の操作で消すことができます。

ご注意

- 一度消去した曲は、戻すことができません。よく確認した上で消してください。

編集するMDをMD挿入口に入れておきます。

1 **トラック をくり返し押して「ERASE?」を選んでから、SET を押す**

2 **次 (または 前)を押して消したい曲番号を選び、SET を押す**

曲番号の前に「✓」がつきます。「✓」のついている曲が消えます。

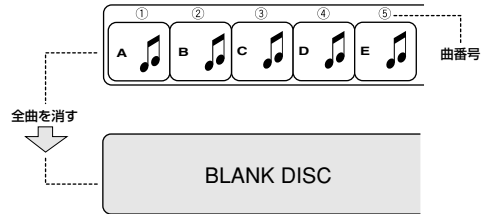
- 間違えたときは、CANCELを押して「✓」を消します。
- 手順2の操作をくり返して15曲まで選ぶことができます。

3 **決定 を押す**

4 **決定 を押す**

指定した曲が消えます。
「EDITING」→「WRITING」と点滅表示され、編集した内容がMDに記録されます。

全曲を消す(ALL ERASE)

MDに録音されている曲をすべて消してブランクディスクにします。

ご注意

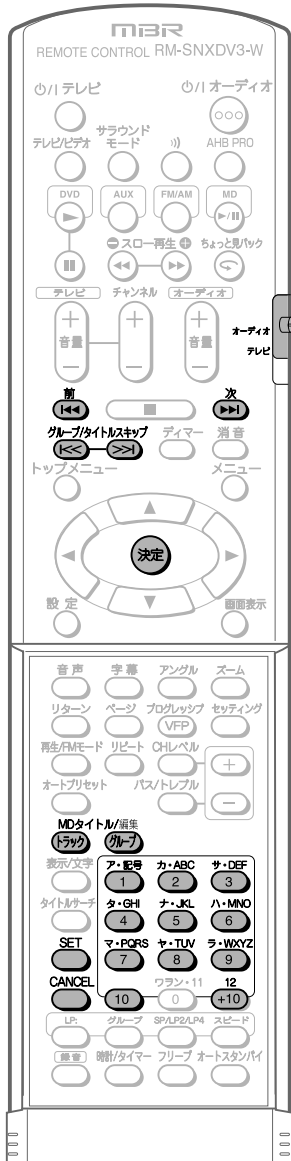
- 一度消去した曲は、戻すことができません。よく確認した上で消してください。

編集するMDをMD挿入口に入れておきます。

1 **トラック または グループ をくり返し押して「ALL ERASE?」を選んでから、SET を押す**

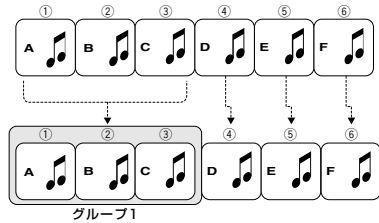
2 **決定 を押す**

「EDITING」→「WRITING」と点滅表示され、その後、全曲が消えて「BLANK DISC」と表示されます。

MDをグループ編集する

「オーディオ」側にしておきます。

グループをつくる(FORM GROUP)

（フォーム グループ）

どのグループにも登録されていない連続した曲から新しいグループをつくります。1曲でもグループにすることができます。

編集するMDをMD挿入口に入れておきます。

1 **［トラック］または［グループ］をくり返し押して「FORM GROUP?」を選んでから、［SET］を押す**

2 **［次］(または［前］)を押して新しいグループの先頭の曲を選び、［SET］を押す**

TR 1→TR ?

3 **［次］(または［前］)を押して新しいグループの最後の曲を選ぶ**

TR 1→TR 3?

4 **［SET］を押す**

「YES→ENTER」が表示されます。

5 **［決定］を押す**

「EDITING」→「WRITING」と点滅表示され、編集した内容がMDに記録されます。

- 他のグループに属している曲を選んだときは、「GROUP TRACK」と表示され、次の手順に進めません。
- 先頭の曲から最後の曲の間に他のグループがあるときは、「CANNOT FORM」と表示され、次の手順に進めません。

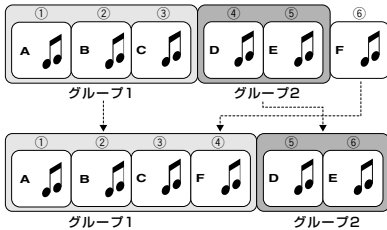
お知らせ

- 操作の途中でCANCELを押すと、前の手順に戻ります。
- 操作の途中で**MDタイトル/編集**の**トラック**または**グループ**押すと、編集操作を中止することができます。
- 曲番号を選ぶとき、数字ボタン(1〜10、+10)を押して、直接選ぶこともできます。

MDをグループ編集する（つづき）

グループに登録する(ENTRY GROUP)

（エントリー グループ）

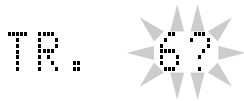
曲を選んで、指定したグループの最後の曲として登録します。

編集するMDをMD挿入口に入れておきます。

1 **グループ をくり返し押して「ENTRY GROUP?」を選んでから、SET を押す**

2 **次 (または 前)を押してグループに登録する曲を選ぶ**

TR. 6?

3 **SET を押す**

GROUP --?

4 **>>| (または |<<)を押して登録先のグループを選び、SET を押す**

選んだグループ番号が点滅表示されます。

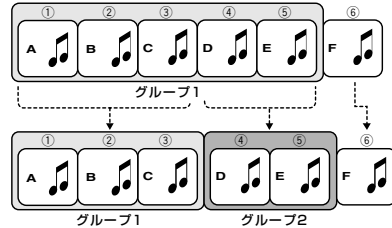
5 **決定 を押す**

「EDITING」→「WRITING」と点滅表示され、編集した内容がMDに記録されます。

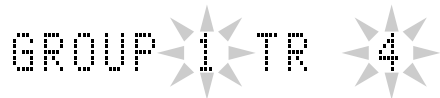
- すでにそのグループに属している曲を選んだときは、「CANNOT ENTRY」と表示され、次の手順に進めません。

グループを分ける(DIVIDE GR.)

（ディバイド グループ）

1つのグループを2つに分けます。

編集するMDをMD挿入口に入れておきます。

1 **グループ をくり返し押して「DIVIDE GR.?」を選んでから、SET を押す**

2 **>>| (または |<<)を押して分けるグループを選んでから、次 (または 前)を押してどの曲から分けるかを選ぶ**

- グループの先頭の曲やグループに登録されていない曲を選んだときは、次の手順に進めません。

3 **SET を押す**

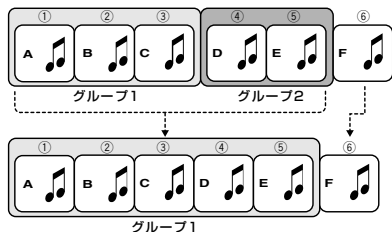
「YES→ENTER」が表示されます。

4 **決定 を押す**

「EDITING」→「WRITING」と点滅表示され、編集した内容がMDに記録されます。

- グループにタイトルがついているときは、分けたグループ両方に同じタイトルがつきます。

グループをつなげる(JOIN GROUP)

となりあう２つのグループを１つのグループにします。

編集するMDをMD挿入口に入れておきます。

1 グループ をくり返し押して「JOIN GROUP?」を選んでから、SET を押す

2 ≫I(または I≪)を押してつなげるグループの組を選ぶ

GR. 1+GR. 2?

連続するグループ番号が、表示されます。グループがないときは「--」と表示されます。

3 SET を押す

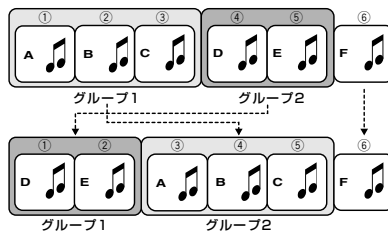
「YES→ENTER」が表示されます。

4 決定 を押す

「EDITING」→「WRITING」と点滅表示され、編集した内容がMDに記録されます。

- グループにタイトルがついているときは、番号が小さい方のグループタイトルが残ります。
- つなげるグループの間にグループ登録されていない曲があると、「CANNOT JOIN」と表示され、前の手順に戻ります。

グループを移動する(MOVE GROUP)

１つのグループを指定したところに移動させせます。

編集するMDをMD挿入口に入れておきます。

1 グループ をくり返し押して「MOVE GROUP?」を選んでから、SET を押す

2 ≫I(または I≪)を押して移動させるグループを選ぶ

GR. ←GR. 2?

3 SET を押す

4 ≫I(または I≪)を押して移動先を選ぶ

GR. 1←GR. 2?

5 SET を押す

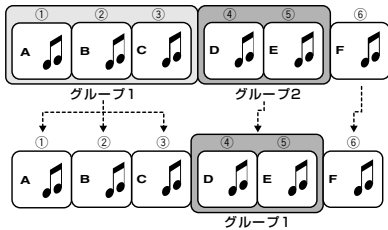
「YES→ENTER」が表示されます。

6 決定 を押す

「EDITING」→「WRITING」と点滅表示され、編集した内容がMDに記録されます。

MDをグループ編集する（つづき）

グループを解消する (UNGROUP/UNGROUP ALL)

指定したグループまたは全グループを解消します。解消されたグループ内の曲は消されません。

編集するMDをMD挿入口に入れておきます。

指定したグループを解消する(UNGROUP)

1 **グループ をくり返し押して「UNGROUP?」を選んでから、SET を押す**

2 **>>I (または I<<)を押して解消するグループを選び、SET を押す**

3 **決定 を押す**

「EDITING」→「WRITING」と点滅表示され、編集した内容がMDに記録されます。

全グループを一度に解消する(UNGROUP ALL)

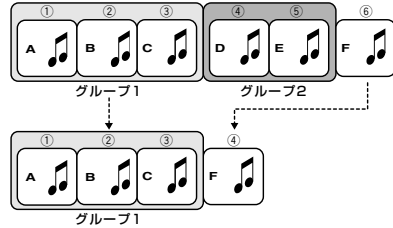
1 **グループ をくり返し押して「UNGROUP ALL?」を選んでから、SET を押す**

2 **決定 を押す**

「EDITING」→「WRITING」と点滅表示され、編集した内容がMDに記録されます。

グループと曲を消す(ERASE GROUP)

グループとそのグループ内の曲を消します。

ご注意

- 一度消去した曲は、戻すことができません。よく確認した上で消してください。

編集するMDをMD挿入口に入ておきます。

1 **グループ をくり返し押して「ERASE GROUP?」を選んでから、SET を押す**

2 **>>I (または I<<)を押して消すグループを選ぶ**

GR. 2 ERASE?

3 **SET を押す**

「YES→ENTER」が表示されます。

4 **決定 を押す**

「EDITING」→「WRITING」と点滅表示され、編集した内容がMDに記録されます。

タイマーを使う

タイマー操作をする前に

タイマーの設定をする前に、必ず本機の時計を現在時刻に正しく合わせておいてください(➡22ページ参照)。

- 時計合わせをしていないと、タイマーは働きません。

おやすみタイマー

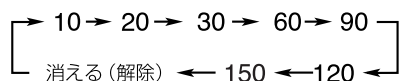
音楽やラジオ放送を聞きながら眠りたいときに使います。

電源を「**切**」にするまでの時間を設定し、おやすみください。設定した時間が経過すると自動的に電源が「**切**」になります。

1 スリープ を押す

表示窓の⏻とSLEEP表示が点滅し「SLEEP 10」と表示されます。

- 押すごとに、スリープ時間は次のように選べます。

10 → 20 → 30 → 60 → 90 → 120 → 150 → 消える（解除） → 10

- およそ5秒間ボタンを押さないでいると、自動的に設定されます。表示窓がソース（音源）の表示に戻り、⏻とSLEEP表示が点灯になります。
- おやすみタイマーを設定すると、ディマー機能（➡**25**ページ参照）が働き、表示窓が暗くなります。

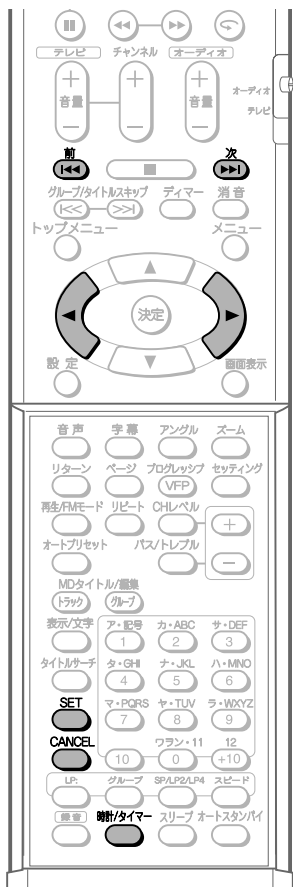
設定したスリープ時間を変更する

- おやすみタイマー設定後に**スリープ**を1回押すと、電源が「**切**」になるまでの**残り時間**が表示されます。
- 設定を変更するときは、**スリープ**をくり返し押して希望のスリープ時間を選びます。

おやすみタイマーを取り消す

- スリープ時間の表示が消えるまで、**スリープ**をくり返し押します。おやすみタイマーが解除されます。
- 電源を「**切**」にしたときも、おやすみタイマーは解除されます。

おやすみタイマーでおやすみになり、DAILYタイマーで目覚めるには

1. DAILYタイマーを設定する（➡**69**ページ参照）
2. 聞きたいソースを演奏する
3. **スリープ**を押してスリープ時間を設定する
   - 設定した時間が経過すると自動的に電源が「**切**」になり、プログラムタイマーの開始時刻で電源が「**入**」になります。

ご注意

- RECタイマーまたはDAILYタイマーで使用する他の機器は、タイマー機能のついた機器をご使用ください。
- DVDビデオ/DVDオーディオやビデオCDの場合、メニュー画面が表示されると待機状態になるものがあります。このようなディスクをRECタイマーまたはDAILYタイマーで使用すると、連続して音声や映像が再生されません。ご注意ください。

お知らせ

- ディスクやMDのプログラム演奏、ランダム演奏、グループ演奏はできません。
- 電源コードを外したり停電などで電源が切れたときは、タイマーの設定が解除されることがあります。設定内容が消えてしまったときは、時計とタイマーをもう一度設定し直してください。
- RECタイマー、DAILYタイマーは、開始時刻の1分前になると電源が「入」になり、タイマー動作の準備を始めます。
- RECタイマーで録音中は、音は出ません。

RECタイマー(録音タイマー)

留守中などにラジオ番組や接続した他の機器から留守録音するときに使います。
設定後に1度だけ動作します。
- 電源「**入/切**」どちらの状態でも設定できます。

準備
MD挿入口に録音用MDを入れておきます。
ラジオの音声を録音するときは、放送局をプリセットしておきます(➡**27**ページ)。
他の機器の音声を録音するときは、他の機器のタイマー設定をしておきます。

1 時計/タイマー を2回押して、RECタイマーの開始時刻設定表示にする

S.SPK F1 ----ON 0:00 REC GR SP

2 次 (または 前)と SET を使って、タイマーを設定する

- カーソル ►(または ◄)を押しても同様の操作ができます。

① 開始時刻の設定

「時」の設定 ➡ SET ➡「分」の設定 ➡ SET

② 終了時刻の設定

「時」の設定 ➡ SET ➡「分」の設定 ➡ SET

③ 録音するソース(音源)の設定

- 「TUNER FM」(FM放送)または「TUNER AM」(AM放送) ➡ SET ➡ 録音する放送局のプリセット番号の設定 ➡ SET
- 「AUX」または「AUX-DIGITAL1」または「AUX-DIGITAL2」から選び ➡ SET

④ 録音モードの設定

「SP REC」または「LP2 REC」または「LP4 REC」から選び ➡ SET

以上でRECタイマー(録音タイマー)の設定は終了です。

3 電源「入」でタイマーの設定をしているときは、電源を「切」にする

電源「**入**」の状態では、RECタイマー(録音タイマー)は動作しません。

DAILYタイマー(目覚ましタイマー)

目覚ましのように毎日同じ時刻に動作します。
• 電源「**入/切**」どちらの状態でも設定できます。

準備

ディスクを聞く	ディスクを入れる(➡**28** ページ)
MDを聞く	MD を入れる(➡**44** ページ)
ラジオを聞く	放送局をプリセットしておく(➡**27** ページ)
他の機器の音声を聞く	他の機器のタイマー設定をする

1 時計/タイマー を4回押して、DAILYタイマーの開始時刻設定表示にする

2 次 (または 前)と SET を使って、タイマーを設定する

• **カーソル** ►(または ◄)を押しても同様の操作ができます。

① 開始時刻の設定

「時」の設定 ➡ SET ➡ 「分」の設定 ➡ SET

② 終了時刻の設定

「時」の設定 ➡ SET ➡ 「分」の設定 ➡ SET

③ 再生ソース(音源)の設定

• **「DISC」➡ SET ➡ 再生開始するグループ(タイトル)の設定 ➡ SET ➡ 再生開始するトラック(チャプター)の設定 ➡ SET**
  – オーディオCD、ビデオCD、スーパービデオCDのときは、グループ(タイトル)の設定は無視して再生されます。
• **「MD」➡ SET ➡ 演奏開始するトラックの設定 ➡ SET**
• **「TUNER FM」(FM放送)または「TUNER AM」(AM放送) ➡ SET ➡ 受信する放送局のプリセット番号の設定➡ SET**
• **「AUX」または「AUX-DIGITAL1」または「AUX-DIGITAL2」➡ SET**

④ 音量の設定

お好みの音量に調節 ➡ SET

以上でDAILYタイマー(目覚ましタイマー)の設定は終了です。

3 電源「入」でタイマーの設定をしているときは、電源を「切」にする

電源「**入**」の状態ではDAILYタイマー(目覚ましタイマー)は動作しません。

RECタイマーの解除と再設定

解除:
時計/タイマーを1回押して「**REC TIMER**」を表示させてから**CANCEL**を押します。表示窓の ⏻ と**REC**表示が消えます。RECタイマーが終了したときも表示が消えます。

再設定:
RECタイマーの設定内容は記憶されています。
時計/タイマーを1回押して「**REC TIMER**」を表示させてから**SET**を押します。設定内容が順に表示され、⏻ と**REC**表示が点灯します。

DAILYタイマーの解除と再設定

解除(休日前夜など):
時計/タイマーを3回押して「**DAILY TIMER**」を表示させてから**CANCEL**を押します。表示窓の ⏻ と**DAILY**表示が消えます。

再設定:
DAILYタイマーの設定内容は記憶されています。
時計/タイマーを3回押して「**DAILY TIMER**」を表示させてから**SET**を押します。設定内容が順に表示され、⏻ と**DAILY**表示が点灯します。

オートスタンバイ機能を使う

本機には、ラジオ以外のソース(音源)のとき無音状態が3分以上続くと、自動的に電源が「切」になるオートスタンバイ機能があります。

1 オートスタンバイ を押す

表示窓に「A. STANDBY ON」が数秒間表示され、A. STANDBY 表示が点灯します。

オートスタンバイを設定すると
オートスタンバイ機能が動作すると、表示窓のA. STANDBY表示が点滅に変わります。

オートスタンバイの動作
ディスクまたはMDを再生しているとき、またはMDで録音しているとき:
再生または録音が終了すると、オートスタンバイ機能が動作し、何の操作もせずに3分が経過すると自動的に電源が「切」になります。
3分以内に再生または録音の操作をしたときは、再生または録音が終了してから再度オートスタンバイ機能が動作します。
再生または録音以外の操作をしたときは、最後の操作が行われてから何の操作もせずに3分間が経過すると、自動的に電源が「切」になります。

他の機器の音声を聞いているとき:
無音状態になるとオートスタンバイ機能が動作し、何の操作もせずに3分が経過すると自動的に電源が「切」になります。

電源が「切」になる20秒前になると表示窓の情報表示部に「A. STANDBY」と点滅表示されます。

オートスタンバイを解除する
オートスタンバイをもう一度押します。
表示窓に「A. STANDBY OFF」と数秒間表示され、A. STANDBY表示が消灯します。

お知らせ

- DVDビデオのメニュー画面表示中は、オートスタンバイが働きません。

チャイルドロック機能

MD挿入口、ディスクトレイを電子ロックして▲を押してもMDが出てこないようにしたり、ディスクトレイが出てこないようにします。
小さなお子様のいたずら防止などに便利です。

1 **電源を「切」にする**

電源が「入」のままでは設定できません。

2 **■を押したまま ▲(ディスク取り出し)を押す**

「LOCKED」と表示され、MD挿入口、ディスクトレイがロックされます。

LOCKED

- チャイルドロックするとMD、ディスクトレイのいずれの ▲ を押しても「LOCKED」と表示され、MDまたはディスクトレイが出てこなくなります。
- 電源「切」のときに▲を押すと「LOCKED」と表示されます。
  電源は「切」のままです。

チャイルドロックを解除する
もう一度、手順1と2の操作をします。
「UNLOCKED」と表示され、チャイルドロックが解除されます。

UNLOCKED

初期設定を変更する

お買い上げ時の本機の設定を、お使いの環境に合わせて変更することができます。

基本操作

条 件 ＜ソース(音源)がDVDで停止中のとき＞

1 設定 を押す

初期設定画面が表示されます。

（スピーカーポジションが「F1」または「F2」のとき）

設定アイコン

言語	
メニュー言語	日本語
音声言語	英語
字幕言語	日本語
画面表示言語	日本語

2 カーソル ▶（または ◀）を押して設定するアイコンを選び、カーソル ▼（または ▲）を押して設定する項目を選んでから 決定 を押す

3 カーソル ▼（または ▲）を押して各項目の設定をしてから 決定 を押す

初期設定画面を消すには
設定を押します。

言語設定画面

メニュー言語	DVD ビデオのメニューの言語を選びます。
音声言語	DVD ビデオの音声の言語を選びます。
字幕言語	DVD ビデオの字幕の言語を選びます。
画面表示言語	言語設定画面に表示される言語を選びます。

お知らせ

- 選んだ言語がディスクに収録されていないときは、ディスクに標準設定されている言語で表示されます。
- AAなどの言語コードについては、「言語コード一覧」(➡**74**ページ)をご覧ください。

お知らせ

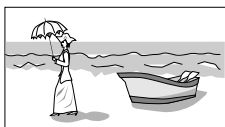
- ワイドテレビをお使いの場合、初期設定画面の上下の部分が切れた状態で表示されることがあります。このようなときは、テレビ側の設定で画像サイズを変えてください。

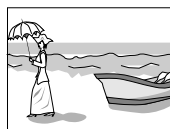
映像設定画面

　　　　がお買い上げ時の設定です。

TVタイプ

お使いのテレビに合わせて画面表示方法を選びます。

- 16:9
  普通のワイドテレビと接続したとき、この設定にします。

- レターボックス
  通常のテレビ(4:3)用。上下に黒い隙間がある状態で映ります。

- パンスキャン
  通常のテレビ(4:3)用。左右両端が切り取られる状態で映ります(ディスクがパンスキャンに対応していないときは、レターボックス表示になります)。

映像ソース

映像ソースに適した設定を選びます。

- オート
  素材タイプ(ビデオ/フィルム)を自動的に判別します。通常はこの設定にします。
- フィルム
  フィルム素材、またはプログレッシブスキャン方式で記録されたビデオ素材の映像に適しています。
- ビデオ
  ビデオ素材の映像に適しています。

スクリーンセーバー

画面の焼き付きを防止するスクリーンセーバー(➡**29** ページ)の **オン**/**オフ**を選びます。

ファイルタイプ

1枚のCD-R/CD-RWディスクに **オーディオ**(MP3/WMA)と**静止画**(JPEG)の両ファイルが含まれている場合、どちらのファイルを再生可能にするか選びます。

- 設定を変更したあとは、ディスクトレイを開閉してディスクを再度読み込ませてください。

音声設定画面

　　　　がお買い上げ時の設定です。

デジタルOUT(デジタル音声出力)

本機のデジタル出力端子に接続する機器に合わせて設定します。

- PCM のみ
  リニアPCMのみ対応しているデジタル端子付きアンプやＭＤレコーダー、ＤＡＴデッキなどと接続するとき、この設定にします。
- DOLBY DIGITAL/PCM
  ドルビーデジタルデコーダーの機能を備えたアンプ、あるいはドルビーデジタルデコーダーと接続するとき、この設定にします。
- ストリーム/PCM
  DTSデコーダー、ドルビーデジタルデコーダーの機能を備えたアンプ、またはそれぞれのデコーダーと接続するとき、この設定にします。

再生ディスク	「デジタルOUT」設定		
	ストリーム/PCM	DOLBY DIGITAL/PCM	PCMのみ
48kHz、16/20/24ビットリニアPCMのDVDビデオ 96kHzリニアPCMのDVDビデオ	48kHz、16ビットステレオのリニアPCM		
48/96/192kHz、16/20/24ビットリニアPCMのDVDオーディオ	48kHz、16ビットステレオのリニアPCM ＊著作権保護がかかっている場合は、出力されません。		
44.1/88.2/176.4kHz、16/20/24ビットリニアPCMのDVDオーディオ	44.1kHz、16ビットステレオのリニアPCM ＊著作権保護がかかっている場合は、出力されません。		
DTSのDVDビデオ・DVDオーディオ	DTSビットストリーム	48kHz、16ビッドステレオのリニアPCM	
ドルビーデジタルのDVDビデオ・DVDオーディオ	ドルビーデジタルビットストリーム		48kHz、16ビットステレオのリニアPCM
オーディオCD・ビデオCD・スーパービデオCD	44.1kHz、16ビットステレオのリニアPCM/48kHz、16ビットステレオのリニアPCM		
DTSのオーディオCD	DTSビットストリーム	44.1kHz、16ビットステレオのリニアPCM	
MP3/WMAディスク	32/44.1/48kHz、16ビットステレオのリニアPCM		

お知らせ

- 著作権保護の設定がされていないDVDビデオの中には20、または24ビットで出力されるものがあります。

Dレンジコントロール

ドルビーデジタル収録されたDVDビデオを小音量で再生したときの聞こえ方の差を補正します。

- オート
  Dレンジコントロールが自動的に働く
- オン
  Dレンジコントロールが常に働く。

スピーカー設定画面

スピーカーポジションが「R」のとき(➡20ページ参照)だけ初期設定画面にスピーカー設定のアイコンが表示され、設定できます。

レベル
サラウンドスピーカーまたはパワードサブウーハーの音量を調節することができます。

- **サラウンド右スピーカー、サラウンド左スピーカー 、サブウーハー**
  スピーカーを選んでから音量を調節します。
- **テストトーン**
  「**オン**」にするとテストトーンを始めます。テストトーンは現在使用されているスピーカーから出力されます。出力順番はリスニングポイントを中心に時計回りになります。
  「**オフ**」にするとテストトーンが終了します。
- **戻る**
  スピーカー設定画面に戻ります。

ディスタンス
各スピーカーの距離がリスニングポイントから等しくないとき、スピーカーごとの距離を設定します。スピーカーからの音声出力のタイミングを調節して、サラウンド効果を高めます。

- **フロントスピーカー**
  リスニングポイントからフロントスピーカーまでの距離を調節します。初期設定は3mで0.3m〜9mの範囲で調節できます。
- **サラウンドスピーカー**
  リスニングポイントからサラウンドスピーカーまでの距離を調節します。初期設定は3mで0.3m〜9mの範囲で調節できます。
- **戻る**
  スピーカー設定画面に戻ります。

その他設定画面

　　　がお買い上げ時の設定です。

リジューム
リジューム機能(➡30ページ)の オン /オフを選びます。

オンスクリーンガイド
オンスクリーンガイド表示(➡29 ページ)の オン/オフを選びます。

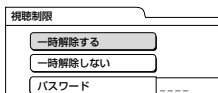
AVコンピュリンクモード
ビクターのテレビやAVアンプなどと連動させるとき、接続した機器の入力端子に合わせて設定します。(AVコンピュリンクの活用➡ 76 ページ)
DVD1、DVD2、DVD3から選びます。

視聴制限
DVDビデオの過激なシーンをカットしたり、他のシーンに差し替えたりする視聴制限を設定します(視聴制限に対応しているディスクのみ)。

- **カントリーコード(➡74ページ参照)**
  通常は「JP」を選びます。
- **セットレベル**
  数値が小さいほど制限が厳しく、「なし」は制限なし。
- **パスワード(必須)**
  数字ボタン(1〜9、0)で4ケタのパスワードを入力します(パスワードを忘れたときは、「8888」を入力してください)。
- **EXIT**
  その他設定画面に戻ります。

視聴制限を一時解除する

視聴制限を厳しく設定しているときは、再生しようとしても全く見ることができないことがあります。このようなときは、視聴制限を一時解除することができます。

DVD ビデオを再生中に右の画面が表示されたら

1. **カーソル▲ (または ▼)で「一時解除する」を選び、決定を押す**
2. **設定したパスワードを数字ボタンで入力し、決定を押す**
   正しいパスワードが入力されると、視聴制限が一時的に解除されます。
   間違って入力した場合は、「違います。やり直してください」と表示されます。もう一度正しいパスワードを入力してください。
   - パスワードを3回間違えると、自動的に「EXIT」が選ばれます。

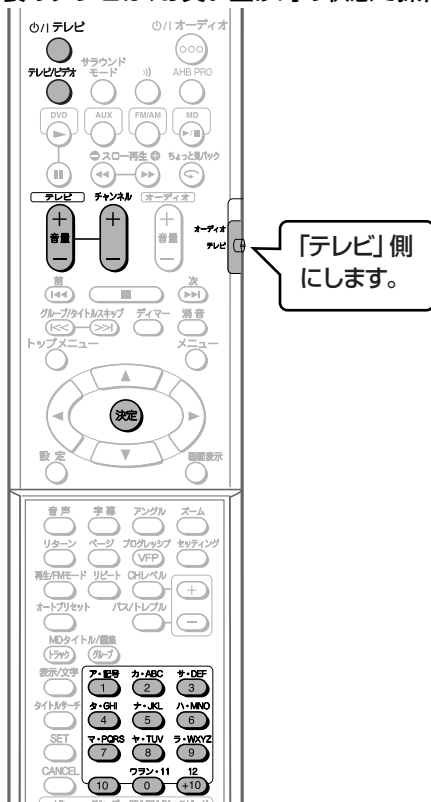
カントリー/エリアコード一覧と言語コード一覧

コード	カントリー/エリア
AD	Andorra
AE	United Arab Emirates
AF	Afghanistan
AG	Antigua and Barbuda
AI	Anguilla
AL	Albania
AM	Armenia
AN	Netherlands Antilles
AO	Angola
AQ	Antarctica
AR	Argentina
AS	American Samoa
AT	Austria
AU	Australia
AW	Aruba
AZ	Azerbaijan
BA	Bosnia and Herzegovina
BB	Barbados
BD	Bangladesh
BE	Belgium
BF	Burkina Faso
BG	Bulgaria
BH	Bahrain
BI	Burundi
BJ	Benin
BM	Bermuda
BN	Brunei Darussalam
BO	Bolivia
BR	Brazil
BS	Bahamas
BT	Bhutan
BV	Bouvet Island
BW	Botswana
BY	Belarus
BZ	Belize
CA	Canada
CC	Cocos (Keeling) Islands
CF	Central African Republic
CG	Congo
CH	Switzerland
CI	Côte d’Ivoire
CK	Cook Islands
CL	Chile
CM	Cameroon
CN	China
CO	Colombia
CR	Costa Rica
CU	Cuba
CV	Cape Verde
CX	Christmas Island
CY	Cyprus
CZ	Czech Republic
DE	Germany
DJ	Djibouti
DK	Denmark
DM	Dominica
DO	Dominican Republic
DZ	Algeria
EC	Ecuador
EE	Estonia
EG	Egypt
EH	Western Sahara
ER	Eritrea
ES	Spain
ET	Ethiopia
FI	Finland
FJ	Fiji
FK	Falkland Islands (Malvinas)
FM	Micronesia (Fedelated States of)
FO	Faroe Islands
FR	France
FX	France, Metropolitan
GA	Gabon
GB	United Kingdom
GD	Grenada
GE	Georgia
GF	French Guiana
GH	Ghana
GI	Gibraltar
GL	Greenland
GM	Gambia
GN	Guinea
GP	Guadeloupe
GQ	Equatorial Guinea
GR	Greece
GS	South Georgia and the South Sandwich Islands
GT	Guatemala
GU	Guam
GW	Guinea-Bissau
GY	Guyana
HK	Hong Kong
HM	Heard Island and McDonald Islands
HN	Honduras
HR	Croatia
HT	Haiti
HU	Hungary
ID	Indonesia
IE	Ireland
IL	Israel
IN	India
IO	British Indian Ocean Territory
IQ	Iraq
IR	Iran (Islamic Republic of)
IS	Iceland
IT	Italy
JM	Jamaica
JO	Jordan
JP	Japan
KE	Kenya
KG	Kyrgyzstan
KH	Cambodia
KI	Kiribati
KM	Comoros
KN	Saint Kitts and Nevis
KP	Korea, Democratic People’s Republic of
KR	Korea, Republic of
KW	Kuwait
KY	Cayman Islands
KZ	Kazakhstan
LA	Lao People’s Democratic Republic
LB	Lebanon
LC	Saint Lucia
LI	Liechtenstein
LK	Sri Lanka
LR	Liberia
LS	Lesotho
LT	Lithuania
LU	Luxembourg
LV	Latvia
LY	Libyan Arab Jamahiriya
MA	Morocco
MC	Monaco
MD	Moldova, Republic of
MG	Madagascar
MH	Marshall Islands
ML	Mali
MM	Myanmar
MN	Mongolia
MO	Macau
MP	Northern Mariana Islands
MQ	Martinique
MR	Mauritania
MS	Montserrat
MT	Malta
MU	Mauritius
MV	Maldives
MW	Malawi
MX	Mexico
MY	Malaysia
MZ	Mozambique
NA	Namibia
NC	New Caledonia
NE	Niger
NF	Norfolk Island
NG	Nigeria
NI	Nicaragua
NL	Netherlands
NO	Norway
NP	Nepal
NR	Nauru
NU	Niue
NZ	New Zealand
OM	Oman
PA	Panama
PE	Peru
PF	French Polynesia
PG	Papua New Guinea
PH	Philippines
PK	Pakistan
PL	Poland
PM	Saint Pierre and Miquelon
PN	Pitcairn
PR	Puerto Rico
PT	Portugal
PW	Palau
PY	Paraguay
QA	Qatar
RE	Réunion
RO	Romania
RU	Russian Federation
RW	Rwanda
SA	Saudi Arabia
SB	Solomon Islands
SC	Seychelles
SD	Sudan
SE	Sweden
SG	Singapore
SH	Saint Helena
SI	Slovenia
SJ	Svalbard and Jan Mayen
SK	Slovakia
SL	Sierra Leone
SM	San Marino
SN	Senegal
SO	Somalia
SR	Suriname
ST	Sao Tome and Principe
SV	El Salvador
SY	Syrian Arab Republic
SZ	Swaziland
TC	Turks and Caicos Islands
TD	Chad
TF	French Southern Territories
TG	Togo
TH	Thailand
TJ	Tajikistan
TK	Tokelau
TM	Turkmenistan
TN	Tunisia
TO	Tonga
TP	East Timor
TR	Turkey
TT	Trinidad and Tobago
TV	Tuvalu
TW	Taiwan
TZ	Tanzania, United Republic of
UA	Ukraine
UG	Uganda
UM	United States Minor Outlying Islands
US	United States
UY	Uruguay
UZ	Uzbekistan
VA	Vatican City State (Holy See)
VC	Saint Vincent and the Grenadines
VE	Venezuela
VG	Virgin Islands (British)
VI	Virgin Islands (U.S.)
VN	Viet Nam
VU	Vanuatu
WF	Wallis and Futuna Islands
WS	Samoa
YE	Yemen
YT	Mayotte
YU	Yugoslavia
ZA	South Africa
ZM	Zambia
ZR	Zaire
ZW	Zimbabwe

〈言語コード一覧〉

コード	言　語	コード	言　語	コード	言　語	コード	言　語
AA	アファル語	GD	スコットランドゲール語	MI	マオリ語	SL	スロベニア語
AB	アブハジア語	GL	ガルシア語	MK	マケドニア語	SM	サモア 語
AF	アフリカーンス語	GN	グアラニ語	ML	マラヤーラム語	SN	ショナ語
AM	アムハラ語	GU	グジャラード語	MN	モンゴル語	SO	ソマリ語
AR	アラビア語	HA	ハウサ語	MO	モルダビア語	SQ	アルバニア語
AS	アッサム語	HI	ヒンディー語	MR	マラータ語	SR	セルビア語
AY	アイマラ語	HR	クロアチア語	MS	マライ（マレー）語	SS	シスワティ語
AZ	アゼルバイジャン語	HU	ハンガリー語	MT	マルタ語	ST	セストゥ語
BA	バシキール語	HY	アルメニア語	MY	ミャンマー語	SU	スンダ語
BE	ベラルーシ語	IA	国際語	NA	ナウル語	SV	スウェーデン語
BG	ブルガリア語	IE	国際語	NE	ネパール語	SW	スワヒリ語
BH	ビハーリー語	IK	イヌピック語	NL	オランダ語	TA	タミール語
BI	ビスラマ語	IN	インドネシア語	NO	ノルウェー語	TE	テルグ語
BN	ベンガル語、バングラ語	IS	アイスランド語	OC	プロバンス語	TG	タジク語
BO	チベット語	IW	ヘブライ語	OM	（アフォン）オロモ語	TH	タイ語
BR	ブルトン語	JI	イディッシュ語	OR	オリヤー語	TI	ティグリニャ語
CA	カタロニア語	JW	ジャワ語	PA	パンジャブ語	TK	トゥルクメン語
CO	コルシカ語	KA	グルジア語	PL	ポーランド語	TL	タガログ語
CS	チェコ語	KK	カザフ語	PS	パシュトー語	TN	セツワナ語
CY	ウェールズ語	KL	グリーンランド語	PT	ポルトガル語	TO	トンガ語
DA	デンマーク語	KM	カンボジア 語	QU	ケチュア語	TR	トルコ語
DZ	ブータン語	KN	カンナダ語	RM	ラエティ - ロマン語	TS	ツォンガ語
EL	ギリシャ語	KO	韓国（朝鮮）語	RN	キルンディ語	TT	タタール語
EO	エスペラント語	KS	カシミール語	RO	ルーマニア語	TW	トウィ語
ET	エストニア語	KU	クルド語	RU	ロシア語	UK	ウクライナ語
EU	バスク語	KY	キルギス語	RW	キニヤルワンダ語	UR	ウルドゥー語
FA	ペルシャ語	LA	ラテン語	SA	サンスクリット語	UZ	ウズベク語
FI	フィンランド語	LN	リンガラ語	SD	シンド語	VI	ベトナム語
FJ	フィジー語	LO	ラオス語	SG	サンド語	VO	ヴォラピュク語
FO	フェロー語	LT	リトアニア語	SH	セルボアクロアチア語	WO	ウォロフ語
FY	フリジア語	LV	ラトビア語、レット語	SI	シンハラ語	XH	コーサ語
GA	アイルランド語	MG	マダガスカル語	SK	スロバキア語	YO	ヨルバ語
						ZU	ズール語

リモコンでテレビを操作する

本機のリモコンを使って、ビクター製テレビや他メーカーのテレビを操作することができます。
- **ビクター製のテレビは、お買い上げ時の状態で操作することができます。**

お知らせ
- リモコンの電池を交換したときは、メーカー設定をやり直してください。
- メーカーコードは変更される場合があり、右下表のメーカー製テレビでも操作できないことがあります。

テレビを操作する

ボタン	操作
⏻/I テレビ	テレビの電源を「入/切」する
テレビ/ビデオ	テレビの入力をビデオ入力に切換える
テレビ 音量 ＋/－　チャンネル ＋/－	テレビ音量の調節とチャンネルの変更

リモコンのオーディオ/テレビ切換スイッチを「テレビ」側にすると

数字ボタン	TV1～TV12を選びます。 0ボタンがTV11、 +10ボタンがTV12になります。

- テレビの操作が終わったら、**オーディオ/テレビ切換スイッチは「オーディオ」側に戻してください。**
  戻さないと、数字ボタンで本機の操作ができません。

ビクター製以外のテレビのとき

テレビのメーカーコードの設定

1 リモコンのオーディオ/テレビ切換スイッチを「テレビ」側にする

2 ⏻/I テレビ を押す
- ⏻/I テレビは**手順3**が終わるまで押したままにします。

3 決定 を押してから、下のメーカーのコード番号表を参考に、数字ボタンを使ってコード番号を入力する
- 複数のコードを持つメーカーの場合、機種によって動作するコード番号が異なります。順番に試してみて正しく動作するコード番号を選んでください。

例：サンヨー[04]の場合、0（ワヲン・11）➡ 4（タ・GHI）
松下[23]の場合、2（カ・ABC）➡ 3（サ・DEF）と押す

4 ⏻/I テレビ を離す
リモコンのメーカーコードの変更は終わりです。

メーカーのコード番号表

メーカー名	コード番号
ビクター	01、02、03
サンヨー	04、05、06
シャープ	07、08
富士通ゼネラル	09、10
ソニー	11、12、13
東芝	14
NEC	15
パイオニア	16
日立	17、18
フナイ	19、20、21、22
松下	23、24、25、26
三菱	27
アイワ	28、29
フィリップス	30
コルティナ	31、32、33、34

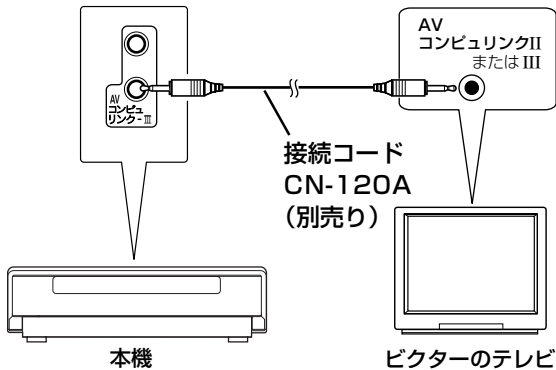
AVコンピュリンクの活用

テレビ、ビデオデッキ、ＤＶＤプレーヤー、ＡＶアンプなどいくつかの機器をつないで、再生するための接続をしても、操作はそれぞれ別々に行わなければならないわずらわしさがあります。ビクター製の機器の操作に連動してほかのビクター製機器を動作させることによって、簡単な操作を実現したものがAVコンピュリンク機能です。

接続と設定をする

モノラルミニプラグ付きの接続コードを使用し、ビクター製の各機器のＡ Ｖ コンピュリンク端子どうしを接続します。機器によっては、AV COMPU LINK端子と英語で表記されていますが、同様の端子です。
この機能を使うときは、モノラルミニプラグ付きの接続コード:CN-120Aをお買い求めのうえご使用ください。

- AVコンピュリンクモードの設定（DVD1～DVD3の切換え）は、「その他設定画面」（➡**73**ページ）で操作します。
- 接続する機器の取扱説明書も併せてお読みください。

■テレビとのAVコンピュリンク接続

テレビの入力端子	AV コンピュリンクモードの設定
ビデオ１のとき	DVD２
ビデオ2のとき	DVD３
ビデオ3のとき	DVD １

接続したテレビの入力端子名（ビデオ１～ビデオ3）に、正しく合わせて設定してください。

- ビデオ３に接続したときは、「DVD1」に設定してありますので、そのまま使えます。ただし、ビデオ3がDV／ムービー入力のときは、この端子にはAVコンピュリンクが働きません。

操作方法

本機を再生するだけで音や映像を鑑賞することができます。テレビやAVアンプの入力を切換えたり、あらかじめ電源を「入」にする操作は必要ありません。

1. テレビの主電源スイッチを「入」にする

2. 本機にディスクを入れる

3. 本機のDVD ►を押す

次の動作が自動的に行われます。
- テレビの電源が「**入**」になります。
- テレビの入力切換が本機を接続している外部入力（ビデオ1、ビデオ2、またはビデオ3）になります。
  なお、本機の電源を「**切**」にしてもテレビの電源は「**切**」にはなりません。

MDの制約について

MDは、従来のカセットテープや DAT とは異なる独自の方式で情報を記録しています。このMDの記録方式にはいくつかの制約があるため、次のような症状になることがあります。これらは製品の故障ではありませんので、ご了承ください。

症　状	原　因
MDに示された収録可能時間を使い切っていないのに「DISC FULL」が表示される。	MDは時間に関係なく、録音できる曲数(トラック数)に制限があります。曲(トラック)番号が255以上になる録音はできません。(録音可能な最大トラック数は254曲まで)
曲番号にも収録可能時間にも余裕があるのに「DISC FULL」が表示される。	部分的に消して録音し直す操作をくり返すと、ディスクのあちらこちらに空き部分ができます。このような録音をしたMDには、1曲のデータが空き部分に細かく分けて記録されます。録音中、分けられた部分が多くなると「DISC FULL」が表示されることがあります。 分けられて8秒以下(SP:標準モード時)の部分ができると、その曲は、「JOIN」でつなげることはできません。 また、その部分は消しても残り時間は増えません。 細かく分けて記録されている曲は、早送りや早戻しすると音が途切れることがあります。 また、MDLP規格による録音モードが異なる曲は、「JOIN」でつなげることができません。
「JOIN」機能が使えない。	
曲を消しても残り時間が増えない。	
早送り、早戻しをすると、音が途切れることがある。	
録音した時間と残り時間を足しても、MDに表示された収録可能時間にならない。	MDは、最低でも12秒間(SP:標準モード時)の連続したスペースがないと録音できません。そのため、短い空き部分のたくさんできたMDは、実際に録音できる時間は、短くなります。

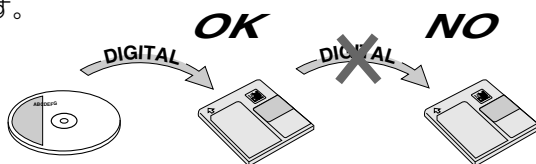
MDは、CDのクリアな音をデジタル録音することができます。ただし、こうして録音されたMDを他のMDに再びデジタル信号のまま他の機器でコピーすることはできないようになっています。つまり、「コピーのコピー」をつくることはできません。この決まりをSCMS(シリアル・コピー・マネージメント・システム)といいます。
本機は、この決まりに準拠して設計されています。

SCMS (Serial Copy Management System)

シリアル・コピー・マネージメント・システムとは、著作権保護のため、デジタルオーディオ機器間でデジタル信号のままコピーできるのは1世代だけと規定したものです。

あなたがラジオ放送やCD、テープなどから録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。
なお、この商品の価格には、著作権法の定めにより、私的録音補償金が含まれています。

私的録音補償金についてのお問い合わせ先:
社団法人　私的録音補償金管理協会
☎ 03−5353−0336(代)

OK　NO
DIGITAL　DIGITAL

ご注意
この規定により、一度デジタル録音されたMDからは、他の機器へデジタル録音することはできません。

倍速録音に関して(HCMS)

録音用MD(ミニディスク)は等速を超えるスピードで録音(コピー)することが可能です。このため著作権を保護するための規制が必要になります。
本機では、CDから一度倍速録音(等速を超える録音)した曲は、その曲の録音開始から74分が経過しないと、その曲の二度目の録音はできません。
例えば、CDの1曲目を倍速録音した場合、倍速録音が開始してから74分間は、そのCDの1曲目を再びMDに倍速および等速(ノーマルスピード)で録音することはできません。また、CDから倍速録音をする場合、録音開始から74分以内に合計で100曲以上録音することはできません。99曲までの録音ができます。

MD/ディスクのメッセージ

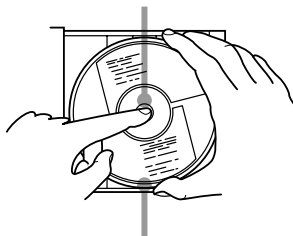
MDのメッセージ	意　味	処　置
CANNOT ENTRY!	曲を同じグループに登録しようとした。	正しい曲を選んでください(➡**64**ページ参照)。
CANNOT FORM!	グループをはさんでグループにする曲を選んでしまった。	グループをはさまないように曲を選んでください(➡**63**ページ参照)。
CANNOT GROUP!	グループに関する情報量の制限を超えている。(グループに関する情報は、タイトルの領域に記録されます)	それ以上のグループは作れません。(不要なディスク名や曲名は消してください)
CANNOT JOIN	録音モードが異なる曲、または8秒以下の短い曲をつなげようとした。	MDのシステム上の制約です。
CANNOT LISTEN	倍速録音中に音量を調節しようとした。	倍速録音中は、CDの音は聞けません。
CANNOT REC	ビデオCD/スーパービデオCDでPBC再生中に1トラック(曲)録音をしようとした。	PBCを「切」にして(➡**29**ページ参照)再生し、録音してください。
CANNOT TITLE	MDに合計1792文字を超えて入力しようとした。	それ以上のタイトルは入力できません。
READ ERROR	MDの目次(UTOC)情報が読み取れない。	電源を入れ直してください。
DISC FULL	ディスクの空き時間が足りない。トラック数が254を超える。	他の録音用MDに取り換えてください。
DISC PROTECTED	MDが誤消去防止状態のまま編集または録音をしようとした。	MDの誤消去防止つまみを閉じてください(➡**79**ページ参照)。
EMERGENCY STOP	録音中に異常が発生した。	■(停止)を押していったん停止してから、⏏(MD取り出し)を押してMDを取り出し、もう一度操作し直してください。
GROUP FULL	100以上のグループを作ろうとした。	グループは99まで作ることができます。
GROUP TRACK	グループ登録されている曲を選んで新しいグループを作ろうとした。	グループに登録されていない曲を選んでください(➡**63**ページ参照)。
LOAD ERROR	MDの入れ方がおかしい。	MDを正しく入れてください。
MD NO DISC	MDが入っていない。	MDを入れてください。
PLAY BACK	再生専用MDに録音・編集しようとした。	録音用MDに取り換えてください。
SCMS CANNOT COPY	CD-R/CD-RW(デジタルオーディオ)のコピーを作ろうとした。	アナログ録音にします(➡**53**ページ参照)。
HCMS CANNOT COPY	5倍速で録音した曲を、その曲の録音開始から74分以内に再録音しようとした。	著作権保護のため内部タイマーが働いています。74分待ってから録音してください(➡**51**ページ参照)
TRACK PROTECTED	トラックプロテクトがかかっている。	本機では解除できません。プロテクトをかけたときの機器で解除してください。

ディスクのメッセージ	意　味	処　置
CANNOT PLAY	再生できないディスクまたは傷の多いディスクを再生しようとした。	ディスクを交換してください。
NO AUDIO	不法コピーディスクの可能性があります。(音が出ません)	ディスクをお買い上げの販売店で確認してください。
LR ONLY	マルチチャンネル音声でダウンミックスが禁止されているトラックを再生している。	正常な動作です。
	サラウンドを「OFF」で再生している、またはヘッドホンを接続して再生している。	サラウンドを「ON」にして再生すると、表示が消えます。
MULTI CH	ダウンミックスが禁止されているマルチチャンネル音声を再生中にサラウンドを「OFF」にしようとした。	正常な動作です。サラウンドを「OFF」で再生させたいときは、一度停止してサラウンドを「OFF」にしてから、再生を始めます。

ディスク、MDの取り扱いについて

ディスクの取り扱いかた

•ケースからの出し入れ

① センターホルダーを押さえ

②演奏面（虹色に光っている面）に触れないように持って出す。

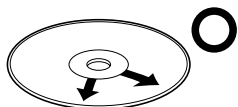
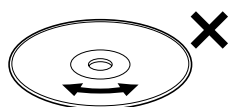
① 文字のある面を上にして…

② 上から押さえて入れる。

• ディスクにテープやシールなどを張ったり、字を書いたりしないでください。
• ディスクは曲げないでください。

• ハートや花などの形をしたシェイプCD（特殊形状のCD）は、絶対に使用しないでください。故障の原因となります。

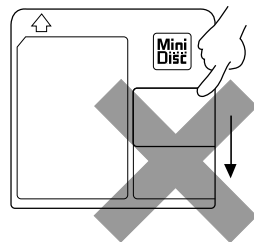
ディスクのお手入れ

再生する前に、再生面についたほこりやゴミ、指紋などを柔らかい布でふきとってください。
必ず内側から外側にふいてください。

必ず内側から外側へ

連続したキズは音飛びの原因となります。

•シンナーやベンジン、アナログレコード用のクリーナーなどは絶対に使用しないでください。

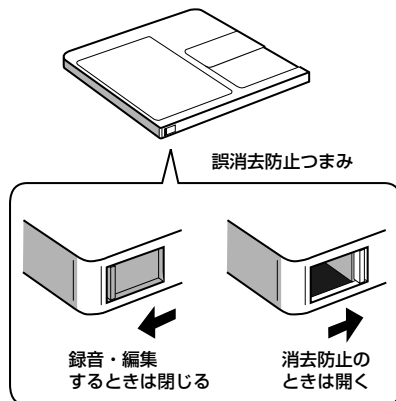
MDの取り扱いかた

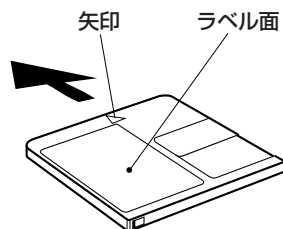
シャッターは開けないで

シャッターは開かないようにロックされています。
無理に開けようとするとMDがこわれます。

定期的にお手入れを

MDにほこりやゴミがついたときは、乾いたやわらかい布でふき取ってください。

大切な録音を消さないために

録音用MDには、大切な録音を間違って消さないための、誤消去防止つまみがついています。録音や編集が終わったら、カートリッジ側面の誤消去防止つまみをスライドさせ開いた状態にしておきます。新しく録音や編集をしなおすことができなくなります。録音や編集をしなおすときは、閉じた状態に戻してください。

お知らせ

• 曲名などを記入したラベルは、指定以外の位置に張らないでください。万一、ラベルエリアよりはみ出したり、はがれかかったままMDを挿入すると、故障の原因となります。
• MDは ⇨ や ▷ などの矢印に従って正しく入れてください。間違った方向で挿入すると、故障の原因となります。

故障かな？と思う前に

修理を依頼する前に、ちょっとお確かめください。

症　状	原　因	処　置	参照ページ
映像/音が出ない。	接続をまちがえている。	「接続」のページをご覧になり、正しく接続し直してください。	**16～18**
	ヘッドホンがつながれている。	ヘッドホンのプラグを抜く。	**13**
時刻表示が点滅している。	停電または、電源コードを抜いたため。	時計を合わせ直す。	**22**
ディスク/MDの再生が始まらない。	ディスク/MDが裏返しに入っている。	文字のある面が上になるように正しく入れる。	**28 44**
	レンズが結露している。	電源を「**入**」にしたまま1～2時間待ち、乾いてから使う。	
特定な箇所が正常に再生できない。	ディスクに傷や汚れがある。 MDにエラーが発生した。	ディスクまたはMDをクリーニングするか、または交換する。 MDを録音し直す。	**79**
入れたMDが出てきてしまう。	MDの入れ方が不完全なため。 すでにMDが入っている。	本体と平行にして、軽くMDを押して入れ直す。 MDを取り出してから操作する。	**44**
録音ができない。	誤消去防止状態になっている。	MDの誤消去防止つまみを閉じる。	**79**
雑音が多くて、放送がうまく受信できない。	アンテナの接続・設置が悪い。	アンテナの接続・設置をし直す。	**16～17**
	テレビやOA機器がそばにある。	テレビやOA機器などから離す。	•
タイマーがうまく働かない。	現在時刻が正しく合っていない。 タイマーが解除されている。	正しい時刻に設定し直す。 タイマー表示を確認して、設定し直す。	**22 69**
リモコンの数字ボタンで本機が操作できない	オーディオ/テレビ切換スイッチが「テレビ」側になっている。	オーディオ/テレビ切換スイッチを「オーディオ」側に戻す。	**15, 75**
電源を入れてもすぐに切れてしまう。	スピーカーコード（端子）がショートしてアンプに負担がかかりすぎている。	スピーカーコード（端子）がショートしていないか確認する。 それでも正しく動作しないときは、お買い上げの販売店にご相談ください。	•
サブウーハーの音声が出ない。	サブウーハーの電源スイッチが「**切**」になっている。	サブウーハーの電源スイッチを「**入**」にする。	**21**

● **上記の処置をしても正しく動作しないときは…**
本機はマイコンの働きで多くの動作を行っております。万一、雷や静電気等による動作の異常が発生したときやボタン類を押してもうまく動作しないときは、電源プラグをコンセントから抜き、しばらく待ってからつなぎ直してください。そのあと、時計を合わせ直してください。

お願い

- 本機の故障または不測の事態により、録音･再生およびディスク/MDの演奏などにおいて利用の機会を逸したために発生した損害等の補償については、ご容赦ください。

Q & A(よくあるご質問)

Q (ご質問)	A (回答)

ディスクについて

海外で購入したDVD ビデオやビデオCDのディスクを再生することができますか?	DVDビデオの場合は、リージョン番号(ローカル番号)が「ALL 」、または「2」を含んでいて、映像方式がNTSCまたはPALであれば再生できます。 ビデオCDの場合は、映像方式がNTSCまたはPALであれば再生できます。 ディスクのジャケットをご確認ください。
リージョン番号(ローカル番号)がないDVD ビデオを再生することができますか?	リージョン番号(ローカル番号)はディスクが規格に適合していることを表しています。規格を満たしていないDVDビデオは再生できません。

音声について

Dolby Digital EXと印刷されたディスクは再生できますか?	ドルビーデジタルと再生互換があるため、再生できます。 ただし、本来の効果を得たい場合は、対応のサラウンドデコーダー/デコーダー内蔵のアンプやレシーバーに、本機のデジタル音声出力端子を用いてつなぐ必要があります。その際、本機の音声設定画面の中の[デジタルOUT]設定を「ストリーム/PCM」に設定してください。
DTS ESと印刷されたディスクは再生できますか?	再生できます。 ただし、本来の効果を得たい場合は、DTS ES対応のサラウンドデコーダー/デコーダー内蔵のアンプやレシーバーに、本機のDVDデジタル出力端子を用いてつなぐ必要があります。その際、本機の音声設定画面の中の[デジタルOUT]設定を「ストリーム/PCM」に設定してください。
THXと印刷されているディスクは、どういうディスクですか?本機で再生できますか?	再生できます。 「THX」は、米国ルーカスフィルム社が設けた、高品位な映像・音声収録、または再生における独自の部門及び基準の名称で、その基準に適合したディスクや機器を表すものであり、収録フォーマット自体をさすものではありません。
MP3/WMAとオーディオCDの両方のフォーマットが一枚のディスクに録音されているときは、両方とも再生できますか?	そのような場合は、データCDフォーマットで収録されているため、オーディオCDのトラックは再生できません。MP3/WMAのトラックのみ再生できます。
ドルビーデジタルのディスクには、5.1chサラウンドとドルビーサラウンドという2種類のサラウンド音声が収録されていることがありますが、どう違いますか?	いずれもアメリカ・ドルビー研究所が開発したサラウンド音声の規格です。 ドルビーサラウンドは、サラウンド成分(2ch)を、通常のアナログステレオ音声(左/右)に重ねて記録し、ドルビーサラウンド、およびドルビープロロジックデコーダーによって音声を分離・再生します。 ドルビーデジタル(5.1chサラウンド)は、最大でフロント左、フロント右、センター、リア左、リア右、LFE(Low Frequency Effect:サブウーハーなどの低音信号用)の計6ch分の音声をデジタル化、圧縮した上で独立して記録し、ドルビーデジタルデコーダーによって再生します。 収録状況にもよりますが、一般的にはドルビーデジタルのほうがより優れた音場効果が得られます。

映像について

DVDビデオやビデオCDの映像に、細かいモザイクのようなものが出るのですが、これは故障ですか?	デジタル収録された動画特有のもの (ブロックノイズ) であり、本機の故障ではありません。

その他

本取扱説明書の操作通りに機能しません。	コンテンツ作成者の意図や構造上の制約等により、本機の操作を受け付けない場合があります。
DVDビデオの映像をビデオテープに録画できますか?	ほとんどのDVDビデオはコピー禁止処理がされてるので、ビデオテープへの録画はできません。
本機で録画はできますか?	録画はできません。

保証とアフターサービス

保　証　書（別添）

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管しておいてください。

保　証　期　間

お買い上げの日から１年間

補修用性能部品の最低保有期間

マイクロコンポーネントMDシステムの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後８年です。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談やご不明な点は、**お買い上げの販売店**または**83**ページの**「ビクターサービス窓口案内」**をご覧のうえ最寄りのサービス窓口にお問い合わせください。

修理を依頼されるときは　出張修理

80ページの**「故障かな?と思う前に」**に従ってお調べください。それでもなお異常のあるときは使用を中止し、**お買い上げの販売店**に修理をご依頼ください。このとき不具合が発生したディスクなどのメディアも、一緒にご用意ください。

保　証　期　間　中　は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、お客様のご要望により有料で修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品　　名	マイクロコンポーネントMDシステム
型　　名	NX-DV5-S
お買い上げ	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご　住　所	付近の目印等も併せてお知らせください
お　名　前	
電話番号	
訪問ご希望日	

便利メモ	お買い上げ店名	☎（　　）　－

修　理　料　金　の　仕　組　み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、測定機器等設備費、故障診断、修理および部品交換、調整、点検にかかる費用です。

＋

部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

＋

出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

■ この製品の製造時期は本体の背面に表示されております。

「JIS C 61000 －３－２ 適合品」

JIS C 61000 －３－２ 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第３－２部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当りの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

ビクターサービス窓口案内 (ビクターサービスエンジニアリング株式会社)

ビクター製品のアフターサービスはお買い上げの販売店へご相談ください

ご転居等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

都道府県名	窓口名	TEL	所在地
北海道			
北海道	札幌 S.C.	(011) 898-1180	札幌市厚別区厚別東五条1-2-29
	旭川 S.C.	(0166) 61-3659	旭川市神居二条3-2-15
	北見 S.S.	(0157) 25-8557	北見市山下町4-7-19
	釧路 S.S.	(0154) 24-0797	釧路市松浦町3番3号
	帯広 S.S.	(0155) 24-4493	帯広市東6条南12-11
	函館 S.S.	(0138) 52-5324	函館市五稜郭町4-16函館五稜郭MFビル1F
東北			
青森	青森 S.C.	(017) 723-2261	青森市桂木4-6-17
	八戸 S.S.	(0178) 44-4521	八戸市諏訪2-2-36
	弘前 S.S.	(0172) 28-0165	弘前市高田1-13-1
岩手	盛岡 S.C.	(019) 637-0121	盛岡市津志田9地割24-1
	水沢 S.S.	(0197) 22-2773	水沢市天文台通り3-12
秋田	秋田 S.C.	(018) 824-3189	秋田市山王中園町4-1
	大館 S.S.	(0186) 43-0980	大館市美園町5-6
	横手 S.S.	(0182) 32-8873	横手市赤坂字大道向3-6
宮城	仙台 S.C.	(022) 287-0151	仙台市若林区六丁の目西町7-13
山形	山形 S.C.	(023) 642-0279	山形市松山3-12-18
	酒田 S.S.	(0234) 26-7145	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡山 S.C.	(024) 952-6331	郡山市堤1-3
	いわき S.S.	(0246) 27-7991	いわき市内郷御台境町鶴巻6-1
関東・甲信越			
群馬	前橋 S.C.	(027) 255-5921	前橋市大渡町1-10-1 日本ビクター（株）前橋工場第二棟1F
栃木	宇都宮 S.C.	(028) 638-1639	宇都宮市東宿郷3-5-22
茨城	水戸 S.C.	(029) 246-1560	水戸市元吉田町1030 日本ビクター（株）水戸工場技術棟1F
千葉	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	千葉 S.C.	(043) 202-0263	千葉市中央区中央3-9-16 三井生命千葉中央ビル1F
	柏 S.C.	(04) 7175-4322	柏市豊四季512-10-67
	浦安 S.S.	(047) 353-6189	浦安市当代島2-13-27
東京	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	本郷 S.C.	(03) 5684-8254	文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル1F
	練馬 S.C.	(03) 3993-7520	練馬区豊玉南1-19-1
	大田 S.C.	(03) 3727-9385	大田区北千束2-20-6
	八王子 S.C.	(0426) 46-6914	八王子市大和田町2-9-6
	【業務用機器専門】のご相談窓口		
	CSセンター	(03) 5631-2235	墨田区八広五丁目11-1
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	大宮 S.C.	(048) 654-5241	さいたま市北区東大成町2-658-1
	熊谷 S.S.	(048) 553-5105	行田市城西2-7-39ツインハイツ石山B
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	横浜 S.C.	(045) 651-0403	横浜市中区翁町1-3-1
	川崎 S.C.	(044) 975-1879	川崎市宮前区南平台3-2（第2石原ビル）
	平塚 S.C.	(0463) 36-2160	平塚市南原2-4-5
	相模原 S.C.	(042) 776-2052	相模原市古淵3-7-4
	横浜 T.C.	(046) 234-4500	海老名市東柏ヶ谷6-19-26
山梨	甲府 S.S.	(055) 237-4016	甲府市湯田2-11-5
新潟	新潟 S.C.	(025) 242-3431	新潟市明石1-2-19
	長岡 S.S.	(0258) 24-8391	長岡市下下条2-1366-1
長野	長野 S.C.	(026) 221-6583	長野市川合新田962-1
	松本 S.S.	(0263) 25-9165	松本市庄内2-4-21
東海			
静岡	静岡 S.C.	(054) 282-4141	静岡市中田本町62-31 中田ビル1階
	沼津 S.S.	(055) 922-1557	沼津市筒井町6-5
	浜松 S.S.	(053) 421-3441	浜松市北島町785
愛知	名古屋 S.C.	(0568) 25-3235	西春日井郡西春町九之坪鴨田121-1
	三河 S.C.	(0564) 25-0321	岡崎市葵町2-23 宝ビル101号室
	豊橋 S.S.	(0532) 64-0815	豊橋市多米東町1-1-1
岐阜	岐阜 S.S.	(058) 274-1947	岐阜市宇佐南3-1-28
三重	三重 S.S.	(0593) 52-0841	四日市市堀木2-15-2
	津 S.S.	(059) 229-7780	津市大字藤方485-18

都道府県名	窓口名	TEL	所在地
北陸			
富山	富山 S.S.	(076) 425-2397	富山市二口町四丁目1-3
石川	金沢 S.C.	(076) 269-4821	金沢市新保本四丁目65-17
福井	福井 S.S.	(0776) 53-6916	福井市西開発3-211
近畿			
滋賀	滋賀 S.S.	(077) 582-5812	守山市浮気町268
京都	【出張修理専門】のご相談窓口		
	西日本コールセンター	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	京都 S.C.	(075) 644-0247	京都市伏見区深草下川原町31-1
京都北部	福知山 S.S.	(0773) 22-8664	福知山市厚東町145-2
奈良	【出張修理専門】のご相談窓口		
	西日本コールセンター	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	奈良 S.S.	(0742) 35-0935	奈良市大宮町6-3-10藤本ビル1F
大阪	【出張修理専門】のご相談窓口		
	西日本コールセンター	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	大阪 S.C.	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	堺 S.C.	(072) 254-2881	堺市百舌鳥梅町3丁目21-2 伊助ハイツ
	【業務用機器専門】のご相談窓口		
	メンテナンスセンター	(06) 6304-6715	大阪市淀川区田川2-4-28
和歌山	和歌山 S.S.	(073) 472-6799	和歌山市太田430-8
	田辺 S.S	(0739) 22-9976	田辺市湊1581-12
兵庫中東部	【出張修理専門】のご相談窓口		
	西日本コールセンター	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	神戸 S.C.	(078) 252-0562	神戸市中央区磯上通3-2-16
兵庫西部	姫路 S.S.	(0792) 34-3833	姫路市中地南町11-1
中国			
岡山	岡山 S.C.	(086) 243-1566	岡山市西古松西町8-23
広島	広島 S.C.	(082) 243-9839	広島市中区光南3-9-17
	福山 S.S.	(084) 931-6984	福山市南蔵王町3-5-15
山口	山口 S.C.	(083) 973-3708	吉敷郡小郡町花園町5-28
	徳山 S.S.	(0834) 27-1331	周南市野上町2-35
島根	山陰ビクター販売（株） 松江 S.C.	(0852) 31-8900	松江市学園1-16-39
鳥取	山陰ビクター販売（株） 鳥取 S.S.	(0857) 23-2151	鳥取市千代水1丁目22-1
四国			
香川	高松 S.C.	(087) 866-1200	高松市田村町205-1
徳島	徳島 S.S.	(088) 622-7387	徳島市沖浜2-37
高知	高知 S.S.	(088) 882-0546	高知市高須新町4-1-43
愛媛	松山 S.C.	(089) 923-0372	松山市中央1-4-12
	宇和島 S.S.	(0895) 20-1018	宇和島市坂下津甲407-40
九州・沖縄			
福岡佐賀	福岡 S.C.	(092) 431-1261	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米 S.S.	(0942) 39-3495	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州 S.C.	(093) 921-3981	北九州市小倉北区片野2-15-12
長崎	長崎 S.C.	(095) 862-5522	長崎市城山町9-13
	佐世保 S.S.	(0956) 33-5568	佐世保市木風町1467-2
大分	大分 S.C.	(097) 543-1422	大分市西大道3-1-1
熊本	熊本 S.C.	(096) 353-4536	熊本市近見町8-1-10
宮崎	宮崎 S.S.	(0985) 24-5401	宮崎市霧島町3-59
	延岡 S.S.	(0982) 35-7077	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島 S.C.	(099) 282-8818	鹿児島市田上七丁目9-8
沖縄	沖縄 S.C.	(098) 898-3631	宜野湾市真志喜1-13-16

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。　1004

●略号について　S.C.はサービスセンターの略称です。
S.S.はサービスステーションの略称です。
T.C.はテクニカルセンターの略称です。

主な仕様 —本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。—

■ MD/DVDレシーバー(CA-NXDV5-S)

アンプ部

実用最大出力	フロント：30W+30W (10%THD、4Ω)
	サラウンド：30W+30W (10%THD、4Ω)
入力端子	
<アナログ>	AUX×1系統、500mV/47kΩ
<デジタル>	デジタル光入力×2、 −23dBm〜−15dBm (光角型ジャック) (サンプリング周波数32kHz/44.1kHz/48kHzに対応)
出力端子	
<アナログ>	フロントスピーカー×1系統 適合インピーダンス 4Ω〜16Ω サラウンドスピーカー×1系統 適合インピーダンス 4Ω〜16Ω ヘッドホン出力×1 適合インピーダンス 16Ω〜1kΩ サブウーハー出力×1
<デジタル>	DVD/CDデジタル光出力×1 −23dBm〜−15dBm (光角型ジャック)
<その他>	AVコンピュリンク×2(φ3.5)
ビデオ出力部	映像出力×1 1.0V(p-p)/75Ω、同期負 S1/S2映像出力×1 Y出力：1.0V(p-p)/75Ω、同期負 C出力：0.286V(p-p)/75Ω D2映像出力×1 Y出力：1.0V(p-p)/75Ω CB/CR出力：0.7V(p-p)/75Ω
映像信号方式	JEITA標準、NTSCカラーテレビジョン方式(インターレース方式/プログレッシブ方式選択可)

DVDプレーヤー部

再生可能ディスク	DVDビデオ、DVDオーディオ、オーディオCD、ビデオCD、スーパービデオCD、CD-R/CD-RW(オーディオCD、ビデオCD、スーパービデオCD、MP3/WMA/JPEGフォーマット)、DVD-R(ビデオフォーマット)、DVD-RW(ビデオフォーマット)

MDレコーダー部

形式	ミニディスクデジタルオーディオシステム
記録方式	磁界変調オーバーライト方式
再生時間	録音モードSP　：80分
(MD80使用)	録音モードLP2：160分 録音モードLP4：320分
サンプリング周波数	44.1kHz
音声圧縮方式	ATRAC/ATRAC3(MDLP)方式
チャンネル数	2チャンネル・ステレオ

チューナー部

受信周波数	FM：76.00MHz〜108.00MHz AM：531kHz〜1,629kHz
アンテナ	FM：75Ω不平衡型 AM：ループアンテナ

タイマー部

タイマー形式	1プログラム動作(ONCE REC/DAILY切換可能)
スリープタイマー	10、20、30、60、90、120、150分(オートディマー)
時刻表示	24時間表示

共通部

電源電圧	AC 100V(50Hz/60Hz共用)
消費電力	電源「入」時 45 W 電源「待機」時 0.8 W(DISPLAY OFF)
最大外形寸法	幅260 mm × 高さ80 mm × 奥行358 mm
質量	約 3.8 kg

■ スピーカー

フロント用(SP-NXDV5F-S)

形式	2ウェイ3スピーカーバスレフ型、防磁形(JEITA)
使用スピーカー	低音用　：6cm コーンスピーカー×2 中高音用：3cm コーンスピーカー×1
最大入力	30W(JIS)
定格インピーダンス	4Ω
再生周波数帯域	80Hz〜40kHz
出力音圧レベル	80dB/W·m
最大外形寸法	幅 84 mm × 高さ 209 mm × 奥行 89 mm 付属スタンド使用時： 幅 103 mm × 高さ 272 mm(低)、282 mm(高) × 奥行 113 mm
質量	約 0.87 kg(1本) 約 1.1 kg(スタンド使用時)

センター/サラウンド用(SP-NXDV5S-S)

形式	1ウェイバスレフ型、防磁形(JEITA)
使用スピーカー	6 cm コーンスピーカー
最大入力	30W(JIS)
定格インピーダンス	4Ω
再生周波数帯域	85Hz〜20kHz
出力音圧レベル	78dB/W·m
最大外形寸法	幅 120 mm × 高さ 70 mm × 奥行 93 mm(横置き時、フット含まず)
質量	約 0.45 kg(1本)

付属スタンド使用時(2本組み合わせ)

最大外形寸法	幅 242 mm × 高さ 81 mm × 奥行 97 mm
質量	約 1.3 kg

パワードサブウーハー(SP-DWDV5-S)

形式	バスレフ型、防磁形(JEITA)
使用スピーカー	14cm コーンスピーカー
再生周波数帯域	30Hz〜200Hz
入力端子	ピンプラグ×2、入力インピーダンス 50kΩ
内蔵アンプ実用最大出力	30W(JEITA、4Ω)
電源電圧	AC 100V、50Hz/60Hz
消費電力	18W
最大外形寸法	幅 172 mm × 高さ 268 mm × 奥行 278 mm
質量	約 5.1 kg

付属品 ：➡8 ページ参照

- JEITAは、電子情報技術産業協会の規格による数値です。
- 本機は、ドルビーラボラトリーズの米国および外国特許に基づく許諾製品です。

用語集

英字・数字

B.S.P.
ＤＶＤオーディオの静止画像には、オーディオ再生に合わせて自動的に表示されるもののほかに、ユーザーが任意選択できる画像が収録されている場合があります。このような画像をB.S.P. (Browsable Still Picture)と呼びます。

DTS (Digital Theater System)
サラウンド方式の一つで、チャンネル数はドルビーデジタルと同じ最大5.1chです。音声圧縮率を低くしたフォーマットのため、音に厚みのあるノイズの少ない再生が可能です。

Dレンジコントロール
ドルビーデジタルで収録されたDVDビデオの場合、大音量シーンでテレビの音量を下げても、セリフなどの比較的小さな音を明瞭に聞き取ることができる機能です。

JPEG（Joint Photographic coding Experts Group）
静止画情報圧縮フォーマットの一つで、インターネットやデジタルカメラなどに広く利用されています。

MLP（Meridian Lossless Packing）
DVDオーディオに採用されているマルチチャンネル音声圧縮方式の名称です。圧縮比率は約1/2の可逆データ圧縮方式で完全に元のデータに復元できる圧縮方式です。高音質での再生を可能にしています。

MP3（MPEG-1 Audio Layer-3）
音声情報圧縮の国際規格で、音声データを元の音質を大きく損なうことなく、約1/10に圧縮することができるフォーマットです。

MPEGオーディオ
サラウンド方式の一つで、音声データを圧縮し、最大7.1chまで対応しています。

NTSC
日本やアメリカで採用されているテレビ／ビデオ方式です。ヨーロッパなどでは別の方式（PAL あるいはSECAM ）を採用しています。フレーム数や走査線数が異なるため、方式間の互換性はありません。

PBC（プレイバックコントロール）
ビデオCD （バージョン2.0）に記録されている、再生をコントロールするための信号。PBC 対応ビデオCD に記録されているメニュ－画面を使って、対話型のソフトや検索機能を持ったソフトなどが楽しめます。また、高精細な静止画が収録されているビデオＣＤでは、動画の4 倍以上の解像度で静止画像を再生します。

VFP（ビデオファインプロセッサー）機能
映像の微妙なチューニング（調整）を可能にする当社独自の機能です。ソフトやお部屋の状態など、お好みに応じ映像の明るさやコントラスト、中間の明るさが選べるガンマ補正などの項目が調節できます。これまで難しかった映画フィルムの質感にも迫る、なめらかで階調が深い映像表現の追求も可能にしました。

WMA（Windows Media® Audioの略）
米国Microsoft社の開発した音声圧縮フォーマットです。

あ

インターレーススキャン方式（飛び越し走査）
従来の映像方式で、主にテレビで使われます。

か

コンポーネント
ビデオ信号方式の一つで、光の3 原色の信号（R/G/B）や、それを規準により効率よく変換された映像信号（色差信号: Y / CB/CR）をさします。各々別々の信号線で伝送するため、高画質で伝送することができます。

さ

スクリーンセーバー
長い時間、静止画を移しているとテレビ画面が焼き付きをおこし静止画の残像が残ってしまうことがあります。これを防止するのがスクリーンセーバー機能です。

た

ダイナミックレンジ
音声レベルの1番大きい部分と1番小さいレベルの差をいいます。

ダウンミックス
サラウンド方式（ 3チャンネル以上）で記録されたマルチチャンネル音声トラックを、ステレオ2チャンネル音声にミックスして再生する機能をいいます。

ドルビーサラウンド
サラウンド方式の一つ。フロント･サラウンド計4ｃｈ分の音声信号を、いったん2ｃｈで記録し、専用のデコーダーを通し再生時にはもとの4chに戻します。2ch記録のためステレオ機器につないでも違和感のない再生が可能な方式です。

ドルビーデジタル
サラウンド方式の一つ。最大フロント3ch、サラウンド2ch、およびサブウーハー0.1ch の5.1chまで対応しています。

は

パケットライト方式
データをCD-R/RWに記録する方法の一つで、ディスクの空き容量に応じてトラックをさらに分割して記録します。本機では、この方式で記録されたCD-R/RWディスクは再生できません。

プログレッシブスキャン方式（順次走査）
ＤＶＤビデオなどで使われている映像方式で、インターレーススキャン方式よりも、ちらつきのない高品位の映像をお楽しみいただけます。

ら

リージョン番号(再生可能地域管理)
あらかじめ設定された地域(リージョン)についてのみ、再生を可能とするシステムのことです。ディスクに設定されたリージョン番号と、ＤＶＤ プレーヤーのリージョン番号が合わない場合、再生することはできません。

リジューム再生
一度再生を中断したあと、中断した場所から再び再生を開始することをいいます。

リニアPCM 音声
アナログ音声信号をデジタル信号に変換して扱う方式の一つで、変換に際して圧縮を全くしない方式。

索引

数字・英字

ア

カ

サ

タ

ハ

マ

ラ

別売りのオプション品

品名	品番
• RCAピンコード	:CN-180G (1 m)
• 光デジタルケーブル	:XN-110SA
• Sビデオコード	:VC-S110E
• D端子コード	:VX-DS110(Dプラグ~Dプラグ)
	:VX-DS210(Dプラグ~ピンプラグ×3)
• 接続コード(ミニプラグ)	:CN-120A(1.5m)
• DVDレンズクリーナー	:CL-DVDLW
	:CL-DVDLA
• MDレンズクリーナー	:CL-MLA
• アンテナコネクター	:VZ-71A(75Ω/300Ω)
• FMフィーダーアンテナ	:CN-511A(300Ω) (アンテナコネクター:VZ-71Aと一緒に使います。)
• 電源コード	:CN-325A(長さ1.8m)
• フロントテレビサイドスタンド	:LS-THA10VJ(2本1組)
• サテライトスピーカースタンド	:LS-SP103FJ(2本1組)

■ 別売りのオプション品は、お買い上げの販売店でお求めください。
品番は変更されることがあります。

ご相談や修理は

製品についてのご相談や修理のご依頼は、
お買い上げの販売店にご相談ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記の相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談 ビクターサービスエンジニアリング株式会社	お買い物相談や製品についての全般的なご相談 お客様ご相談センター
83ページの「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。	フリーダイヤル 0120−2828−17 携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は 電話 (045)450-8950 FAX (045)450-2275 〒221-8528 横浜市神奈川区守屋町3-12

ビクターインターネットホームページアドレス http://www.victor.co.jp/

日本ビクター株式会社
AV&マルチメディアカンパニー
〒221-8528 横浜市神奈川区守屋町3-12

1204TNMNATJEM